

武蔵大学国際教養学部国際教養学科

設置の趣旨等を記載した書類

1. 設置の趣旨及び必要性	2
2. 学部・学科等の特色	7
3. 学部・学科等の名称及び学位の名称	10
4. 教育課程の編成の考え方及び特色	11
5. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件	18
6. 企業実習や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画	22
7. 入学者選抜の概要	25
8. 教員組織の編制の考え方及び特色	29
9. 施設、設備等の整備計画	31
10. 管理運営	34
11. 自己点検・評価	36
12. 情報の公表	37
13. 教育内容等の改善を図るための組織的な取組	44
14. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	46

設置の趣旨等を記載した書類

1. 設置の趣旨及び必要性

(1) 設置の趣旨及び必要性

武蔵大学(以下、「本学」という。)は、1922年に創立した、わが国初の私立の七年制高等学校である旧制武蔵高等学校をルーツとしている。2022年4月の学園創立百周年に向け、第三次中期計画(2016～2021年)において大学の目指す新しいビジョンを「異文化を理解し未来を創造する教養あるグローバル市民の育成～創立100周年に向け原点に立ち返り、学園建学の三理想の継承と未来への変革を目指す～」と定めた。このビジョンのもと、新たに「武蔵大学のグローバル教育方針」を定めるとともに、グローバル化に向けたプログラムやコースの新設、交換留学協定校の拡充、教員編制のグローバル化等を推し進めてきた。

グローバル人材の必要性に関しては、グローバル人材の育成とそのような人材が活用される仕組みの構築を目的として設置されたグローバル人材育成推進会議が、2012年6月4日にまとめた「グローバル人材育成戦略(グローバル人材育成推進会議 審議まとめ)」においても、グローバル人材の継続的育成や国際的に誇れる大学教育システムの確立について指摘されている【資料1】。

既設学部を設置しているグローバル化に資するプログラムやコースは、各学部の教育課程の一部であり、履修者数に上限を設けなければならないことや開講科目等の多様性という点では不十分であるため、教育研究組織の見直しや教育内容のさらなる充実が必要であると認識した。具体的には、経済学部の「ロンドン大学と武蔵大学とのパラレル・ディグリー・プログラム(以下、「PDP」という。)」と、人文学部の「グローバル・スタディーズコース(以下、「GSC」という。)」を既設学部から独立させ、このプログラムとコースを基礎とした国際教養学部国際教養学科を新設し、世界を牽引するグローバルリーダーとなり得る人材の養成をいっそう推進することとした。国際教養学部は、原則として英語で授業を実施し、リベラルアーツ&サイエンス教育を通じて、幅広い教養と深い専門知識、コミュニケーション能力の修得を目指し、グローバル化した社会からの要請や文理の枠組みを超えた学術研究の分野に対応する。

また、2018年12月4日に一般社団法人日本経済団体連合会から発表された「今後の採用と大学教育に関する提案」において、学生に求める知識・能力として、リベラルアーツ、語学(英語)力/情報リテラシー、社会人の資質として、創造性、行動力、論理的思考能力、コミュニケーション能力、協調性等、その他、地球規模課題や世界情勢への関心、学外活動や社会経験を評価すると述べられている。これらは、本学部の教育研究上の目的とも合致するものであり、本学部の設置の必要性を示している【資料2】。

国際教養学科には専門性を身につけるために経済経営学専攻とグローバルスタディーズ専攻の2

専攻を設置する。各専攻の必要性については、以下のとおりである。

〔経済経営学専攻〕

グローバル化の進展のなかで社会とビジネスそして、学術のあり方も変化しており、経済学、経営学の専門的な知識の上に、英語コミュニケーション力を有し、論理的思考と統計的手法により適切な判断を下すことができる人材が求められている。経済経営学専攻は、こうした社会の要請に応えるため、2015年度に経済学部で開設した、本学に在学しながら武蔵大学の学位、即ち学士(経済)とロンドン大学の学位(BSc in Economics and Management)を取得できるPDPを発展させたものである。また、学生のニーズに応えるため、入学者全員にPDPの履修機会を確約する。

本専攻は、深い専門知識、統計的手法、英語運用能力、思考力を身につけるとともに、ゼミナールを通じてコミュニケーション能力を磨き、グローバル化した社会において、英語で議論し、様々な問題について解決策を見出せるリーダーとなり得る人材を養成するために設置する。

〔グローバルスタディーズ専攻〕

グローバル化した社会では、環境問題、貧困問題、人権問題、文化的対立等、国家や民族の枠組みを超えた課題が数多く存在しており、それらの課題を国籍や民族、文化の壁を乗り越えて解決できる人材が求められている。グローバルスタディーズ専攻は、海外留学等を通じて培った高度な英語運用能力やコミュニケーション能力を駆使し、グローバルイシュー(地球規模の課題)に向き合う人材の養成のために人文学部で2017年度に開設したGSCを発展させたものである。

本専攻は、グローバル化した社会で活躍するための知識を修得するためにGlobal Relations、Global Communication Studies、Global Cultural Studiesの3つの分野を設ける。それらの知識をもとに、留学や海外でのサービスマーケティングといった実践的な活動を通じて、異文化や多様性を理解し、将来、グローバル化した社会で顕在化する社会的・文化的諸問題に主体的に取り組み、解決できる人材を養成するために設置する。

(2) 養成する人材像・教育研究上の目的

本学部は、従来の日本の大学の教育スタイルにとらわれない世界水準を追求した教育を施し、グローバル化した社会での競争や協働に参画するグローバルリーダーとなり得る人材の養成を目指す。ツールとしての英語運用能力を必須とし、加えて、論理的に考え、議論を厭わず、他者の考えを尊重しながらも説得できるコミュニケーション能力に長け、幅広い教養と深い専門知識を備えた人材を養成する。なお、教育研究上の目的(人材養成の目的)は、以下のとおりである。

■教育研究上の目的(人材養成の目的)

〔学部〕

国際教養学部は、大学の教育の基本目標に基づき、英語を用いたリベラルアーツ&サイエンス教育を通じて、幅広い教養と深い専門知識に基づくグローバル化した社会への理解とともに、高度な英語コミュニケーション力を涵養することを教育研究上の目的とし、他者尊重の精神に基づく協働力を備え、イノベーションの推進や危機の克服の先頭に立つことのできるグローバルリーダーの養成を人材養成の目的とする。

〔経済経営学専攻〕

経済経営学専攻は、経済学、経営学の深い専門知識に加え、数学や統計学の知識、批判的思考力(クリティカル・シンキング)や論理的に考える能力を身につけ、さらにゼミナールを通じてプレゼンテーションやディスカッションの技術、協働する力を養い、海外体験を重ねて、グローバル化した社会、ビジネス及び学術研究の世界でリーダーシップを発揮しうる人材の養成を目的とする。

〔グローバルスタディーズ専攻〕

グローバルスタディーズ専攻は、Global Relations、Global Communication Studies、Global Cultural Studies の深い専門知識と異文化理解力、そして批判的思考力(クリティカル・シンキング)や高度な英語運用能力を身につけ、それらを用いてグローバル化した社会で生じている諸問題を他者と協働しながら解決できる人材の養成を目的とする。

この教育研究上の目的(人材養成の目的)を達成するために、学部として以下のディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)を定めている。加えて、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、後述するカリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)に基づき、科目を配置し、学部のディプロマ・ポリシーに対応した育成する能力がどの科目によって身につくのかをカリキュラム・マトリックスにより明示する【資料3】。

■ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

〔学部〕

国際教養学部は、武蔵大学の教育の基本目標を実現するために、本学部が設定した履修すべき科目と卒業必要単位124単位を修得し、以下に掲げた知識・技能、態度等を身につけた学生に対し、専攻別に経済経営学専攻では学士(経済経営学)、グローバルスタディーズ専攻では学士(グローバルスタディーズ)を授与する。

- (1) 総合科目・外国語科目・専門科目の科目区分を包摂するリベラルアーツ&サイエンスの精神に従い、幅広くかつ深く学ぶ態度を身につけていること

- (2) 自然科学、人文科学、社会科学にまたがる学際的な知識・教養・実践力・創造力を身につけ、卒業後も知的好奇心を持って学び続ける力を有していること
- (3) 多文化環境の様々な場面において英語を駆使する力を身につけていること
- (4) 学びの足場としての日本から世界に問いかける姿勢を持って多様な文明、地球環境、政治と国際関係、経済とテクノロジー、社会と文化の動向に関する知識を修得していること
- (5) 深い専門知識をもとに、批判的思考、異文化理解力、英語運用能力を駆使し、情報収集を効果的に行い有用な情報を得るとともに、データや資料をもとに知的創造力を発揮し、問題発見・課題解決に至る力を身につけていること
- (6) ゼミナールで主体的に学ぶなかで、グローバルリーダーとして自らの見解や意見を他者にわかりやすく伝え、また他者の意見に耳を傾け、協働の精神を持って生産的な議論を行う態度と力を身につけていること

〔経済経営学専攻〕

数学及び統計学を基礎とし、経済学、経営学を中心とした専門領域において学部共通のディプロマ・ポリシーで示した知識・技能、態度や論理的思考、統計的手法等を身につけ、所定の単位を修得した者に「学士(経済経営学)」の学位を授与する。なお、この専攻に所属する学生は、ロンドン大学との協定をもとに本学部が開講している授業を履修することで同大学の学位も取得することができる。

〔グローバルスタディーズ専攻〕

人文・社会科学の融合領域、即ち国際関係の研究、現代世界の諸地域における多種多様な英語の言語学的研究、国境を越えた英語文学・英語メディアの研究、現代社会の研究、越境的な視点の比較文化研究と日本研究において、学部共通のディプロマ・ポリシーで示した知識・技能、態度等を身につけ、所定の単位を修得した者に「学士(グローバルスタディーズ)」の学位を授与する。

(3)組織として研究対象とする中心的な学問分野

本学部の各専攻が研究対象とする学問分野は以下のとおりである。

〔経済経営学専攻〕

本専攻は、a.経済学、b.経営学、c.政治学が中心的な学問分野であり、具体的には以下のとおりである。

a. 経済学

具体的には、ミクロ経済学、マクロ経済学、統計学・計量経済学を基盤とし、応用分野として開発経済学、環境経済学、国際経済学等について研究する。当該分野の学問研究を通じてグローバ

ル化した社会の様々な課題の解決に貢献する。

b. 経営学

具体的には、国際ビジネス、人的資源論、組織論、戦略論、会計学、監査論等について研究する。当該分野の学問研究を通じて、グローバル化した社会の様々な課題の解決に貢献する。

c. 政治学

具体的には、比較政治、国際関係論等について研究する。当該分野の学問研究を通じて、グローバル化した社会の様々な課題の解決に貢献する。

[グローバルスタディーズ専攻]

本専攻は、a. Global Relations、b. Global Communication Studies、c. Global Cultural Studies が中心的な学問分野であり、具体的には以下のとおりである。

a. Global Relations

具体的には、国際社会、地域、国家、国家内の地方等の利害が複雑に絡み合う状況を国際関係論の手法を用いて研究する。また国家の枠を超えた問題に注目しながらグローバル市民の役割について考察する。さらに人類の未来のために地球規模で求められていることは何かを探求し、課題の解決に貢献する。

b. Global Communication Studies

具体的には、応用言語学に基づいてグローバル時代のコミュニケーションを研究する。その際には、世界の人々がいかなる手段で自らの考えや情報を交換しているか、また、いかなる心理的、対人的、社会的、政治的、環境的、技術的な要素がコミュニケーションの力学に影響を与えているかを解明し、課題の解決に貢献する。

c. Global Cultural Studies

具体的には、社会科学・人文科学にまたがる学際的な手法を用い、国境を越えて生みだされた文化的産物や慣行を批判的に考察し、また人種、ジェンダー、セクシュアリティ等に焦点をあてた研究を行い、課題の解決に貢献する。また、日本文化の諸相に関するグローバルな視点による研究も中心的な学問分野とする。

(4) 教育研究上の具体的到達目標

各専攻の教育研究上の具体的な到達目標は以下のとおりである。

[経済経営学専攻]

1年次秋学期から始まるロンドン大学の基礎教育プログラムである International Foundation Programme(以下、「IFP」という。)の履修条件である IELTS overall 5.5 及び各項目 5.0 以上のスコア

取得を1年次8月末段階の到達目標とする。また、2年次秋学期から始まるロンドン大学の専門教育である Bachelor of Science (以下、「BSc」という。)の履修条件である IELTS overall 6.0 及び各項目 5.5 以上相当の英語力を2年次8月末段階の到達目標とする。

(表1) 経済経営学専攻の語学到達目標

	IELTS	CEFR
1年次 8月末	overall 5.5 (各項目 5.0) 以上	B1 / B2 border
2年次 8月末	overall 6.0 (各項目 5.5) 以上	B2 (middle)

さらに、近年、経済学、経営学ともに統計分析の知識が必要となってきたことから、卒業研究を行う4年次までには最低でも統計検定2級相当の統計学の知識の修得を到達目標とする。

[グローバルスタディーズ専攻]

進級、海外留学、海外でのサービスラーニングへの参加のために、以下の水準を満たすことを到達目標とする。

(表2) グローバルスタディーズ専攻の語学到達目標

	IELTS	CEFR
1年次終了時点	overall 5.5	B1 / B2 border
2年次終了時点	overall 6.0	B2 (middle)
3年次終了時点	overall 6.5	B2 (upper end)

2. 学部・学科等の特色

本学部は英語による授業だけで卒業することが可能であることも特色の一つであるが、それ以上に「世界水準」を追求した教育研究を行うことが大きな特色である。また、英語を用いたリベラルアーツ&サイエンス教育を通じて、幅広い教養と深い専門知識を身につけ、高度な英語コミュニケーション力を活かし、イノベーションの推進や危機の克服に対して貢献できるグローバルリーダーの養成を目指している。

このことから、本学部は、中央教育審議会による「我が国の高等教育の将来像(答申)」の提言する「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」を踏まえ、「総合的教養教育」及び「社会貢献機能(地域貢献、産学官連携、国際交流等)」に重点を置き、特色化を図る。

また、具体的には、「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申)」の提言する「予測不可能な時代を生きる人材像」として示されている、普遍的な知識・理解と汎用的技能を文理横断的に身に付け、積極的に社会を支え、論理的思考力を持って社会を改善していく資質を有する人材を養成するために、学生個々人の学修成果を可視化した「学習者本位の教育への転換」を実践する。具体

的には、以下のような点が挙げられる。

a. グローバルな教員編制

本学部に所属する教員の半数以上は海外出身者や海外大学院での学位取得者である。(表3)のとおり、所属する専任教員の出身国は、米国、英国、ブラジル、中国、韓国、日本と多岐にわたっている。さらに海外大学院での学位取得者は(表4)のとおり16名(内Ph.D.取得者10名)となっており、学生も多様なバックグラウンドを持つ教員を通じてグローバルな環境に触れることができる。

(表3)教員の出身国別人数

国名	人数
米国	7
英国	2
ブラジル	1
中国	1
韓国	2
日本	9
合計	22

※一部の教員から二ヶ国での申し出があったため、専任教員数と一致しない

(表4)学位取得状況

大学院名	人数
Cardiff University	1
Florida State University	1
Hitotsubashi University (一橋大学)	1
International Christian University (国際基督教大学)	1
London School of Economics and Political Science	1
Saint Cloud State University Graduate School	1
Tohoku University (東北大学)	1
Temple University, Japan Campus	1
University of California Davis	1
University of California San Diego	1
University of Hawai‘i at Mānoa	2
University of Hawai‘i, (Shidler College of Business)	1
University of Leicester	1
University of Michigan	2
University of Oxford	1
University of Pittsburgh	1
University of Tsukuba (筑波大学)	1
Waseda University (早稲田大学)	1
Yale University	1
合計	21

※教員名簿に記載した保有学位について記載

b. 学部運営上の方針

本学部では、次の3つのPrinciples(原則)を学部運営上の方針として設ける。

■ 3つの Principles (原則)

① Student orientation (大学は学生のためにある)

「大学は学生のためにある」ということである。国際教養学部の教員は、教育の対象である学生を最優先に考える。さらに、学生に対して最新の知を還元するために研究活動に励み、成果を挙げるとともに、教育の質向上に取り組む。

② Student engagement (学生にも積極的に意見を述べてもらい、教育を改善していく)

学生、保護者等、教員、職員の四者間で情報の透明性を確保し、学生の意見を尊重しながら、学部の教育体制を絶え間なく改善していくことを意味する。具体的には、現在も行っている FD フォーラムや地区別父母懇談会等の開催に加え、国際教養学部では、定期的に学生、保護者等、教員、職員との意見交換の機会を拡充する。

③ Achievement focus (勉学の成果を重視する)

学修成果を可視化することにより、学生や保護者等のステークホルダーに納得してもらえる教育を行う。具体的には、語学検定試験や統計検定、ロンドン大学の試験結果等、客観的な数量的指標により学修成果を可視化する。

上記の原則は、海外の大学では一般的に行われていることであるが、日本ではまだ少数派と認識しており、本学部では、これらを実践し、世界水準の教育を実施する。

c. 少人数教育の徹底

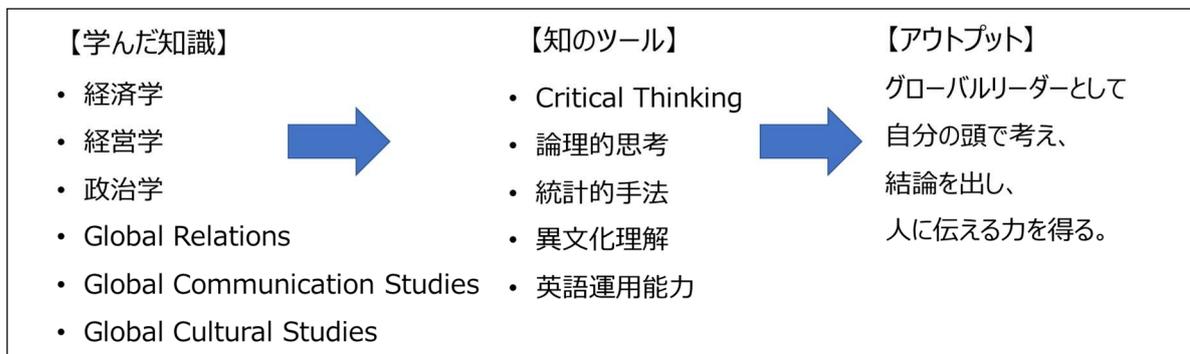
本学は、開学以来、旧制高校からの伝統を受け継ぎ、少人数教育を行っている。本学部は、専門科目の大半を英語により実施するため、さらにきめ細かな学生指導が必要となる。そのため、入学定員 100 名に対して 21 名の専任教員を配置し、少人数教育を徹底する。

d. 教育の体系化

教育には「知識の定着」、「分析ツールの修得」、「アウトプットを出す力の育成」の3段階がある。知識のない人は、物事を判断する材料を持ち得ず、知識があっても分析ツールを活用できなければ、適切な解を導くことはできない。また、知識を備え、分析する力があっても、それを伝えることができれば、無意味なものになってしまう。したがって、本学部では次のように、教育を体系化し、十分な学修成果を上げる。具体的には、各専攻における深い専門知識をもとに、Critical Thinking(批判的思考)、論理的思考、統計的手法、異文化理解力及び英語運用能力をツールとして用いて、経済社会の諸問題やグローバルイシューについて現状分析を行い、課題解決に向けた論点を整理し、その解

決策を日本語だけでなく英語でも他者に伝える能力を涵養する。

■教育の体系化(概念図)



また、各専攻の具体的な特色は以下のとおりである。

〔経済経営学専攻〕

本専攻の最大の特色は、本学に在学しながら、世界水準の質が保証されたロンドン大学の科目を並行履修し、両大学の学士号の取得を目指す PDP を設置している点である。このプログラムにより、国内だけでなく世界を視野に活躍するための知識や能力を身につけたグローバルリーダーの養成を目指す。

〔グローバルスタディーズ専攻〕

本専攻の最大の特色は、多彩で幅広いカリキュラムのもと、異文化や社会における多様性を理解し、実践に活かすことのできるプログラムを設置している点である。学生に海外でのサービスラーニングや留学を強く推奨しているが、事情により海外に行くことができない学生に対しても、様々なバックグラウンドを持つ教員による英語での教育環境のなか、少人数で行われるアクティブラーニング型のゼミナール等を通じて、海外での学びと同等の教育を行う点も特色の1つである。

3. 学部・学科等の名称及び学位の名称

本学部では、英語を用いた教養教育及び専門教育を通じてグローバルリーダーの養成を教育研究上の目的としていることから、学部名称を国際教養学部、学科名称を国際教養学科とし、英訳名称については、国際通用性を踏まえてそれぞれ、School of Liberal Arts and Sciences、Department of Liberal Arts and Sciences とした。

学部名称:国際教養学部	英訳名称:School of Liberal Arts and Sciences
学科名称:国際教養学科	英訳名称:Department of Liberal Arts and Sciences

また、専攻名称は組織として研究対象とする中心的な学問分野を表し、英訳名称に関しても具体的な学問分野を表記している。

経済経営学専攻に関しては、経済学、経営学を専門領域の中心とすることから専攻名称を経済経営学専攻(英訳名称:Economics and Management Program)とし、授与する学位を学士(経済経営学)(英訳名称:Bachelor of Science in Economics and Management)とする。なお、同専攻で提供するPDPは、ロンドン大学とのプログラムであることから、英国綴りであるProgrammeと表記する場合がある。

専攻名称:経済経営学専攻	英訳名称:Economics and Management Program
学位名称:学士(経済経営学)	英訳名称:Bachelor of Science in Economics and Management

グローバルスタディーズ専攻に関しては、人文・社会科学の融合領域、即ち国際関係の研究や現代世界の諸地域における多種多様な言語学的研究、文化研究等を専門領域の中心とすることから、専攻名称をグローバルスタディーズ専攻(英訳名称:Global Studies Program)とし、授与する学位を学士(グローバルスタディーズ)(英訳名称:Bachelor of Arts in Global Studies)とする。

専攻名称:グローバルスタディーズ専攻	英訳名称:Global Studies Program
学位名称:学士(グローバルスタディーズ)	英訳名称:Bachelor of Arts in Global Studies

4. 教育課程の編成の考え方及び特色

(1) 教育課程編成の基本方針

本学部では、幅広い教養と深い専門知識を身につけ、高度な英語コミュニケーション力によってグローバル化した社会で活躍するグローバルリーダーの養成を人材養成の目的としているため、その資質と能力を身につけられるような教育課程を編成している。本学部及び各専攻のカリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)は、以下のとおりである。

■カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

[学部]

国際教養学部の教育は英語による授業を中心に行われる。教育課程は、学位授与方針に掲げる知識・技能、態度等を修得させるために全学のカリキュラム・ポリシーに基づき総合科目、外国語科目、

専門科目の3区分で編成されている。総合科目では幅広い知識・教養・実践力を、外国語科目では自らの考えを母語以外の言語で表現することができる外国語運用能力を、専門科目では専門的方法論、知識・技能を修得するための「専攻科目」と所属する専攻の専門分野以外の知識・技能等を修得する「専攻指定科目」を1年次から4年次まで体系的に配置し、ゼミナールによって問題解決力や思考力・判断力・表現力・創造力を身につける。

- (1) 総合科目は、総合的視野と教養を得させるために「情報とコミュニケーション」「歴史と文化」「現代社会」「自然と環境」「心と体」「ライフマネジメントとキャリアデザイン」の各分野にわたり、1年次から4年次にかけて卒業までに修得すべき単位を定める
- (2) 外国語科目は、本学部教育の特徴である英語による授業を履修するための土台作りに必須と位置づけており、少人数クラスのもとで実施する英語を必修科目として設ける。英語以外の多様な言語も学べるように選択科目を設ける
- (3) 国際教養学部共通科目には、専攻を問わず身につけるべき基本技能・実践力を養うための科目及び専攻の枠を超えて学ぶ意義のある科目を配置する。実践的な英語力を養う科目として「Language Proficiency Test Preparation1、2」及び「Language Proficiency Test Preparation (Intermediate) 1、2」等を設ける
- (4) ゼミナール科目を必修科目として配置する。また、4年間の学修成果を論文等でまとめる「Capstone Project」を本学部での学びの集大成として位置づけ、必修とする
- (5) 講義科目は、専門研究の対象としている各分野について必要な幅広く深い知識を修得し、理解を深めることを目的として配置する
- (6) 専攻や学部の枠組みを超えて多様な分野・領域に接することや専門科目をより多く履修することで、より深い知識や俯瞰的に見る力が得られるよう、全学対象科目、国際教養学部共通科目、経済経営学専攻科目、グローバルスタディーズ専攻科目のなかから専攻指定科目を設ける。そこには副専攻の選択肢も設ける
- (7) ナンバリングによる積み上げ式の学修を促し、科目を体系的に配置して履修系統図を提示する
- (8) 学修成果については、科目種別により、①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③主体性・協調性等を総合的に評価する。評価方法については、シラバスに当該授業で問われる知識と能力、配点等を明らかにし、具体的な評価手段として、小テスト、各種の中間課題、発表、実地調査、学期終了時の試験やレポート等を用い、同時に各要素の評価割合を提示する。なお、最終成果をまとめる「Capstone Project」に関しては、評価方法をシラバスや履修要項で提示する

[経済経営学専攻]

- (1) ロンドン大学と本学とのパラレル・ディグリー・プログラム(PDP)を設置し、世界水準の学部教育を施す
- (2) 経済学を学ぶための基本である「Introduction to Economics (a)」を専攻必修科目とするとともに、経済・経営学の体系的な学修を促すために専攻基礎科目や履修前提科目を設ける
- (3) 統計や計量経済学分野の数的情報処理能力を身につけるための授業科目を設ける
- (4) 高度な英語運用能力を身につけるため必修外国語科目を1年次から2年次まで設ける

[グローバルスタディーズ専攻]

- (1) 英語技能を高めるとともに、研究のための調査や資料収集、創造的スキルを養う実習科目を設ける
- (2) 専攻分野についての基礎知識と専門分野の基礎的な研究方法を学ぶ入門講座「Survey of Global Studies1、2」及び「Survey of Transcultural Studies1、2」を専攻基礎科目として設ける
- (3) 専門分野として Global Relations、Global Communication Studies、Global Cultural Studies を配置し、それぞれの分野の知識と理解を深めるために講義科目とゼミナール科目を設ける
- (4) 異文化のなかでの学修を通じて、コミュニケーション能力、主体的行動力、専門知識を身につけるため、短期の海外フィールド実習や長期の留学プログラムなど、海外での学習機会を設ける

総合科目は、幅広い教養を養うため(A)情報とコミュニケーション、(B)歴史と文化、(C)現代社会、(D)自然と環境、(E)心と体、(F)ライフマネジメントとキャリアデザインの6つの分野から構成されている。各分野には、総合的内容の講義セクション科目と、講義セクションで得た知識を実践的レベルで追究する実践セクション科目を配置し、本学の教育の基本目標に掲げている「知と実践の融合」を体現できる構成になっている。

外国語科目には、必修科目として英語4技能を修得するための科目を配置する。特に、EAP(English for Academic Purposes)に重点を置き、大学での学びや留学を目標にした英語教育を行う。また、選択外国語として英語だけでなく、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国・朝鮮語等を配置している。

専門科目は、基礎から発展、応用と順次性をもたせる。専攻分野における基礎を身につける専攻基礎科目と専門性の高い専攻専門科目の2つの区分を設けている。それぞれに学部共通科目及び各専攻の専攻科目として経済経営学専攻科目、グローバルスタディーズ専攻科目を配置している。さらに専攻専門科目には、グローバル化した社会で必要となる専門性の高い教養を身につけるために

他学部開講の専門科目、留学・国際交流関連科目、教職の教科に関する概説科目を全学対象科目として設けている。

これらの科目を通じて身につけた知識やツール、英語運用能力を活用し、実践する場として各専攻科目に Seminar(ゼミナール・演習)を配置している。さらに、最終年次においては、学部共通科目に「Capstone Project」及び「Capstone Project Seminar」を必修科目として配置している。4年間の集大成として、高度な英語コミュニケーション力を活かし、グローバルな視点から、批判的、論理的に考え、「Capstone Project Seminar」でプレゼンテーションやディスカッションを行い、その成果を「Capstone Project」として完成させる。

以上の教育課程編成の基本方針に基づき、体系的な教育課程を専攻ごとに編成し、ディプロマ・ポリシーで定めた能力を身につけるために必要な科目を必修科目として配置している。その他、選択科目を設け、各年次に配当している。なお、ナンバリングコードを用いて、難易度や専門分野を明示している【資料4】。

(2)教育課程及び科目区分の編成

カリキュラム・ポリシーに則った各専攻の教育課程及び科目区分、卒業に必要な単位数は、以下のとおりである。また、主要科目を中心とした履修系統図は【資料5、6】のとおりである。

(表 5)国際教養学部科目区分

科目区分	内訳		卒業に必要な単位数 ^{※1}	
			EM 専攻 ^{※2}	GS 専攻 ^{※2}
総合科目	6分野の講義科目と実践科目		20	20
外国語科目	必修外国語		8	12
	選択外国語		—	2
専攻科目	専攻基礎科目	学部共通科目	6	10
		経済経営学専攻科目	6	—
		グローバルスタディーズ専攻科目	—	12 (4)
	専攻専門科目	学部共通科目	10 (10)	6 (6)
		経済経営学専攻科目	26 (6)	—
		グローバルスタディーズ専攻科目	—	34 (2)
		全学対象科目	—	—
		専攻指定科目 ^{※3}	48	28

※1 ()内は必修科目の単位数を表す

※2 EM 専攻:経済経営学専攻、GS 専攻:グローバルスタディーズ専攻

※3 卒業に必要な単位数を超えて修得した専攻基礎科目及び専攻専門科目、全学対象科目

〔経済経営学専攻〕

経済経営学専攻では、本学に在学しながら武蔵大学の学位とロンドン大学の学位 (BSc in Economics and Management) を取得できる PDP を開設しているため、総合科目、専攻基礎科目、専攻専門科目のそれぞれにロンドン大学の学位取得を目指す PDP 履修生向けの科目 (PDP 科目) を配置している。PDP 科目の履修は、ロンドン大学への登録が前提となり、基礎教育プログラムである IFP は、IELTS overall 5.5 (各項目 5.0) 以上の取得が、専門教育である BSc は、IELTS overall 6.0 (各項目 5.5) 以上の取得、若しくは IFP の修了が履修のための条件となる。また、ロンドン大学の学位取得を希望しない学生やロンドン大学の語学要件を満たさない学生も経済経営学分野に関する専門性を十分に身につけることができるよう、PDP 科目以外の科目 (一般科目) も専攻基礎科目や専攻専門科目として配置する。これら一般科目のなかには PDP 科目にはない分野の内容も含まれるため、PDP 履修生が一般科目を履修することも想定している。なお、本専攻ではグローバルスタディーズ専攻科目や他学部開設科目を専攻指定科目として設け、深い専門知識の追求と幅広い分野の学びの両方のニーズに応えることが可能な教育課程となっている。

1) 総合科目

1～4年次の配当科目とし、6分野にわたって構成している。幅広い教養を身につけるため、6分野すべてにわたり最低2単位を修得することとし、合計 20 単位以上の修得を卒業要件としている。特に、経済経営学専攻では IFP に関連する科目を総合科目として配置しており、これらの科目の履修を推奨している。

2) 外国語科目

1年次に「English I」5単位、2年次に「English II」3単位を必修科目として配置している。特に1年次前半の必修英語は、PDP の履修条件である IELTS overall 5.5 を取得するためのスキルの獲得を目標としている。その他、選択外国語として英語以外にドイツ語、フランス語、中国語、韓国・朝鮮語、イタリア語、ロシア語、スペイン語や日本語を母語としない学生向けに、日本語の授業を配置している。

3) 専門科目

① 専攻基礎科目

主に1～2年次生を対象として、学部共通科目から6単位、経済経営学専攻科目から6単位の修得を卒業要件としている。

学部共通科目は、グローバル社会の諸問題に関する基礎知識、批判的能力等、本学部で学ぶにあたり基礎となる知識やスキルを身につける科目である。

経済経営学専攻科目は、経済、経営、会計学等の専門分野に関する基礎的な科目である。また、

統計学・計量経済学の基礎とデータ分析の実践的な手法を身につけるための科目として「Data Analysis: Techniques and Methods」を配置している。さらに、総合科目に配置している IFP 科目の発展的内容を扱う科目も含まれている。

② 専攻専門科目

主に2年次生以上を対象として、学部共通科目から「Capstone Project Seminar」、「Capstone Project」、「Introduction to Economics(a)」の合計 10 単位、経済経営学専攻科目からゼミナール科目である「Economics and Management Seminar1(a)、1(b)、2、3(a)、3(b)」の合計6単位を必修科目として、その他、経済経営学専攻科目から選択科目として 20 単位以上の修得を卒業要件としている。

専攻専門科目は、PDP の BSc 科目を含め、経済、経営、会計学等の各分野に関する専門性の高い科目となっており、これらによってより深い専門知識を修得する。これらの専攻専門科目のなかには専攻基礎科目や必修科目「Introduction to Economics(a)」の単位修得を前提とするものも多く含まれ、体系的な学びを促す教育課程となっている。連続性のある科目については、(a)、(b-1)、(b-2)、又は、1、2を付した科目名称としており、順次性にも配慮した構成となっている。

また、2年次から始まる必修科目「Economics and Management Seminar1(a)、1(b)、2、3(a)、3(b)」では、実際に身につけた深い専門知識や分析手法を用いて専門研究を行い、英語によるプレゼンテーションやディスカッションを通じて実践力を身につける。4年次には、「Capstone Project」として卒業論文を完成させる。

③ 専攻指定科目

深い専門知識の修得を目的として、卒業に必要な単位数を超えて修得した専攻基礎科目(学部共通科目、経済経営学専攻科目)及び専攻専門科目(学部共通科目、経済経営学専攻科目)に加え、グローバルスタディーズ専攻科目(専攻基礎科目及び専攻専門科目)及び全学対象科目から 48 単位以上修得することを卒業要件として課している。

[グローバルスタディーズ専攻]

グローバルスタディーズ専攻は徹底した英語での教育環境を備えた教育課程を特色としており、英語を母語とする教員又はこれに匹敵する英語運用能力を有する教員が授業科目を担当する。授業の質を保つため、本専攻に所属する学生は入学時点で CEFR B1 以上の英語力を有することが求められている。科目区分は経済経営学専攻と同じく総合科目、外国語科目、専門科目となっている。総合科目は全学共通科目であるが、本専攻の学生に適した英語による授業も設けている。外国語科目に関しても高い語学水準を担保した EAP 中心のクラスとなっている。その他の選択外国語については全学共通のカリキュラムを適用し、英語以外の多様な言語を身

につける科目を設けている。専門科目については、体系的な学修ができるように本専攻の学びの土台をつくる専攻基礎科目を設け、学問分野別に編成された専攻専門科目の円滑な履修を可能にしている。なお、本専攻では経済経営学専攻科目や他学部開設科目を専攻指定科目に配置し、深い専門知識の追求と幅広い分野の学びの両方のニーズに応えることが可能な教育課程となっている。

1) 総合科目

1～4年次の配当科目とし、6分野にわたって構成している。幅広い教養を身につけるため、6分野すべてにわたり最低2単位を修得することとし、合計 20 単位以上の修得を卒業要件としている。

特に、「Digital Media Training」、「Information Technology and Global Communication」や「Global Environmental Issues」等、英語で行うグローバル 이슈に関連する科目の履修を推奨している。

2) 外国語科目

1年次に「English I」6単位、2年次に「English II」6単位、選択外国語2単位を必修科目として配置している。特に英語については、EAP の修得を重視している。さらに、英語以外のコミュニケーション能力の修得も重視している本専攻では、選択外国語からの単位も卒業要件として課しており、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国・朝鮮語、イタリア語、ロシア語、スペイン語等を配置している。また、日本語を母語としない学生向けに、日本語の授業を配置している。

3) 専門科目

① 専攻基礎科目

主に1～2年次生を対象として、学部共通科目から選択科目 10 単位、グローバルスタディーズ専攻科目から必修科目4単位、選択科目8単位、合計 12 単位を卒業要件としている。

学部共通科目は、グローバル化した社会の諸問題に関する基礎知識、批判的能力等、本学部で学ぶにあたり基礎となる知識やスキルを身につける科目である。特に、本専攻では異文化のなかでの学びを通じて、コミュニケーション能力、主体的行動力、深い専門知識を身につけることを重視しており、海外でのサービスラーニングに取り組む「Global Service Learning」の履修を推奨している。

グローバルスタディーズ専攻科目には、専攻分野についての基礎知識の修得と専門分野の基礎的な研究方法を学ぶ「Survey of Global Studies1、2」「Survey of Transcultural Studies1、2」等の入門講座、研究のための調査や資料収集等のスキルを養う実習科目を配置している。

なお、グローバルスタディーズ専攻科目のうち、アカデミックスキルを身につけるための「Global Studies 1st-Year Seminar1、2」合計4単位を1年次の必修科目としている。また、選択科目8単位については、基礎知識を身につける講義科目4単位、研究のためのスキルを身につける実習科目4単位の

修得を義務づけ、体系的に学べるような科目を配置している。

② 専攻専門科目

4年次の必修科目として、学部共通科目から「Capstone Project Seminar」2単位、「Capstone Project」4単位、グローバルスタディーズ専攻科目から「Capstone Project」の準備に向けたゼミナール科目「Capstone Project Pre-Seminar」2単位、合計8単位、その他、グローバルスタディーズ専攻科目から選択科目として32単位の修得を卒業要件としている。

専攻専門科目は、Global Relations、Global Communication Studies、Global Cultural Studiesの3分野に関する、より専門性の高い専門科目となっており、これらによって各分野に関する深い専門知識を修得する。連続性のある科目については、1、2を付した科目名称としており、順次性にも配慮した構成となっている。

また、2年次から始まる「Global Studies Seminar1、2」は、指定専門演習として「Global Studies Seminar1」、「Global Studies Seminar2」から合計8単位の修得を卒業要件としている。この科目では、学生の興味関心に応じて、より専門的に研究を深める科目であり、実際に身につけた専門知識や分析手法を用いて、英語によるプレゼンテーションやディスカッションを通じて実践力を身につける。さらに、4年次には、春学期に「Capstone Project Pre-Seminar」、秋学期に「Capstone Project Seminar」を配置し、「Capstone Project」として卒業論文等を完成させるため、Academic Supervisorの指導を受ける。

③ 専攻指定科目

深い専門知識の修得を目的として、卒業に必要な単位数を超えて修得した専攻基礎科目(学部共通科目、グローバルスタディーズ専攻科目)及び専攻専門科目(学部共通科目、グローバルスタディーズ専攻科目)に加え、経済経営学専攻科目(専攻基礎科目及び専攻専門科目)及び全学対象科目から28単位以上修得することを卒業要件として課している。

5. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

(1) 教育方法

① 授業の方法

主に知識の修得・理解を目的とする授業は講義形式、講義により修得した知識を活用、実践する授業としては演習形式の授業形態を採用するとともに、英語運用能力の修得に関しては、双方向性を重視した実習形式を採用している。

本学部の専門科目は原則として全て英語による授業である。1年次には英語による授業を理解するためのスキルを身につけるため、必修外国語や短期英語研修等を配置している。

また、4年間の学修成果の集大成として執筆する英語による卒業論文等については、「Capstone Project」として通年4単位を配置している。「Capstone Project」のための指導科目として4年次春学期に経済経営学専攻では「Economics and Management Seminar3(b)」、グローバルスタディーズ専攻では「Capstone Project Pre-Seminar」、4年次秋学期には両専攻ともに「Capstone Project Seminar」を必修科目として配置し、ゼミナール単位と個人単位の指導を組み合わせで行う。

② 学生数の設定

1授業あたりの学生数は、授業形態や教育効果等を考慮して目安とする適正人数を設定する。

講義形式の総合科目や全学対象科目は 100～300 名程度とするが、英語で実施する専門科目等は 40～60 名程度、演習や実習形式の授業は 15～30 名程度、実験形式の授業については 20 名以下を適正人数とする。なお、ゼミナール及び Capstone Project 関連科目については、20 名以下を原則とする。また、1～2年次の必修科目として配置されている外国語科目については、15～20 名を1クラスあたりの適正人数とする。

③ 配当年次の設定

配当年次は、基礎から応用へと体系的な学びが可能となるように設定している。

教養を深める総合科目は1～4年次を配当年次と定め、専門科目については、基礎的な知識や技能を身につける科目を1～2年次に、応用的な科目を3～4年次に配当し、特定の学年に偏ることがないように設定している。これらは、ナンバリングコードによって学生にも分かりやすく周知する【資料4(再掲)】。

(2) 履修指導方法

本学部の授業は、原則として英語で行うこと、経済経営学専攻では PDP に関連する履修指導が必要であること、グローバルスタディーズ専攻では海外留学に加え海外でのサービスマーケティング等を推奨していることから、きめ細かな履修指導が必要である。このため、以下のような履修指導の機会を設けている。

第一に、全学的な制度として入学時の新入生ガイダンスやキャリアガイダンス、新学期に実施する学年別の学科・専攻ガイダンスを実施し、学年ごとの履修上の注意点や学生の履修登録科目に対するアドバイスを行う。その際には、学生が具体的な履修計画を組み立てられるよう、履修系統図に基づいた履修モデルを明示する【資料7、8】。

また、単位制度の実質化を図る観点から、1年間に履修登録できる単位数の上限を年間 48 単位（半期 24 単位）と定め、特定の学年や学期に集中せず4年間にわたり計画的に履修するよう指導する。なお、本学部の専門科目は原則として全て英語により行うため、大学として定める履修上限単位数よりも少なく登録することを推奨する。

留学（長期・短期）やグローバルサービ斯拉ーニング等、海外渡航を伴う実習等に関しては、毎年度、大学グローバル教育センター（以下、「グローバル教育センター」という。）にてガイダンスを実施する他、学部の専任教員が事前・事後及び渡航中の学生指導を行う。

その他、以下の制度により、具体的な個別学生の履修指導を行う。

① Academic Supervisor 制度

本学部の専任教員が Academic Supervisor として、学生の履修指導だけでなく、留学や学習方法及び学生生活全般に関する相談等に応じる。Academic Supervisor は、原則として所属するゼミナールの担当者とするが、必修科目としてゼミナールがない経済経営学専攻の1～2年次生については、1～2年次生の多くが履修する少人数科目の授業担当者とする。

② オフィスアワー

各専任教員にオフィスアワーを設け、学生個人の状況に応じたきめ細かな指導を行う。

③ 英語学習に関するコーチング

英語学習全般に関するコーチング、即ちマンツーマンやグループで行う正課外の指導体制を整える。

加えて、各専攻の教育課程に沿った履修指導は、以下のとおりである。

[経済経営学専攻]

本専攻では、本学に在学しながら武蔵大学の学位とロンドン大学の学位（BSc in Economics and Management）を取得できるPDPを開設しているため、PDP履修生に対してはロンドン大学の学位取得に向けた履修指導も並行して行う。

ロンドン大学の学位取得にあたっては、ロンドン大学が提供する科目のうち 12 科目について履修登録した上で試験に合格する必要があるため、年間の履修登録科目数は原則として4科目となっている。さらに、必修科目が多数設けられていることに加え、履修前提条件が付されている科目が多く、計画的な科目履修を促す必要がある。そのため、本学における学修がロンドン大学の学位取得に効果的に結びつくよう、本学の科目履修だけでなく、ロンドン大学の科目履修についても Academic Director による学年別の専攻ガイダンスと Academic Supervisor による個人指導を通じて複層的に履修指導を

行い、可能な限り各学生のニーズに合致した履修を実現する体制を構築する。

ロンドン大学の学位取得を希望しない学生に対しても同様に、Academic Director 及び Academic Supervisor による指導を通じてきめ細かく履修指導する。入学時点から PDP 履修を希望しない学生や 2 年次以降に PDP 履修を辞退する学生まで様々なケースが想定されることに留意し、教員一人当たりの学生数比率 (ST 比) の低さを生かし、一人ひとりの状況や希望に応じた履修指導を徹底する。

[グローバルスタディーズ専攻]

本専攻では 1~4 年次までゼミナールを必修科目としており、その担当者が Academic Supervisor となって、授業開始前・終了後の時間やオフィスアワーを利用して履修指導を行う。Academic Supervisor は個々の学生の学修状況に目を配り、それぞれのニーズに応じた個別指導を行う。とりわけ本専攻ではサービスマーケティングやインターンシップ、留学等の海外体験を重視しているため、それらの授業に取り組む際の事前指導から実習中、帰国後のフォローアップまできめ細かな指導を行う。なお履修指導には専攻の Academic Director が学年別に行う一斉ガイダンスも含まれるが、もっとも効果的な指導は Academic Supervisor による個別指導であると考えている。本学部の教員一人当たりの学生数比率 (ST 比) はきわめて低く抑えられているため、履修指導は時間をかけて丁寧に行う。

(3) 卒業要件

本学部に 4 年以上在学し、卒業に必要な単位数として 124 単位以上修得する。授業科目の履修にあたっては、専攻ごとに次の各科目区分から所定の単位数を修得する。

[経済経営学専攻]

- 総合科目 20 単位 (A~F の各分野から最低 2 単位以上含む) 以上
- 外国語科目 8 単位 (1 年次 5 単位、2 年次 3 単位)
- 専門科目 96 単位以上
 - ・ 専攻基礎科目 : 学部共通科目から選択科目 6 単位、経済経営学専攻科目から選択科目 6 単位以上 (合計 12 単位以上)
 - ・ 専攻専門科目 : 学部共通科目から必修科目 6 単位、専攻必修科目 4 単位、経済経営学専攻科目から専攻必修科目 6 単位、選択科目 20 単位以上 (合計 36 単位以上)
 - ・ 専攻指定科目から 48 単位以上

[グローバルスタディーズ専攻]

- 総合科目 20 単位 (A~F の各分野から最低 2 単位以上含む) 以上
- 外国語科目 14 単位 (1 年次 6 単位、2 年次 6 単位、選択外国語 2 単位)

- 専門科目 90 単位以上

- ・ 専攻基礎科目：学部共通科目から選択科目 10 単位、グローバルスタディーズ専攻科目から専攻必修科目4単位、選択科目8単位以上(合計 22 単位以上)
- ・ 専攻専門科目：学部共通科目から必修科目6単位、グローバルスタディーズ専攻科目から専攻必修科目2単位、選択科目 32 単位以上(合計 40 単位以上)
- ・ 専攻指定科目から 28 単位以上

6. 企業実習や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

(1) Global Service Learning

本学部の人材養成の目的であるグローバルリーダーの養成に向け、海外でのボランティア活動やインターンシップ、フィールドワーク等の実践的な活動を通じて、英語運用能力だけでなく、グローバルリーダーに必要とされる国際的な視野や異文化理解、他者と協働しながらグローバルな問題を解決できる力を養うため、専門科目の専攻基礎科目(学部共通科目)に「Global Service Learning」を配置する。

① 実習先の確保の状況

「Global Service Learning」の実習先は、国内外に所在する海外ボランティアやインターンシップの仲介機関等を通じて確保する。プログラム内容としては、マイクロファイナンス、チャイルドケア、医療やヘルスケア、教育、建築活動等の分野を中心とする。今後は、学生のニーズを取り入れながら、グローバルスタディーズ専攻の教員が中心となって派遣先を拡充する予定である【資料9】。

② 実習先との連携体制

仲介機関等とは、担当教員及び Academic Director が事前にプログラム内容や実施スケジュール、実習中の危機管理等について協議する。実習前には仲介機関等による渡航前オリエンテーションを実施し、プログラム内容や現地の危機管理等について学生の理解を深めさせる。また、実習中の不測の事態に備え、仲介機関等を通じた派遣先現地スタッフと本学との連絡体制を整備する。

③ 成績評価体制及び単位認定方法

「Global Service Learning」の成績評価及び単位認定は、現地での実習に加え、事前・事後学習、実習後に作成する実習報告書の作成及びプレゼンテーション等から授業担当者が総合的に判断し、実習時間数に応じた単位を付与する。学生の実習先での活動に対する評価は、実習後に発行される修了証明書等を参考に行う。

④ その他特記事項

危機管理体制については、グローバル教育センターが実習先又は仲介機関等との連絡窓口となり、仲介機関等が定めた対応マニュアルに基づき対応する。

また、「Global Service Learning」の参加者には、渡航前オリエンテーションの参加を必須とし、危機管理について十分な指導を行う。また、危機管理の観点から、大学から参加者に携帯電話を支給し、健康状態や生活状況等について担当のグローバル教育センターへ定期的にメールで報告させる。さらに、実習中の学習や生活状況等を含めた相談が行えるよう、担当教員に加え、Academic Director が実習中のサポートを行う。

(2) 外国語現地実習及び Intensive English Proficiency Test Practicum A、B

総合科目「外国語現地実習(各言語)」及び専門科目の専攻基礎科目(学部共通科目)「Intensive English Proficiency Test Practicum A、B」は、会話力、読解力、作文能力等の語学力の向上等を目的として配置する。その他、「外国語現地実習(各言語)」については、異文化体験や EAP を身につけるプログラムも設ける。これらの科目は、本学との学生交換協定に基づく協定校等で実施する。

① 実習先の確保の状況

海外での実習は、本学との学生交換協定校等において実施する。主な派遣先として、イギリス(ケンブリッジ大学)、オーストラリア(ディーキン大学)、ドイツ(マルティン・ルター大学ハレ・ヴィッテンベルク、パッサウ大学、カール・デュイスベルク・ツェントレン)、フランス(トゥーレーヌ学院)、中国(西安外国語大学)、台湾(国立政治大学)、韓国(高麗大学校)、フィリピン(SMEAG)等である【資料 10】。また、国内での実習は、語学教育機関等の施設や本学において実施する。

学生派遣にあたり、本人の希望を優先するが、申込人数が受入れ人数を超過した場合は担当教員が成績等によって選考する。なお、実習先によっては本学との協議により、受入可能人数を超えての受入れが認められるため、実習先は十分に確保できているといえる。

② 実習先との連携体制

海外での実習先は本学と学生交換協定等を締結しており、実習先の担当者と本学の担当教員及びグローバル教育センターで連携体制を整え、受入れ人数、必要となる語学水準、授業内容、スケジュール、学生指導等に関して協議しながら進める。

また、参加する学生は初めて海外を訪れるというケースも多いため、本学のグローバル教育センターや授業担当者が実習中の学生サポートをメール等で行う。国内での実習に関しても同様に語学教育機関と事前に協議し、プログラム内容等を決定する。

③ 成績評価体制及び単位認定方法

「外国語現地実習(各言語)」及び「Intensive English Proficiency Test Practicum A、B」の成績評価及び単位認定は、実習中の評価に加え、事前・事後学習、実習後のレポート等に基づき、授業担当者が総合的に判断し、実習時間数に応じた単位を付与する。

④ その他特記事項

危機管理体制については、グローバル教育センターが実習先との連絡窓口となる。参加者には、大学指定の海外旅行保険に加入すること、渡航前に大学や旅行会社等が開催するオリエンテーションに参加することを義務付け、危機管理について十分な指導を行う。また、危機管理の観点から、大学から参加者に携帯電話を支給し、健康状態や生活状況等について、担当のグローバル教育センターへ定期的にメールで報告させることとしている。

(3) インターンシップ

総合科目に3～4年次生を対象とした「インターンシップ」を配置している。本授業科目は学生が大学で学んだ知識等の学修成果を社会で実践することにより、専攻分野にかかわる理解を深め、その体験を自己発見、自身のキャリア形成に役立てる科目である。

① 実習先の確保の状況

2018～2020年度に学生受入れに関する申し合わせを締結した派遣先企業は【資料 11】のとおりである。派遣先の決定は、学生の希望に基づき、担当部局であるキャリア支援センター職員及び担当教員との面談を通じて行う。また、学生のニーズ等を踏まえ、派遣先企業を拡充している。

② 実習先との連携体制

担当のキャリア支援センターが実習内容や実施時期、実習中の状況確認等について、派遣先企業と協議している。

③ 成績評価体制及び単位認定方法

成績評価にあたっては、事前・事後の学習態度、派遣先企業から送付される各学生の実習中の活動状況報告書、学生が実習後に作成する実習報告書の内容及び実習先での活動内容に関するプレゼンテーション等から授業担当者が総合的に判断し、単位を付与する。

④ その他特記事項

危機管理体制としては、担当部局であるキャリア支援センターが窓口となる。また、インターンシップに参加する学生全員に「学生教育研究災害障害保険及び学研災付帯賠償責任保険」への加入を必

須としている。実習前にオリエンテーションを実施し、専用緊急連絡先を周知するとともに危機管理に関して十分な指導を行う。また、インターンシップに参加するにあたっては、自己理解や職業選択に対する自らの取り組みの基礎を固める「キャリアデザイン論 A」又は「キャリアデザイン論 B」、エントリーシートの作成方法やビジネスマナーを身につける「インターンシップ特講」の履修を前提条件としている。

7. 入学者選抜の概要

(1) 受入れ方針

■ アドミッション・ポリシー(入学者受入れ方針)

〔学部〕

国際教養学部は、学園建学の三理想、全学の教育の基本目標並びに全学の3ポリシーに基づき、独自の教育研究上の目的や人材養成の目的を定めている。即ち、リベラルアーツ&サイエンスの精神に則った幅広い教養と深い専門知識に基づくグローバル化した社会への理解、高度な英語コミュニケーション力を涵養することが人材養成の目的である。そのうえで国際教養学部は、次のような入学者受入れ方針を具体的に定めている。

■ 求める学生像

- (1) 高等学校等での学習に真剣に取り組み、基礎的な知識・技能・思考力・判断力・表現力・発信力を身につけ、主体性と協働性を備えていて、各専攻のアドミッション・ポリシーをよく理解したうえで入学を強く希望する人
- (2) 概ね、CEFR の B1 レベル以上に相当する高度な英語運用能力を有する人
- (3) グローバル化した社会の諸問題を深く理解し、グローバルリーダーを目指す志のある人。異文化理解と多様性に目を向け、他者尊重の態度を身につけることに意欲がある人
- (4) 自主的に知的関心を深め、本学の建学の三理想である「自調自考」を実践するとともに、ゼミナール等の協働が求められる学びの場においては、協調の精神を持って積極的に参加する意欲がある人
- (5) グローバル化した社会において活躍できる実践力を身につけ、大学院への進学、国際機関やグローバル企業への就職を志し、グローバルな問題への対応や交渉に携わりたいと願う人

〔経済経営学専攻〕

- (1) 幅広い教養や高度な英語コミュニケーション力に加えて、経済・経営学分野の深い専門知識や

統計的手法も兼ね備えたグローバルリーダーとして国内外で活躍することを願う人

- (2) ロンドン大学とのパラレル・ディグリー・プログラム(PDP)の履修や協定留学等を通じて高度な問題を英語で議論する能力を身につけたいと願う人

[グローバルスタディーズ専攻]

- (1) Global Relations、Global Communication Studies、Global Cultural Studies の3分野を中心として、国際関係、グローバル化した社会におけるコミュニケーション、現代社会、世界の多様な文化と社会に目を向ける分野横断的文化研究に強い関心をもつ人
- (2) 本専攻の英語学習カリキュラムによって、研究のために必要なアカデミック・イングリッシュを身につけ、海外留学に挑戦したいと願う人

(2)選抜方法

上記のアドミッション・ポリシーに適った人材を確保するために、筆記試験による選抜だけでなく、受験生の意欲や適性をみる多様な入学者選抜を実施する。本学部の入学定員は100名であるが、募集に際しては専攻ごとに募集人員(経済経営学専攻:55名、グローバルスタディーズ専攻:45名)を定める。

1)入試方式と募集人員

入試方式		募集人員	
		経済経営学専攻	グローバルスタディーズ専攻
一般選抜	一般方式 全学部統一型	5	5
	一般方式 全学部統一グローバル型	5	5
	一般方式 個別学部併願型	20	15
	大学入学共通テスト方式 前期日程	10	5
	大学入学共通テスト方式 後期日程	5	5
総合型選抜	AO 入学試験	5	7
学校推薦型選抜	指定校制推薦入学	5	3
特別入試	<ul style="list-style-type: none"> ・外国高等学校卒業生及び帰国生徒対象入学試験 ・社会人入学試験(2023年度入試から実施) ・外国人学生特別入学試験(2023年度入試から実施) ・編入学・転入学試験(2024年度入試から実施) ・学士入学試験(2025年度入試から実施) 	若干名	若干名
合計		55	45

2) 入試方式別の選抜方法

[一般選抜]

① 一般方式

本学が作成する試験問題により各教科の基礎学力と英語運用能力を中心に合否を判定する入試方式である。

• 全学部統一型

英語と国語又は選択科目の筆記試験を課すことにより、各教科の基礎学力や英語運用能力を評価する。さらに経済経営学専攻においては、大学で経済学を学ぶ上で数学的に思考する力や統計的な処理方法等が必要となるため、数学の基礎知識を評価するために数学の基礎試験を課す。

• 全学部統一グローバル型

本学の指定する英語資格・検定試験の成績(スコア)を得点化して英語の得点とし、これに加え、国語又は選択科目の筆記試験を課すことにより、各教科の基礎学力や英語運用能力を評価する。さらに経済経営学専攻においては、大学で経済学を学ぶ上で数学的に思考する力や統計的な処理方法等が必要となるため、数学の基礎知識を評価するために数学の基礎試験を課す。

• 個別学部併願型

英語、国語、選択科目の筆記試験を課すことにより、特定の科目に偏ることなく、バランスよく各教科の基礎学力が身につけているかを評価する。さらに経済経営学専攻においては、大学で経済学を学ぶ上で数学的に思考する力や統計的な処理方法等が必要となるため、数学の基礎知識を評価するために数学の基礎試験を課す。

② 大学入学共通テスト方式

大学入学共通テストにより、高等学校までの基礎学力を中心に合否を判定する入試方式である。経済経営学専攻においては、大学で経済学を学ぶ上で数学的に思考する力や統計的な処理方法等が必要となるため、数学を重視しており、それぞれの試験で数学を必須科目としている。

• 前期日程

経済経営学専攻では、英語、国語、数学Ⅰ・数学A、選択科目(地理歴史、公民、数学(数学Ⅱ・数学B)、理科の4教科から1科目)の4科目、グローバルスタディーズ専攻では、英語、選択科目(国語、地理歴史、公民、数学、理科の5教科から2科目)の3科目とする。

• 後期日程

経済経営学専攻では、英語、数学Ⅰ・数学A、選択科目(国語、地理歴史、公民、数学(数学Ⅱ・数学B)、理科の5教科から1科目)の3科目、グローバルスタディーズ専攻では、英語、選択科目(国語、地理歴史、公民、数学、理科の5教科から1科目)の2科目とする。

[総合型選抜]

① AO 入学試験

経済経営学専攻では、IELTS5.0 相当以上、グローバルスタディーズ専攻では、CEFR B1 以上の英語資格・検定試験でのスコアを保有していることを出願条件とする。出願書類、小論文、面接(又はグループディスカッション)・プレゼンテーション等により、英語運用能力に加え、意欲、思考力、グローバル化した社会への興味・関心等を総合的に評価する。さらに経済経営学専攻においては、大学で経済学を学ぶ上で数学的に思考する力や統計的な処理方法等が必要となるため、数学の基礎知識を評価するために数学の基礎試験を課す。

[学校推薦型選抜]

① 指定校制推薦入学

経済経営学専攻では、IELTS5.0 相当以上の英語資格・検定試験でのスコアを保有し、かつ数学Ⅱ・数学Bの単位を修得していること、グローバルスタディーズ専攻では、CEFR B1 以上の英語資格・検定試験でのスコアを保有していることを出願条件とし、高等学校長の推薦に基づき、調査書並びに志望理由書、小論文、面接(又はグループディスカッション)・プレゼンテーション等により、意欲、思考力、判断力等を総合的に評価する。経済経営学専攻については、数学に関する基礎学力を評価する。

[特別入試]

- ① 外国高等学校卒業生及び帰国生徒対象入学試験
- ② 社会人入学試験
- ③ 外国人学生特別入学試験
- ④ 編入学・転入学試験

⑤ 学士入学試験

いずれの入試も、募集人数は若干名とし、基礎学力、出願書類、筆記試験、面接等により、意欲や多様な背景によって培われた思考力、判断力等を総合的に評価する。さらに経済経営学専攻においては、大学で経済学を学ぶ上で数学的に思考する力や統計的な処理方法等が必要となるため、数学の基礎知識を評価するために数学の基礎試験を課す。

外国人学生については、英語が既習であることを出願条件とする。また、出願時には留学にかかる経費負担計画書(本学所定用紙)を提出させ、留学するために係る経費をどのように負担するのか事前に確認する。入学後については指導教授と教務課等の事務部局が連携して在籍状況を管理する。なお本学では、社会人入学試験の出願条件として下記の条件を設けている。

・社会人入学試験の出願条件

入学時に満 23 歳以上の者であって、一定の社会経験を有し、以下のいずれかの条件を満たしている者。

- a. 高等学校又は中等教育学校を卒業した者
- b. 定時制、通信制の高等学校を卒業した者及び卒業見込みの者
- c. 高等学校卒業程度認定試験合格者(大学入学資格検定合格者を含む)及び合格見込みの者
- d. 旧制諸学校の卒業者、又は中途退学者で文部科学大臣の定めるところによって大学入学資格を有する者

(3) 選抜体制

入学者選抜の実施体制としては、一般選抜(一般方式)では全学体制の入試委員会が中心となり、大学協議会を経て決定した入試大綱に基づき実施する。なお、事務所管は入試課となっている。

また、「武蔵大学入学者選抜規程」に基づき、入学者選抜に関する審議機関として、学長を議長とした全学アドミッション会議を設置し、その下に全学歩留会議を設置している。

合格者については、各学部の歩留会議を経て、全学歩留会議にて審議し、さらに各学部教授会の判定会議を経て学長が決定している。初年度においては、教授会に相当する国際教養学部設置準備室会議にて判定を行う。

8. 教員組織の編制の考え方及び特色

大学設置基準第7条を踏まえ、本学部の教育研究上の目的を達成するために各専門領域に関する

る十分な学識と経験を有する教員を適切に配置する。また、教員組織は授与する学位に対応した専門領域を研究分野の中心とする専任教員によって編制する。

経済経営学専攻は、授与する学位を「経済学分野」とし、組織として研究対象とする分野も経済学、経営学が中心となるため、これらの分野を専門とする専任教員によって編制する。既設の経済学科から教授4名、経営学科から教授1名、PDP 教育センターから教授1名、准教授1名(2021年9月着任)、専任講師2名、助教1名(2021年9月着任)の計10名の移籍者によって構成する。

グローバルスタディーズ専攻は、授与する学位を「文学分野」とし、組織として研究対象とする具体的な分野は Global Relations、Global Communication Studies、Global Cultural Studies が中心となるため、これらの分野を専門とする専任教員によって編制する。既設の英語英米文化学科から教授2名、准教授2名、専任講師2名(内1名は2022年度より助教から専任講師に昇格)の計6名の移籍者、新規採用として准教授1名(2021年4月着任)、専任講師3名(2022年4月着任)の合計10名によって構成する。加えて、2024年度からヨーロッパ文化学科から教授1名が移籍するため、完成年度には合計11名の専任教員によって構成される。

専任教員に関しては、既設学部及びPDP教育センターからの移籍者と新規採用者を合わせて、学部発足時には合計20名、完成年度には21名となる予定である。さらに、本学部は原則として全て英語で授業を行うため、全専任教員が英語による授業が可能である。加えて、海外での学位取得者も半数以上を占めている。また、必修科目のような主要な授業科目は、原則として教授や准教授が担当する。その他、外国語教育を充実させるために外国語科目専門の専任講師3名を配置している。

学部の教育研究の実施にあたっては、学部長のもと各専攻に Academic Director を配置し、必要に応じて各専攻又は学部内に各種委員会を設け、連携体制を整える。また、各専任教員の担当単位数(専攻により学期を分割して授業を開講しているため、ここでは単位数を基準とする)は、「専任教員責任時間規程」に定める「1週 5コマ(10時間)=20時間」を基準とし、過度な負担とならないように調整している【資料12】。

その他、研究体制としては武蔵大学総合研究所を通じた研究活動に加え、専攻の枠組みを超えた学部内学会を設け、紀要やリサーチペーパーの刊行等を行う予定である。

専任教員の年齢構成に関しては、両専攻ともに特定の年齢層に偏ることなく教員を配置しており、完成年度となる2025年度までに定年に達する専任教員はおらず、教育研究活動の継続性について問題はない。教育研究活動の実施にあたっては、幅広い学問分野を補完するため、専任教員に加えて兼任教員及び兼任教員を配置している。

本学の専任教員の定年については、「学校法人根津育英会武蔵学園教職員定年規程」、兼任教員については、「武蔵大学非常勤講師就業規則」により65歳と定められているが、専任教員に関して

は、「定年を超えた大学教授の再雇用に関する規程」、兼任教員に関しては、「武蔵大学非常勤講師就業規則」により70歳まで再雇用契約することが認められている【資料13、14、15】。

また、本学部の完成年度までに70歳を超える兼任・兼担教員のうち、特定分野の教育研究を担う教員については、「武蔵学園特別招聘教員に関する規程」に基づき、「特別招聘教員」として再雇用契約することが認められている【資料16】。

(表6) 専門分野と教員配置

(単位:人)

専門分野	人数					海外での学位取得者*	博士号保有者
	教授	准教授	講師	助教	計		
経済学	3	1	1	4	5	4	5
経営学	2	0	1	1	3	1	3
政治学	1	0	0	2	2	2	2
経済経営学専攻 計	6	1	2	7	10	7	10
国際関係論	0	2	0	2	2	2	2
応用言語学	1	1	3	5	4	5	0
文学・文化論	2	0	2	2	4	2	3
グローバルスタディーズ専攻 計	3	3	5	9	11	9	5
国際教養学部 合計	9	4	7	16	21	16	15

※教員名簿に記載した保有学位について記載

(表7) 教員の年齢構成

(上段は完成年度人数、下段は開設時人数)

	30-39歳		40-49歳		50-59歳		60-69歳		合計	
EM	1	(10.0%)	5	(50.0%)	2	(20.0%)	2	(20.0%)	10	(100%)
専攻	2	(20.0%)	5	(50.0%)	1	(10.0%)	2	(20.0%)	10	(100%)
GS	1	(9.1%)	6	(54.5%)	3	(27.3%)	1	(9.1%)	11	(100%)
専攻	2	(20.0%)	5	(50.0%)	3	(30.0%)	0	(0.0%)	10	(100%)
学部	2	(9.5%)	11	(52.4%)	5	(23.8%)	3	(14.3%)	21	(100%)
全体	4	(20.0%)	10	(50.0%)	4	(20.0%)	2	(10.0%)	20	(100%)

※EM 専攻:経済経営学専攻、GS 専攻:グローバルスタディーズ専攻

9. 施設、設備等の整備計画

(1) 校地、運動場の整備計画

本学部を設置する江古田キャンパスは東京都練馬区に位置し、校地面積 96,682.24 m²を有してお

り、大学設置基準に定める基準面積を十分に満たす校地を確保している。また、同キャンパスに同一法人である武蔵高等学校中学校が隣接しており、運動場 19,377.45 m²を共用している。その他、大学専有の運動施設として埼玉県朝霞市に所在する朝霞キャンパスに運動場用敷地として 63,521.83 m²を有している。

江古田キャンパスは、都心に近い立地ながら、樹齢 100 年を超えた大木や練馬区保護樹木に指定された数多くの木々が点在し、かつて農業用水として活用された上水の分水が小川として敷地内に流れている。また、学園の大講堂及び大学 3 号館は、長期使用を考慮した設計のもと、長年にわたり適切に維持保全され、さらに今後相当の期間にわたって維持保全されることが計画されている模範的な建築物に与えられる BELCA 賞（公益社団法人ロングライフビル推進協会 BELCA）のロングライフ部門を受賞する等、都心にいながら緑豊かな敷地で、歴史ある建物を大切にしつつ利用者の利便性にも配慮したキャンパスを整備している。

学生の休息等のスペースとして、江古田キャンパス内に屋外広場3か所、屋上庭園3か所、水辺の遊歩道、学生食堂・学生ホール、学生ラウンジ(2号館及び3号館)を設けている。構内通路にはテーブルやベンチ等を設置しており、自由に利用できるようになっている。また、2021 年秋には、新たに大学 11 号館が完成する予定となっており、教室や個人研究室等の他、学生の憩いの場を設ける予定である。

運動場として、江古田キャンパスには陸上・サッカーグラウンド及び野球場を共有施設として有している。その他、大学 10 号館には、トレーニング室、卓球場、武道場を設けている。朝霞キャンパスには、多競技に利用できる総合的なグラウンドを有しており、アメリカンフットボール・ラクロス場(人工芝1面)、サッカー・ラグビー場(人工芝1面)、野球場(1面)及び屋内野球練習場(人工芝 472.71 m²)、テニスコート(人工芝5面)、グラウンドホッケー場(人工芝1面)、洋弓場(1面)、和弓場(人工芝1面)、さらに付帯施設として更衣室、シャワー室、会議室、多目的室を備えたクラブハウス棟(1,579.36 m²)、第一部室棟(411.54 m²)、第二部室棟(576.89 m²)、合宿所(589.26 m²)を備えている。全ての運動場に夜間利用のための照明設備を設置し、課外活動を中心とし、一部の体育実技でも利用できる施設として整備している。また、朝霞キャンパスへの移動手段は電車及びバスの公共交通機関(所要時間約 50 分)の他、江古田キャンパスと朝霞キャンパスを往復するシャトルバスを運行している(所要時間約 40 分)。

(2)校舎等施設の整備計画

施設・設備については、本学が擁する全学部・研究科で共用しており、大学設置基準に定める基準面積を十分に確保するとともに、全学で共用することにより、施設を有効かつ効率的に活用することが可能となっている。

江古田キャンパスの教室数の内訳としては、講義室 52 室、演習室 35 室、実験・実習室 23 室、情報処理学習施設 12 室、語学学習施設3室となっており、これらに加え、図書館、グループスタディーズルーム、個人研究室、学生食堂等を整備している。さらに、2022 年度からは 2021 年秋に完成する大学 11 号館(702.92 m²)に小教室2教室、中教室2教室、学部共通のラーニングコモンズ、各学部のグループスタディーズルーム、個人研究室 14 室等が加わる予定である。なお、江古田キャンパスの 2019 年度教室稼働状況(前後学期平均)は、演習室(36 名以下)18%、小教室(24 名～79 名)49%、中教室(80 名～150 名)31%、大教室(151 名以上)19%であり、全体でも 27%となっている。

本学部は大学全体の収容定員を変更させず、既設学部の収容定員の一部を移行して設置するため、現在の教室の稼働状況等から本学部の教育研究活動を行う上での校舎等施設は十分に確保しているといえる【資料 17】。

専任教員に対しては、個人研究室を整備する。ただし、専任教員のうち助教及び外国語科目専門の専任講師については、個人研究室又は個人研究室の代替として十分なスペースや設備を整え、同等の質を担保した共同研究室を整備する。また、オフィスアワーや学修相談等の相談に際しては、学修相談スペース等を活用し、学生が自由に相談できる環境を整備する。以上のことから、本学部の設置にあたって、校舎等施設設備は十分に確保しているといえる。

(3) 図書等の資料及び図書館の整備計画

江古田キャンパスには、大学図書館棟(本館)と8号館地下に洋書プラザを整備している。図書館蔵書数は 699,306 冊(2021 年1月現在)、開設年度である 2022 年度までに蔵書を 711,768 冊に整備し、完成年度である 2025 年度には 743,488 冊に達する見込みである。

この他、学術雑誌 4,617 種(2020 年3月現在)を所蔵しており、電子ジャーナル 9,939 タイトル(2021 年1月現在)も利用できる。

これらの図書及び雑誌等の資料は、本学の蔵書検索システム(OPAC)で学内及び学外からも検索することが可能である。さらに開設前年度である 2021 年度には、本学部専用の図書費用が計上されており、経済学、経営学、政治学、Global Relations、Global Communication Studies、Global Cultural Studies といった主要分野の図書等を拡充する予定である【資料 18】。

図書館の座席数は、本館 443 席、洋書プラザ 28 席、合計 471 席となっており、本館のみで収容定員の約 11.1%を確保している。その他、閲覧室には、PC 設置席 30 席、AV ブース 2 席、個人ブース 9 席やディスカッションスペース、グループ閲覧室、車椅子用閲覧席等を設け、学生の多様な学びの形態に対応している。2020 年度の図書館本館の通常期間の開館時間は、平日 9 時から 20 時としていたが、2021 年度からは閉館時間を 21 時に繰り下げるとともに、引き続

き、学生の利用状況の増加に鑑み、卒業論文執筆時期等は日曜日の開館も行う予定である。

また、本学では五大学図書館相互利用に関する協定(学習院大学・成蹊大学・成城大学・甲南大学・武蔵大学)を締結しており、各大学に所属している学生、大学院生及び教職員は相互に大学図書館を利用することが可能である。さらに、テンプル大学ジャパンキャンパスとも図書館相互利用に関する協定を締結しており、相互利用が可能である。テンプル大学ジャパンキャンパス図書館では6万冊以上の図書と1,000タイトル以上の雑誌を所蔵しており、そのほとんどが英語の文献となっている。その他、本学が所蔵していない文献等の貸借や複写については、図書館間相互貸借サービス (ILL システム) を利用している。

10. 管理運営

(1) 全学の管理運営

本学は、「武蔵大学学則」第5条により、「学長は、本大学の校務をつかさどり、所属教職員を統督する」と規定するとともに、同第2項において学長の職務遂行のための補佐として副学長を置くことができる」と規定している。全学的な重要事項については学長、副学長、学部長、研究科委員長、教務部長、学生支援センター長及び大学事務局長を構成員とする大学執行部会議にて原案を策定し、全学の主要な役職者及び事務局代表者が構成員となっている大学協議会で審議している【資料 19】。

加えて、学長の諮問を受け大学全体に関する緊急かつ重要な事項を審議し、学長に意見を述べることを目的として全学教授会を設置している。全学教授会は学長が招集し、学長は、全学教授会に出席して意見を聞くことができる。

(2) 学部の管理運営

学部の管理運営は、「武蔵大学学則」第5条第3項により、「学部長は学長を補佐し、学部の校務をつかさどる」と規定している。

また、「武蔵大学学則」第9条に、学長が決定を行うに当たり、意見を述べるものとして教授会の設置が規定されている。教授会は、学部の専任の教授、准教授及び講師をもって構成され、学部長が招集し議長となり、原則として月1回開催する。さらに必要に応じて、臨時教授会を開催する。さらに、緊急かつ重要な事項について教授会の開催が困難である場合は、代議員会を開催する。なお、教授会の定足数は、構成員の3分の2以上の出席となっている。また議決については、出席者の過半数の同意をもって決議するが、教員人事等、議長が特に重要と認める重要議題については、出席者の3分の2以上の同意をもって決議する。なお、教授会の審議事項及び学校教育法の改正により学長が定

めた教育、研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして別に定めた事項は以下のとおりである。

「武蔵大学教授会規程」第7条による学部教授会審議事項

(1) 学則第9条第4項第1号及び第2号に定める事項

- ア 学生の入学、卒業に関する事項
- イ 学位の授与に関する事項

(2) 学則第9条第4項第3号により学長が別に定める審議事項

(3) 教授会が置かれる組織の長がつかさどる教育、研究に関する事項

- ア 学部長の選挙並びに学園、大学及び学部の役職者等の推挙又は選出に関する事項
- イ 学部の諸規程の制定及び改廃に関する事項
- ウ 教育上又は研究上の施設要望及び予算案に関する事項
- エ 学部の各種委員会に関する事項
- オ その他学部の運営上重要な事項

学長指針「学校教育法の改正に伴う教授会の審議事項について」

1 「武蔵大学学則」第9条第4項第3号及び「武蔵大学大学院学則」第9条第3号に規定する事項

- (1) 教員の人事に係る教育、研究業績の審査に関する事項
- (2) 学部及び研究科の将来構想に関する事項
- (3) 教育、研究に関する事項
- (4) 学生の指導・厚生及び賞罰に関する事項
- (5) 名誉教授の称号に関する事項

その他、教授会は学長及び学部長等がつかさどる教育、研究に関する事項について審議し、学長等の求めに応じ、意見を述べるができるとしている。

(3)教授会以外の管理運営

本学は教学上の各種ニーズに対応する組織として教務部、グローバル教育センター、PDP 教育センター、基礎教育センター、情報・メディア教育センター、学生支援センター、キャリア支援センター、総合研究所、大学図書館を配置している。全学的な委員会として、全学アドミッション会議、入試委員会、ファカルティ・ディベロップメント委員会、人権委員会、広報委員会、内部質保証委員会、自己点検・評価委員会等を設置し、学長又は学長が任命ないし推薦する副学長、部長、センター長、委員長等のもと、専任の教職員を構成員とし、各委員会等の諸規程に基づき定期的に開催している。また、

各部局ないし委員会の責任者は必要に応じて学長、副学長及び大学事務局長との定例会を開催し、管理運営を行っている。

11. 自己点検・評価

本学では、「武蔵大学学則」第1条の2において、人材養成及び教育研究上の目的を達成し、教育研究の向上を図るため、自ら点検・評価を実施し、その結果を公表すると規定している。

また、「武蔵大学自己点検・評価規程」に「本学における自己点検・評価とは、内部質保証委員会が定める方針及び手続きに基づき、各部局及び組織の教育、研究及び管理運営の状況等について、現状の把握及び検証を行い、その結果を改善につなげる取り組みをいう」と規定し、内部質保証委員会が定めた毎年度の「自己点検・評価の基本方針」が大学協議会を通じて全教職員に示される。

(1) 実施方法

内部質保証委員会が定めた「自己点検・評価の基本方針」に基づき、毎年度、自己点検・評価を実施している。具体的な点検・評価対象としては、毎年度の中期計画に基づく事業報告書、公益財団法人大学基準協会（以下、「大学基準協会」という。）が定める「大学基準」に基づく取り組み状況、三ポリシーに基づく教育プログラムの検証の他、所轄官庁や認証評価機関から示された留意事項に関する事項、内部質保証委員会が必要と認めた事項について点検・評価を行っている。各部局等が実施する点検・評価にあたっては、内部質保証委員会が定めた統一様式により行っている。また、点検・評価にあたっては、中期計画の各施策に対する PDCA 指標や大学基準協会が定める「大学基準」を評価項目として用いている。

さらに、自己点検・評価の客観性と妥当性を担保するために、大学基準協会による大学評価に加え、他大学との相互評価や高等学校、行政、企業関係者を委員とした外部評価を実施している。

(2) 実施体制

本学の自己点検・評価は、【資料 20】に示した内部質保証体制のもと実施している。学部・研究科等、各部局における自己点検・評価に関しては、学部長、研究科委員長等の長を責任者として自己点検・評価を実施することが「武蔵大学自己点検・評価規程」第9条に定められている。さらに学部の自己点検・評価報告書については、必ず教授会に報告することとなっている。

学部・研究科等が実施した自己点検・評価結果については、副学長を委員長とした全学自己点検・評価委員会にて、全学的な観点から諸活動について点検・評価し、その結果を自己点検・評価報告

書として取り纏め、内部質保証の推進を目的として設置された内部質保証委員会に提出することとしている。学長を委員長とした内部質保証委員会においては、全学自己点検・評価委員会が行った点検・評価結果をもとに、教育研究活動の改善・向上のための方策を策定し、大学協議会を通じて各部局等に周知している。改善方策に対する実績や進捗状況等については、毎年度の事業報告と合わせて報告する仕組みとなっており、このことにより内部質保証システムの構築を図っている。

(3) 結果の活用・公表

本学は、2014年度に大学基準協会による第2期大学評価(認証評価)を受審し、適合を受けた後に、「点検・評価報告書」及び「評価結果」について大学公式ホームページに公表した。評価結果に付された指摘事項に関しても「改善報告書検討結果」として公表している。

その他、2017年度と2019年度に実施した成城大学との相互評価結果や2018年度に実施した外部評価結果についても大学公式ホームページに公表している。これらの評価結果については、内部質保証委員会で検討がなされ、各部局へ改善方策を示し、教育研究活動や三ポリシーの改善等に活用している。

以上、本学では教育研究活動の向上に資するために自己点検・評価を実施している。加えて、認証評価機関による大学評価を受審し適合の認定を受け、点検・評価結果については、大学公式ホームページに公表していることから、学校教育法第109条に即した自己点検・評価に取り組んでいるといえる。

12. 情報の公表

本学では、学校教育法施行規則第172条の2に基づき、大学公式ホームページ上に「教育情報の公表」のページを設けて教育研究活動等に関する情報を公表している。その他、教育研究上の目的に応じて学生が修得すべき知識及び能力に関する情報を積極的に公表するように努めている。公表している情報は、以下のとおりである。

(1) 教育研究上の目的に関すること

➤ 教育研究上の目的 (大学全体・各学部・研究科)

トップ>大学案内>教育情報の公表>1.教育研究上の目的

URL:<https://www.musashi.ac.jp/about/disclosure/purpose.html>

(2)教育研究上の基本組織に関すること

➤ 教育研究上の基本組織

トップ>大学案内>教育情報の公表>2.教育研究上の基本組織

URL:<https://www.musashi.ac.jp/about/disclosure/organization.html>

(3)教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

➤ 教員組織、教員の数(男女別・職位別)、専任教員年齢構成(男女別・職位別)

トップ>大学案内>教育情報の公表>3.教員組織、教員数、学位・業績

URL:<https://www.musashi.ac.jp/about/disclosure/teacher.html>

➤ 保有学位(各学部・学科)、業績(各学部・学科)

トップ>大学案内>教育情報の公表>3.教員組織、教員数、学位・業績>教員紹介はこちらから
>教員プロフィール

URL:

https://up.musashi.ac.jp/pfm/japanese/index.html?_ga=2.184265058.514171152.1615956888-1450977542.1614297333

(4)入学者に関する受入れ方針及び入学者の数、入学定員、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

➤ 入学者受入れの方針(大学全体・大学院全体)

トップ>大学案内>教育情報の公表>4.学生の受入、進路状況>アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

URL:https://www.musashi.ac.jp/about/disclosure/student/admission_policy.html

➤ 入学者受入れ方針(各学部・研究科)

[経済学部アドミッション・ポリシー]

トップ>学部>経済学部>経済学部の各種ポリシー>アドミッション・ポリシー

URL:<https://www.musashi.ac.jp/faculty/economics/policy.html#anchor03>

[人文学部アドミッション・ポリシー]

トップ>学部>人文学部>人文学部の各種ポリシー>アドミッション・ポリシー

URL:<https://www.musashi.ac.jp/faculty/humanities/policy.html#anchor03>

[社会学部アドミッション・ポリシー]

トップ>学部>社会学部>社会学部の各種ポリシー>アドミッション・ポリシー

URL:<https://www.musashi.ac.jp/faculty/sociology/policy.html#anchor03>

[経済学研究科アドミッション・ポリシー]

トップ>大学院>経済学研究科>その他>経済学研究科の各種ポリシー>アドミッション・ポリシー

URL:<https://www.musashi.ac.jp/graduate/economics/policy/index.html#anchor03>

[人文科学研究科アドミッション・ポリシー]

トップ>大学院>人文科学研究科>その他>人文科学研究科の各種ポリシー>アドミッション・ポリシー

URL:<https://www.musashi.ac.jp/graduate/humanities/policy/index.html#anchor03>

➤ 入学者の数、入学定員

トップ>大学案内>教育情報の公表>4.学生の受入、進路状況>入学者数・入学定員(推移)

URL:<https://www.musashi.ac.jp/about/disclosure/student/admission.html>

➤ 収容定員、収容定員充足率

トップ>大学案内>教育情報の公表>4.学生の受入、進路状況>収容定員数、収容定員充足率

URL:<https://www.musashi.ac.jp/about/disclosure/student/quota.html>

➤ 在学する学生の数

トップ>大学案内>教育情報の公表>4.学生の受入、進路状況>在籍学生数

URL:<https://www.musashi.ac.jp/about/disclosure/student/enrollment.html>

➤ 卒業又は修了した者の数、進学者数、就職者数

トップ>大学案内>教育情報の公表>4.学生の受入、進路状況>卒業(修了)者数、進学者数、就職者数、学位授与数

URL:<https://www.musashi.ac.jp/about/disclosure/student/graduate.html>

➤ 就職等の状況

トップ>学生生活・就職>就職・キャリア>就職データ>就職状況

URL:<https://www.musashi.ac.jp/campuslife/career/data/index.html>

(5) 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

➤ 全科目のシラバス(授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画を含む)の検索及び閲覧方法

トップ>大学案内>教育情報の公表>5.授業科目・年間授業計画>授業科目・内容・年間計画(シラバス)

URL:<https://www.musashi.ac.jp/about/disclosure/class/syllabus.html#anchor01>

(6)学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

➤ 学修の成果に係る評価、卒業又は修了の認定に当たっての基準

[大学・大学院ディプロマ・ポリシー]

トップ>大学案内>教育情報の公表>6.成績評価基準、卒業・修了認定基準>ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針)

URL:https://www.musashi.ac.jp/about/disclosure/evaluation/diploma_policy.html

[経済学部ディプロマ・ポリシー]

トップ>学部>経済学部>経済学部の各種ポリシー>ディプロマ・ポリシー

URL:<https://www.musashi.ac.jp/faculty/economics/policy.html#anchor01>

[人文学部ディプロマ・ポリシー]

トップ>学部>人文学部>人文学部の各種ポリシー>ディプロマ・ポリシー

URL:<https://www.musashi.ac.jp/faculty/humanities/policy.html#anchor01>

[社会学部ディプロマ・ポリシー]

トップ>学部>社会学部>社会学部の各種ポリシー>ディプロマ・ポリシー

URL:<https://www.musashi.ac.jp/faculty/sociology/policy.html#anchor01>

[経済学研究科ディプロマ・ポリシー]

トップ>大学院>経済学研究科>経済学研究科の各種ポリシー>ディプロマ・ポリシー

URL:<https://www.musashi.ac.jp/graduate/economics/policy/index.html#anchor01>

[人文科学研究科ディプロマ・ポリシー]

トップ>大学院>人文科学研究科>人文科学研究科の各種ポリシー>ディプロマ・ポリシー

URL:<https://www.musashi.ac.jp/graduate/humanities/policy/index.html#anchor01>

[アセスメント・ポリシー]

トップ>大学案内>大学の各種方針>アセスメント・ポリシー

URL:<https://www.musashi.ac.jp/about/policy/assessment.html>

[学部成績評価基準]

トップ>大学案内>教育情報の公表>6.成績評価基準、卒業・修了認定基準>学部成績評価基準

URL:<https://www.musashi.ac.jp/about/disclosure/evaluation/gpa.html>

[大学院成績評価基準]

トップ>大学案内>教育情報の公表>6.成績評価基準、卒業・修了認定基準>大学院成績評価基準

URL:https://www.musashi.ac.jp/about/disclosure/evaluation/graduate_grade.html

[学部卒業認定基準]

トップ>大学案内>教育情報の公表>6.成績評価基準、卒業・修了認定基準>学部卒業認定基準

URL:<https://www.musashi.ac.jp/about/disclosure/evaluation/requirements.html>

[大学院修了認定基準]

トップ>大学案内>教育情報の公表>6.成績評価基準、卒業・修了認定基準>大学院修了認定基準

URL:https://www.musashi.ac.jp/about/disclosure/evaluation/graduate_requirements.html

(7)校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

➤ 校地・校舎等の施設及び設備

[交通案内]

トップ>アクセス

URL:<https://www.musashi.ac.jp/access/access.html>

[江古田キャンパス]

トップ>大学案内>キャンパス・施設案内 江古田キャンパス

URL:<https://www.musashi.ac.jp/about/campus/index.html>

[朝霞グラウンド]

トップ>大学案内>キャンパス・施設案内>朝霞グラウンド・朝霞プラザ

URL:<https://www.musashi.ac.jp/about/campus/asaka.html>

[学生寮]

トップ>学生生活・就職>学生生活の支援>学生寮・住まい紹介

URL:<https://www.musashi.ac.jp/campuslife/support/dormitory.html>

[学外施設]

トップ>大学案内>キャンパス・施設案内>学外施設

URL:<https://www.musashi.ac.jp/about/campus/outside.html>

[施設利用案内]

トップ>学生生活・就職>課外活動の支援>施設利用案内

URL:https://www.musashi.ac.jp/campuslife/club_circle/facilities.html

[課外活動]

トップ>学生生活・就職>課外活動の支援

URL:https://www.musashi.ac.jp/campuslife/club_circle/index.html

[クラブ・サークル]

トップ> 学生生活・就職> 課外活動の支援> クラブ・サークル一覧

URL:https://www.musashi.ac.jp/campuslife/club_circle/list.html

➤ その他の教育研究環境

[大学図書館]

トップ> 大学案内> キャンパス・施設案内> 武蔵大学図書館

URL:<https://www.musashi.ac.jp/library/index.html>

[情報・メディア教育センター]

トップ> 教育の特長> 情報・メディア教育センター

URL:<https://www.musashi.ac.jp/education/mlc/index.html>

[グローバル教育センター]

トップ> 教育の特長> グローバル教育センター

URL:https://www.musashi.ac.jp/education/global_education_center/index.html

[基礎教育センター]

トップ> 教育の特長> 基礎教育センター

URL:https://www.musashi.ac.jp/education/kisokyoiku_center/index.html

(8) 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

- 授業料（各学部・研究科）、入学料（各学部・研究科）、科目等履修生、研究生費用等、学生寮費、校外施設利用費

トップ> 大学案内> 教育情報の公表> 8. 授業料、入学料等の学費

URL:<https://www.musashi.ac.jp/about/disclosure/fees/index.html>

(9) 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

- 奨学金

トップ> 学生生活・就職> 学費・奨学金> 奨学金・教育ローン

URL:<https://www.musashi.ac.jp/campuslife/fees/scholarship.html>

- 留学

トップ> 教育の特長> グローバル教育> 留学／国際交流

URL:<https://www.musashi.ac.jp/education/global/abroad/index.html>

- 外国語学習

トップ>教育の特長>グローバル教育>外国語学習支援

URL:<https://www.musashi.ac.jp/education/global/program/index.html>

➤ 図書館

トップ>図書館の紹介

URL:<https://www.musashi.ac.jp/library/shoukai/shoukai.html>

➤ アパート/マンション紹介等

トップ>学生生活・就職>相談窓口と支援組織>学生寮・住まい紹介>学生向けアパート・マンションのご紹介

URL:<https://www.musashi.ac.jp/campuslife/support/dormitory.html#anchor02>

➤ 就職サポート、キャリア支援事業

トップ>学生生活・就職>就職・キャリア>キャリア支援センターについて

URL:<https://www.musashi.ac.jp/campuslife/career/about.html>

➤ 学生相談室

トップ>学生生活・就職>相談窓口と支援組織>学生相談室>学生相談室のご案内

<https://www.musashi.ac.jp/campuslife/org/counseling/about.html>

➤ 大学保健室

トップ>学生生活・就職>相談窓口と支援組織>大学保健室>大学保健室のご案内

<https://www.musashi.ac.jp/campuslife/org/infirmary/about.html>

➤ 人権/ハラスメント

トップ>学生生活・就職>相談窓口と支援組織>学生支援センター 学生生活課>人権・ハラスメント

https://www.musashi.ac.jp/campuslife/org/student_support_center/harassment.html

➤ 障がい学生支援

トップ>学生生活・就職>相談窓口と支援組織>学生支援センター 学生生活課>障害のある学生への支援

URL:https://www.musashi.ac.jp/campuslife/org/student_support_center/accessibility.html

(10)その他（教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報、学則等各種規程、設置認可申請書、設置届出書、設置計画履行状況等報告書、自己点検・評価報告書、認証評価の結果等）

➤ 学則等各種規程

トップ>大学案内>教育情報の公表>10.その他教育研究上の各種情報

URL:<https://www.musashi.ac.jp/about/disclosure/info/index.html>

- 設置認可申請書、設置届出書、設置計画履行状況等報告書

トップ>大学案内>教育情報の公表>設置認可申請書・届出書、履行状況報告書

URL:<https://www.musashi.ac.jp/about/disclosure/application.html>

- 大学評価結果(自己点検・評価、認証評価、外部評価)

トップ>大学案内>教育情報の公表>大学評価

URL:<https://www.musashi.ac.jp/about/disclosure/evaluation.html>

- 学生調査結果

トップ>大学案内>教育情報の公表>学生調査

URL:<https://www.musashi.ac.jp/about/disclosure/investigation.html>

その他、財務状況についても、大学公式ホームページ上に「事業計画・報告、財務情報」のページを設けて、以下の情報を公表している。

- 資金収支計算書、活動区分資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表、財産目録
- 事業報告書
- 監事の監査報告書

トップ>大学案内>大学の概要と情報>事業計画書・事業報告書>事業計画書・報告書、予算・決算

URL:https://www.musashigakuen.jp/gakuen/zigyousaizaimu/keikakuhoukoku_yosan_kessan.html

13. 教育内容等の改善を図るための組織的な取組

(1) 授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修等

① 実施体制

本学では、大学設置基準第 25 条の3に基づき、教員の専門能力の組織的開発を促進するために、ファカルティ・ディベロップメント(以下、「FD」という。)活動に取り組んでいる。FD 活動推進のために FD 委員会を設置し、学長が指名する専任教員を委員長として、学部長、研究科委員長、教務部長、各学部・研究科選出委員、大学企画室長、教務課長及びその他FD委員長が指名する者により構成している。

② 実施内容

本学における FD 活動の基本方針は、「武蔵大学における FD 活動の基本的方針と課題」に

定めている。また、全学的に実施する毎年度のFD活動は、以下の3点を中心に行っている。

i. 授業評価アンケート

各学期末に全授業を対象として実施し、アンケート結果は、教員及び履修学生に公表している(一部、対象外科目あり)。2020年度は、新型コロナウイルスの感染拡大により、オンライン授業に関するアンケートも実施し、授業改善を行った。

ii. FD 研修会

教職員を対象に年1回、外部講師又は学内講師による研修会を実施している。加えて、六大学における合同FD・SD等の実施に関する包括協定に基づき、六大学(学習院大学、学習院女子大学、甲南大学、成蹊大学、成城大学、本学)合同のFD研修会を開催している。

iii. FD フォーラム

授業改善に向けた学生の提言をもとに、学生、教員、職員が授業改善に向けた意見交換を行っている。

その他、学長、副学長及び学部長等による新任専任教員ガイダンス、FD活動報告書の作成及び公表、授業改善に向けた他大学調査、情報収集等を行っている。2020年度は、新型コロナウイルスの感染拡大によりオンライン授業を実施することとなったため、著作権の取り扱いやオンライン授業に関する情報提供、オンライン授業に関する研修会を開催した。

また、全学的なFD活動とは別に各学部・研究科及び教務部が独自に部会としてFD活動を行っている。

本学部では、学部運営上の方針の1つに「Student engagement (学生にも積極的に意見を述べてもらい、教育を改善していく)」を掲げており、全学的に実施しているFDフォーラム等に加え、定期的に学生、保護者等、教員、職員の意見交換の場を設け、教育研究活動の向上を図る。

(2) 管理運営に必要な知識及び技能の修得、能力及び資質の向上を図るための研修等

① 実施体制

本学では、大学設置基準第42条の3に基づき、教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るために必要な知識及び技能を修得させ、その能力及び資質を向上させることを目的とし、「学校法人根津育英会武蔵学園スタッフ・ディベロップメント(SD)計画」を策定した。この計画に基づき、事務職員だけでなく、役員や教員に対しても研修を実施している【資料21】。

職員や役員に対する研修等は人事課が、教員に対する研修等は人事課と学長が協議の上、研修内容を決定している。

② 実施内容

本学における具体的な SD 研修として、全教職員を対象とした全体研修、階層別研修、職員に関しては、資格・職位に応じた部署別業務研修及び教育関係機関への派遣・出向による研修が挙げられる。

全教職員向けの研修としては、人権研修や情報セキュリティ研修等が挙げられる。その他、大学協議員を対象とした財務に関する研修等を実施している。また、職員に対しては、職員に求められる専門知識及び能力を修得し、職務遂行能力の向上を目的とする大学院への入学に対する経費助成やグローバル化に向けた語学力向上のための支援等、自己啓発に対する補助制度が設けられている。

14. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

(1) 教育課程内の取り組みについて

本学部は、世界を牽引するグローバルリーダーの養成を教育研究上の目的としており、本学部の教育課程を通じて、グローバル化した社会における社会的・職業的自立を図るために必要な知識や能力を身につけることが可能である。

具体的には、総合科目に(F)ライフマネジメントとキャリアデザインの分類を設け、仕事や職業理解を中心にキャリアデザインに関する知識を修得するとともに、学生自身のキャリアデザイン能力を広げることを目指すために「キャリアデザイン論 A、B」や「キャリアデザイン演習」等の科目を配置している。

さらに、「インターンシップ」、「インターンシップ特講」等、就業体験を通じて、ビジネスマナー、自己分析や将来のキャリア形成の基盤となる考え方を身につける科目を配置している。

また、専門科目においては、専攻基礎科目の学部共通科目に批判的思考力を養う「Introduction to Critical Thinking」、海外でのインターンシップやボランティア等を通じて、異文化理解を深める「Global Service Learning A1～C2」を配置している。その他、専攻専門科目には、経済学、経営学の知識や異文化理解を深める科目に加え、統計的手法を用いた論理的思考を養う科目等も配置している。さらに、全学対象科目には、社会人基礎力を養うための「学部横断型課題解決プロジェクト」を配置している。

(2) 教育課程外の取り組みについて

教育課程外の取り組みとしては、キャリア支援センターを中心に、在学生・卒業生を問わず各人が

将来を見通したキャリア形成ができるよう、各種支援プログラム等を設けている。

具体的には、主に1～2年次生を対象として、キャリア支援ガイダンス、公務員志望者向けガイダンス、グローバルキャリア講座、3年次生を対象として、業界・企業研究講座、インターンシップ講座、4年次生を対象として各種ガイダンス、学内企業説明会、全学年を対象として資格取得支援のためのキャリアアップセミナー等を実施している【資料 22】。

また、小規模大学の強みを活かして、3年次生に対しては卒業後の進路選択や希望の進路に向けた準備の進め方について全員面談を実施し、学生一人ひとりの希望するキャリアプランに沿った個別相談を行っている。加えて、就職活動を終えた4年次生による個別相談会「就活サポーター's カフェ」や「武蔵しごと塾」、社会の第一線で活躍する卒業生の全面的な協力による他業種交流会等を開催し、教職員だけでなく、在学生及び卒業生等とも連携した多面的な支援体制を整備している。

さらに、グローバルに働きたいと考えている学生向けに、グローバル人材の採用に特化した企業セミナー及び学内合同説明会の開催や外資系企業、国際機関等を招致し「グローバルな働き方セミナー」を開催している。その他、外国人留学生向けキャリアセミナーを開催している。

また、ビジネス特化型の SNS である LinkedIn にグループを作成し、卒業生との情報共有や意見交換の場、興味関心のある企業への接触機会等を提供している。さらに、経済経営学専攻の PDP 履修生は、国際的に活躍したいという気持ちが特に強いことから、積極的にグローバル人材を採用している就職エージェントを招いた講演会も開催している。その結果、ボストン・キャリア・フォーラムでの内定獲得や外資系企業への就職等の成果をあげている。

(3) 適切な体制の整備について

本学では、学生のキャリア支援を行う全学的な組織として「武蔵大学キャリア支援センター」を設置し、同センターに「武蔵大学キャリア支援センター委員会」を設け重要事項を審議・決定している。キャリア支援センターでは、教育研究等に関する各種方針に基づき、学生のキャリア教育の推進に関することや、進路・就職に係る支援業務の企画立案、総合科目(F)ライフマネジメントとキャリアデザインに配置されたキャリアデザインに関する科目やインターンシップ等の正課授業の支援等を行っている。

以上

資 料 目 次

- 資料 1: グローバル人材育成戦略(グローバル人材育成推進会議 審議まとめ) 抜粋
(2012年6月4日グローバル人材育成推進会議)
- 資料 2: 今後の採用と大学教育に関する提案－概要版－ 抜粋
(2018年12月4日一般社団法人 日本経済団体連合会)
- 資料 3: 武蔵大学国際教養学部 専門科目カリキュラム・マトリックス
- 資料 4: 武蔵大学ナンバリングコード一覧
- 資料 5: 経済経営学(EM)専攻 履修系統図
- 資料 6: グローバルスタディーズ(GS)専攻 履修系統図
- 資料 7: 経済経営学(EM)専攻 履修モデル
- 資料 8: グローバルスタディーズ(GS)専攻 履修モデル
- 資料 9: Global Service Learning 派遣先一覧
- 資料 10: 外国語現地実習・Intensive English Proficiency Test Practicum A・B 派遣先一覧
- 資料 11: インターンシップ派遣先(2018～2020年度)
- 資料 12: 専任教員責任時間規程
- 資料 13: 学校法人根津育英会武蔵学園教職員定年規程
- 資料 14: 武蔵大学非常勤講師就業規則
- 資料 15: 定年を超えた大学教員の再雇用に関する規程
- 資料 16: 武蔵学園特別招聘教員に関する規程
- 資料 17: 2019年度武蔵大学教室規模別教室稼働率
- 資料 18: 国際教養学部の必須図書等の一例
- 資料 19: 大学執行部会議規程
- 資料 20: 武蔵大学内部質保証システム体系図
- 資料 21: 学校法人根津育英会武蔵学園 スタッフ・ディベロップメント(SD)計画
- 資料 22: 主なキャリア支援プログラム(2019年度実績)

(抜粋) グローバル人材育成戦略

(グローバル人材育成推進会議 審議まとめ)

2012年(平成24年)6月4日

グローバル人材育成推進会議

目 次

はじめに	1
1. 基本的な問題意識について	3
(1) 海外留学の動向と「内向き志向」	
(2) 我が国の経済的な発展と国際社会との関わり	
2. グローバル人材の育成及び活用について	8
(1) 「グローバル人材」とは	
(2) グローバル人材の育成及び活用に向けた諸課題	
3. 英語教育の強化、高校留学の促進等の初等中等教育の諸課題について ...	12
(1) 実践的な英語教育の強化（英語・コミュニケーション能力、異文化体験等）	
(2) 高校留学等の促進	
(3) 教員の資質・能力の向上	
4. 大学入試の改善等の大学教育の諸課題について	15
(1) 大学入試等の初等中等教育と大学教育の接続の改善・充実	
(2) 国際的に誇れる大学教育システムの確立、高等教育の国際展開の推進	
(3) 留学生交流の戦略的な推進	
(ア) 日本人学生の海外留学の促進	
(イ) 海外からの留学生受け入れの促進	
(ウ) 留学生交流戦略の明確化等	
5. 採用活動の改善等の経済社会の諸課題について	20
(1) 採用活動等の教育と雇用の接続の改善・充実	
(ア) 海外へ出たことによる不利益の是正	
(イ) 海外へ出やすい環境の整備	
(2) 採用後のグローバル人材育成・活用の促進	
6. その他関連する重要課題について	24
(1) グローバル化に対応した職業教育・職業訓練等の充実	
(2) 国際的なボランティア活動の促進	
(3) 日本語・日本文化の世界的な普及・展開	
(4) グローバル人材の育成に向けた環境整備等	
おわりに	28

はじめに

- 2004年(平成16年)以降、海外へ留学する日本人学生の数は減少に転じている。また、特に米国の大学に在籍する日本人学生数は大きく落ち込んでいる。さらに、新入社員に対するアンケートでは、海外での勤務を希望しない者が増えているとの報告もある。
- 一方、経済成長の著しい中国やインドは海外留学生数を大きく増加させている。注目すべきは、我が国は、人口規模が我が国の約半分である韓国にも海外留学者の実数で劣り、しかもその差が拡大傾向にあることである。
- 人口減少と超高齢化が進む中で、東日本大震災という深刻な危機を経験した我が国経済が本格的な成長軌道へと再浮上するためには、創造的で活力のある若い世代の育成が急務である。とりわけ、グローバル化が加速する21世紀の世界経済の中にあっては、豊かな語学力・コミュニケーション能力や異文化体験を身につけ、国際的に活躍できる「グローバル人材」を我が国で継続的に育てていかなければならない。
- こうした問題意識の下に、我が国の成長の牽引力となるべき「グローバル人材」の育成と、そのような人材が社会で十分に活用される仕組みの構築を目指して、2011年(平成23年)5月、新成長戦略実現会議の下に関係閣僚からなる「グローバル人材育成推進会議」が設置され、またその下に関係の副大臣・政務官等からなる「グローバル人材育成推進会議幹事会」が設置され、同年6月には「中間まとめ」を取りまとめた。さらに、国家戦略会議の発足後も「グローバル人材育成推進会議」及び「同幹事会」は引き続き設置することとされた。
- あらためて言うまでもなく、国内外のグローバル化の流れはその速度を不可逆的に増している。グローバル人材に対する経済的社会的な需要・期待は、本推進会議設置後のこの1年程度のわずかな間に限ってみても、我が国社会のトップ・リーダーとしての期待から、国境を越えた市場の拡大や海外での現地生産の強化等に対応した厚みのある中核的・専門的人材層の需要へと急拡大する様相を呈しており、現在もなおその過渡期と見ることができる。

- こうした変転やまない先行き不透明な時代の中にあって政策を打ち出す上で重要と考えられるのは、
- 第一に、関係者がまず具体的なアクションを起こす必要があること、
 - 第二に、常に問題意識等を社会全体へ情報発信する姿勢が不可欠であること、
 - 第三に、これからの時代の人材育成については、教育と雇用の構造的なミスマッチを恒常的に埋める努力が求められること、
 - 第四に、特にグローバル人材の育成は、常に海外との関わりの中で国際的視点から枠組み(いわゆる「内なる国際化」を含めて)を構想する必要があること
- 等である。
- 本戦略は、2012年(平成24年)の年央に予定される国家戦略会議の「日本再生戦略」の取りまとめを前に、計4回の「グローバル人材育成推進会議」及び計7回の「同幹事会」での検討経過を踏まえて、基本的な問題意識や諸課題への対応方策等を取りまとめたものである。

〔 なお、☆は本文の記述に関連する施策等の提言事項、
【 】内はその関係各省を表す。 〕

1. 基本的な問題意識について

(1) 海外留学の動向と「内向き志向」

- グローバル化する世界の中であって、我が国では、「失われた 20 年」と言われるなど、経済のみならず社会の各分野で国内に停滞感が充満している。
- また、2004 年(平成 16 年)以降、海外へ留学する日本人学生の数は減少に転じ、特に米国の大学に在籍する日本人学生数が大きく落ち込んでいる。これは、米国以外の大学へ留学する者が増加してきたことをも考え合わせると、留学先の多様化と見ることもできる。また、若年人口全体が急激な減少傾向にあることの影響も大きい。しかし、同世代に占める留学者の比率が、昨今の経済情勢の影響もあって減少傾向に転じていることは大きな懸念材料と言えよう。また、日本人学生の海外留学者数の男女比はおよそ 1 対 2 との調査結果があり、男子学生の不振が際立っている。さらに、新入社員に対するアンケートでは、海外での勤務を希望する者とならない者とで二極化が進んでいるとの報告もある。
- 一方、諸外国の中で、経済成長の著しい中国やインドは海外留学生数を大きく増加させている。人口規模が我が国の約半分である韓国も海外留学者の実数で我が国を上回り、しかもその差が拡大傾向にあることは注目しなければならない。

図 1：日本人の海外留学者数

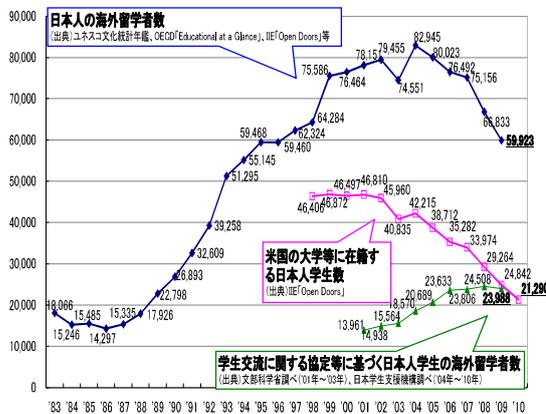


図 2：国（地域）別 学生の海外派遣者数の推移

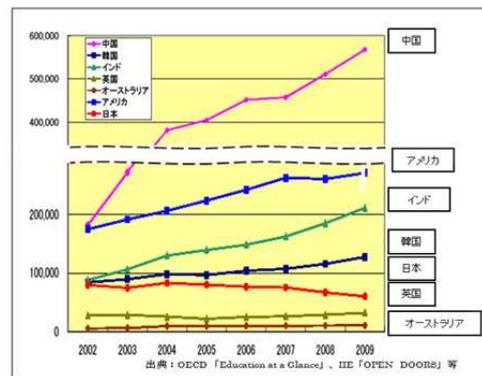
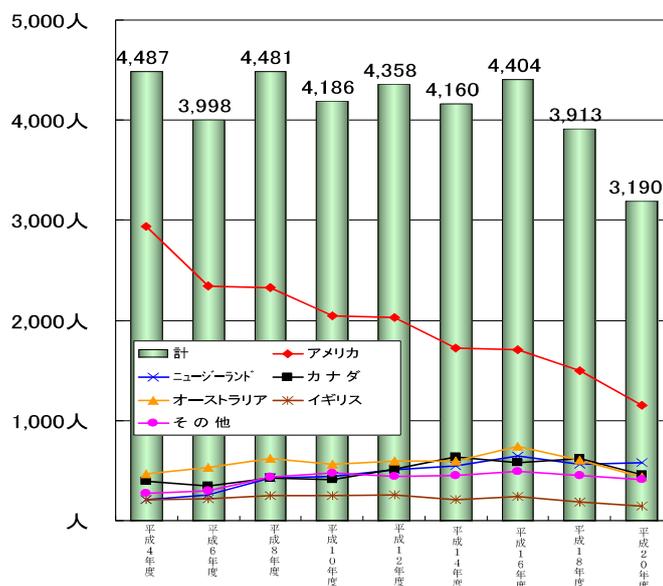


図3：高校生の留学者数（3ヶ月以上）行き先別生徒数推移



出典：文部科学省「平成20年度高等学校等における国際交流等の状況について」

- こうした我が国の状況に関し、一部には、若い世代の「内向き志向」を指摘する向きもあるが、この問題は、(若い世代の)意識の問題に安易に還元することなく、意識の背景となる社会システム上の構造的な要因を克服していくことが重要と考える。

図4：日本人学生の留学に関する主な障害

	件数	比率 (87大学中)
①就職	帰国後、留年する可能性が大きい	59 / 67.8%
②経済	経済的問題で断念する機会が多い	42 / 48.3%
③体制	帰国後の単位認定が困難	32 / 36.8%
	助言教職員の不足	23 / 26.4%
	大学全体としてのバックアップ体制が不備	21 / 24.1%
	先方の受け入れ大学の情報が少ない	9 / 10.3%
	両親、家族の理解が得られない	7 / 8.0%
	指導教員の理解が得られない	3 / 3.4%
	その他	27 / 31.0%

※国立大学協会国際交流委員会留学制度の改善に関するワーキング・グループが、各国立大学に対して留学制度の改善に関するアンケートを実施。
 ※本調査項目には87大学が回答。
 ※平成19年1月

- 従来、高校関係者は大学入試を、大学関係者は企業採用を過度に意識する一方で、企業側は国内の教育に必ずしも十分な関心を向けないまま、限られた「優秀」な人材の獲得のため先を争うかのように採用に走るといった風潮の中で、高校教育の困難化・大学教育の空洞化と採用の早期化・長期化が同時進行するという悪循環を招いてきたことは否めない。

- さらに、若年人口が減少する一方で大学等進学率が一貫して上昇する中、保護者が、進学率のまだそれほど高くなかった 20～30 年前の自らの経験に基づくイメージで、経済・雇用情勢が全く異なる現在の若い世代を「良い」学校→「良い」大学→「一流」企業→幸せな人生、という単線型の人生設計に駆り立てる傾向も根強くあったのではないか。「就職氷河期」「超氷河期」といった表現が繰り返し報じられる中で、この傾向が一層助長されてしまった面も見逃せない。
- 今後は、高校関係者、大学関係者、企業関係者、政府・行政関係者、保護者等が一齐に具体的な行動を起こすことで、若い世代を後押しする好循環を我が国社会全体で生み出していくことが不可欠である。

図 5：新入社員の海外勤務希望

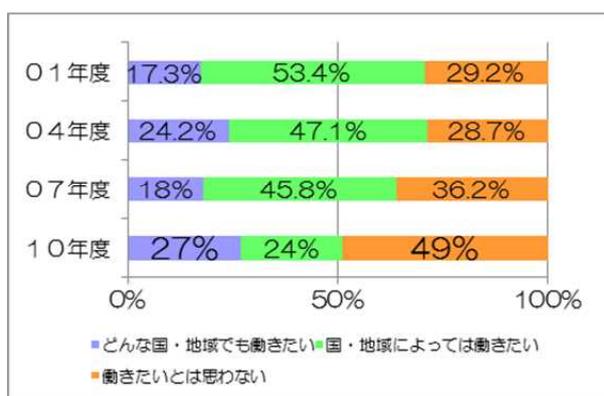


図 6：高等教育への公財政支出の対 GDP 比

	日本	アメリカ
公費負担	0.5%	1.0%
私費負担	1.0%	1.7%
うち家計	0.76%	1.12%
民間	0.24%	0.58%
合計	1.5%	2.7%

出典)「Education at a Glance」

出典) 学校法人産業能率大学「第 4 回 新入社員のグローバル意識調査」(2010年7月)

(2) 我が国の経済的な発展と国際社会との関わり

- 過去の歴史において、我が国は、時代ごとの危機的状況を積極的な人材派遣など海外との相互交流・接触の中で打開し克服してきた経験を持つ。
- しかし、1980年代頃までに「(経済的)豊かさ」を達成した結果、フロンティアを喪失することとなり、今日では、技術の先進性や一定規模の国内マーケットの存在などが却って「日本のガラパゴス化」を招きかねないとの懸念すら指摘される状況にある。
- 現状のままでは、中長期的な観点で経済成長の原動力となるべき有為な人材が枯渇して、我が国は本格的な再生のきっかけを失い、BRICs（ブラジル、ロシア、インド、中国）や VISTA（ベトナム、インドネシア、南アフリカ、トルコ、アルゼンチン）といった新興国の台頭等、変化の激しいグローバル化時代の世界経済の中で、緩やかに後退していくのではないかと危機感を抱かざるを得ない。
- 産業・経済の急速な高度化・グローバル化の中で、我が国がこのまま極東の小国へと転落してしまう道を回避するためには、あらためて海外に目を向けて「世界の中の日本」を明確に意識するとともに、自らのアイデンティティーを見つめ直すことが不可欠なのではないか。
- そしてこのことは、新たな時代の我が国の成長の牽引力となるのがもはや一握りのトップ・エリートのみであることを意味しない。様々な分野で中核的な役割を果たす厚みのある中間層を、言わば「21世紀型市民」として形成する上でも、今後は、国際社会との関わりを抜きにして語ることはできない。
- その上で、我が国は、「産業・経済上の活力の持続」と「社会生活面での幸福・充足感や(精神的)豊かさ」とが両立した、経済・社会の調和のとれた発展のモデルとなることを目指すべきである。そのことが、ひいては、言わば「課題解決先進国」として、我が国が世界からの信頼と尊敬を得て存在感のある国となることにつながるものと考えている。

- そのために、今こそ、社会全体のシステムをグローバル化時代に相応しいものに構築し直し、個々人の人生設計を柔軟かつ多様に支援する複線型の社会システムへと変革しなければならない。そしてその第一歩であり眼目とも言えるのが、国家戦略の一環としての「グローバル人材」の育成にほかならない。

2. グローバル人材の育成及び活用について

(1) 「グローバル人材」とは

- 「グローバル化」とは、今日、様々な場面で多義的に用いられるが、総じて、(主に前世紀末以降の)情報通信・交通手段等の飛躍的な技術革新を背景として、政治・経済・社会等あらゆる分野で「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」が国境を越えて高速移動し、金融や物流の市場のみならず人口・環境・エネルギー・公衆衛生等の諸課題への対応に至るまで、全地球的規模で捉えることが不可欠となった時代状況を指すものと理解される。
- 我が国がこれからのグローバル化した世界の経済・社会の中であって育成・活用していくべき「グローバル人材」の概念を整理すると、概ね、以下のような要素が含まれるものと考えられる。
 - 要素Ⅰ：語学力・コミュニケーション能力
 - 要素Ⅱ：主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感
 - 要素Ⅲ：異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティー
- このほか、「グローバル人材」に限らずこれからの社会の中核を支える人材に共通して求められる資質としては、幅広い教養と深い専門性、課題発見・解決能力、チームワークと(異質な者の集団をまとめる)リーダーシップ、公共性・倫理観、メディア・リテラシー等を挙げることができる。
- グローバル人材の概念に包含される要素の幅広さを考えると、本来、その資質・能力は単一の尺度では測り難い。しかし、測定が比較的容易な要素Ⅰ(「道具」としての語学力・コミュニケーション能力)を基軸として(他の要素等の「内実」もこれに伴うものを期待しつつ)、グローバル人材の能力水準の目安を(初歩から上級まで)段階別に示すと、例えば、以下のようなものが考えられる。
 - ① 海外旅行会話レベル
 - ② 日常生活会話レベル
 - ③ 業務上の文書・会話レベル
 - ④ 二者間折衝・交渉レベル
 - ⑤ 多数者間折衝・交渉レベル

- 我が国では、①②③レベルのグローバル人材の裾野の拡大については着実に進捗しつつあるものと考えられる。今後は更に、④⑤レベルの人材が継続的に育成され、一定数の「人材層」として確保されることが、国際社会における今後の我が国の経済・社会の発展にとって極めて重要となる。
- この点は、例えば、TOEFLの成績の国別ランキング(2010年)で我が国は163か国中135位、アジア30か国中では27位と低迷していること、また、IMD(スイスの研究教育機関)の世界競争力ランキング(2011年)でも我が国は59か国・地域中26位と振るわず、特に指標の中の「外国語のスキル」が58位となっていること等にも端的に表れている。

図7：TOEFLの成績の国別ランキング(2010年)

図8：IMD世界競争力ランキング(2011年)

<全体順位> (163か国中)

順位	国名	TOEFLスコア
1位	オランダ	100
2位	デンマーク	99
3位	シンガポール オーストリア	98
...		
80位	韓国	81
...		
105位	中国	77
...		
135位	カメルーン、トーゴ、 クウェート、日本	70
139位	ギニア、シエラレオネ	69
...		

<全体順位> (59か国・地域中)

日本	26位
----	-----

<我が国が強い指標>

・平均寿命	1位
・環境技術	2位
・研究開発投資	3位、4位

<我が国が弱い指標>

・携帯電話料金	59位
・外国語のスキル	58位
・依存人口比率	55位

<アジア内順位> (30か国中)

出典:IMD ランキング 2011

順位	国名	TOEFLスコア
1位	シンガポール	98
...		
24位	アフガニスタン、モンゴル、 ベトナム	73
27位	日本	70
28位	ラオス人民民主共和国	67
29位	タジキスタン	66
30位	カンボジア	63

出典:ETS-Test and Score Data Summary for TOEFL Internet-based and Paper-based Tests JANUARY 2010-DECEMBER 2010 TEST DATA

- ④⑤レベルの人材を育成する上では、比較的若いうち(10～30歳代まで)に留学や在外経験をした上で、(大学・大学院や職場での)更なる研鑽を積むという経路が有効であることは否定し難い。この見地から、特に大学入試と企業採用について、従来の発想及び制度から大きく脱却することが喫緊の課題だと考える。

(2) グローバル人材の育成及び活用に向けた諸課題

- 前述のとおり、グローバル人材の概念に包含される要素は幅広いものの、企業に対するアンケートによれば、2012年(平成24年)時点でのグローバル人材(前述の③④⑤レベル相当)の現在数は(日本人・外国人合計で)約168万人程度と推計される。一方、5年後の2017年(平成29年)時点では約411万人程度が必要となることが推計されており、約2.4倍もの需要増が見込まれる。また、5年後の時点ではグローバル人材の候補者としての新卒採用が約18万人程度となるものと推計されている。その他、人材需要を満たす手法としては、中途採用や研修(OJT)等による人材育成・活用が考えられる。
- あらためて言うまでもなく、国内外のグローバル化の流れはその速度を不可逆的に増している。グローバル人材に対する経済的社会的な需要・期待は、この1年程度のわずかな間に限ってみても、我が国社会のトップ・リーダーとしての期待から、新興国をはじめとする国境を越えた市場の拡大や海外での現地生産の強化、中堅・中小企業の海外展開等に対応した厚みのある中核的・専門的人材層の需要へと急拡大する様相を呈しており、現在もなおその過渡期と見ることができる。
- こうした状況の中、1992年(平成4年)の205万人をピークに急減していた我が国の18歳人口は、2012年(平成24年)現在では約119万人となっており、今後約10年間は110~120万人程度の規模で横ばいの推移をするものと予測されている。
- この期間のうちに、若い世代では、同一年齢の者のうち約10%(即ち約11万人程度)が概ね20歳代前半までに1年間以上の留学ないし在外経験を有し、前述の④⑤レベルのグローバル人材の潜在的候補者となっていることが通常の姿となることを目指したい。また、前述の③レベルのグローバル人材についても、相当程度の厚みのある人材層を形成することが必要となろう。
- そのためには、実践的な英語教育の強化やグローバル化に対する理解促進を図ること等を通じて留学・在外経験を目指す若い世代を増やすとともに、親の海外駐在に伴う在外経験、高校生や大学生等の留学、企業若手社員の海外経験等、若い世代が様々な機会を捉えて外に出やすい環境を整えていかなければならない。

○ 以上のような姿を目指して、今後、グローバル人材の育成・活用を図っていく上では、

- ・英語教育の強化、高校留学の促進等の初等中等教育の諸課題
- ・大学入試の改善等の大学教育の諸課題
- ・採用活動の改善等の経済社会の諸課題

等について、ひとり政府・行政関係者のみならず、高校関係者・大学関係者・企業関係者・保護者等多くの関係者が、同時並行的に連動して具体的方策に取り組むことが不可欠である。

○ なお、昨今のグローバル化の進展とグローバル人材に対する需要(量的のみならず、質的にも裾野が急速に拡大)の高まりに見られるように、経済・社会・雇用情勢とそれに応じた人材需要は、絶え間なく変転することがむしろ常態となっており、教育・人材育成との間に様々な面で一定の乖離(ミスマッチ、タイムラグ)が生じてしまうことは構造的に避け難くなる一方である。しかし、(「流行」に対する「不易」としての要素が教育に求められることは前提としつつも、)この乖離を可能な限り小さくする恒常的な努力の重要性が増していることも論をまたない。

☆グローバル人材の現在数(年代別・男女別等)と将来目標に関する定量的イメージづくりやグローバル人材育成の将来目標達成のためのロードマップ(例えば5年後等)づくり(産業分野別・対応言語別等)を更に継続する。 【文、経】

☆グローバル人材を含めた、教育と雇用の構造的な乖離(ミスマッチ、タイムラグ)の解消に向けて、関係各省が縦割りを超えて、関係審議会等での問題意識の共有や対応策の情報交換等を行う。 【文、厚、経】

3. 英語教育の強化、高校留学の促進等の初等中等教育の諸課題について

- 初等中等教育段階では、基礎的な学力・体力・対人関係力等をしっかりと身につけさせることが重要である。グローバル人材の育成との関係では、特に、実践的な英語教育の強化、高校留学等の促進、教員の資質・能力の向上等が求められる。
- 前述のように、①②③レベルのグローバル人材の裾野の拡大は着実に進捗しつつあると考えられるが、今後は更に③レベルの人材の厚みを増すことを目指すとともに、④⑤レベルを意識して、その潜在的候補者層を確保することにも注力すべきである。

(1) 実践的な英語教育の強化（英語・コミュニケーション能力、異文化体験等）

- 前述の③レベルの人材層及び④⑤レベルの潜在的候補者層を厚く形成していく上では、その基礎として、初等中等教育段階の実践的な英語教育を抜本的に充実・強化することが不可欠である。特に、小中高を通じて英語・コミュニケーション能力等の育成を図るとともに、児童・生徒の国内外における異文化体験の機会を充実させることが重要である。

☆小中高を通じた英語教育の抜本的な充実・強化(新学習指導要領の着実な実施、JETプログラム(ALT(外国語指導助手)等)の活用、姉妹都市・姉妹校の活用、ICTの活用等)を図る。 【文】

☆小中高での児童・生徒の国内外における異文化体験や青少年交流等の機会の充実のため、大学や民間団体等との連携を強化する。また、JETプログラム等の活用を通じた地域レベルでの国際交流・相互理解の一層の促進を図る。 【外、文】

☆英語教育の支援員や関連教材を求める学校側とそれらの提供が可能な者とのマッチングを図るためのポータルサイトを開設する。 【文】

☆英語教育に関する先進的な取組を支援し、外部検定試験を活用した英語・コミュニケーション能力（理解力・表現力等）の到達度の把握・検証→指導内容・方法の改善というPDCAサイクルを通じて、中学・高校段階の英語教育を抜本的に強化する。 【文】

☆小中連携、一貫教育の導入及び推進のため、実施上の留意点や先行的な実践事例を整理したポイント・事例集を作成する。 【文】

☆中高一貫教育校の教育の特色化を推進するため、学習指導要領等の教育課程の基準の特例を活用した特色ある教育活動の展開を促進する。 【文】

(2) 高校留学等の促進

- 前述の④⑤レベルを意識したグローバル人材の育成のため、18歳頃の時点までに1年間以上の留学ないし在外経験を有する者を3万人規模に増加させることを目指す。また、国際バカロレア資格への対応等を進めるとともに、飛び入学や早期卒業を活用して多様で柔軟な進路設計を促進する。また、児童・生徒や保護者のグローバル化に対する理解を促進することも重要である。

☆18歳以下の世代の在外経験(特に、親の海外駐在に伴い海外で教育を受ける機会)や高校生の海外留学を大幅に促進するための環境整備を行うこと等により、18歳頃の時点までに1年間以上の留学ないし在外経験を有する者を3万人規模に増加させることを目指す。その際、留学しても3年間での高校卒業が可能である旨を周知徹底する。 【文等】

☆帰国子女の中学・高校への中途編入枠を拡大する。 【文】

☆高校卒業時に国際バカロレア資格を取得可能な、又はそれに準じた教育を行う学校を5年以内に200校程度へ増加させる。 【文】

☆高校の生徒のTOEFLの成績や英検の実績等の公表を促進する。 【文】

☆高校教育の質保証、高校段階での学力の状況を多面的・客観的に把握する様々な仕組みの創設等について、検討を進め方向性を明確にする。 【文】

☆大学・大学院への飛び入学や早期卒業の促進を図るとともに、高校における早期卒業制度の創設のための制度的整備等について、検討を進め方向性を明確にする。(高校2年→留学1年→大学4年、高校2年→大学5年(留学1年を含む)、高校3年→留学1年→大学3年等の柔軟な進路設計を可能に) 【文】

☆中学生や高校生に国際的な視野を持たせ、海外への関心を高めるため、海外勤務・留学経験のある社会人・大学生等を特別非常勤講師として中学校や高校等に派遣する。 【文】

☆海外の高校・大学への留学・進学を希望する中学生・高校生や保護者等に対する各種の情報提供や手続き面での助言等の支援を多様な主体が行う環境の整備方策を検討する。 【文】

(3) 教員の資質・能力の向上

- 外国語教育を担当する教員等の資質・能力の向上無くしてグローバル人材の育成はおぼつかない。養成・採用・研修の全ての段階での取組の充実が求められる。

☆英語担当教員の採用の段階で、TOEFL・TOEIC の成績等を考慮することや外国人教員を採用することを促進する。 【文】

☆英語担当教員等の養成の中核的拠点となる大学を重点整備する。 【文】

☆全ての現職の英語担当教員に TOEFL・TOEIC 等を一度は受験するよう促し、その成績に基づいた研修を実施する。 【文】

☆ALT の資質向上(JET プログラムによる選考やオリエンテーションの改善、同プログラム外の ALT の実態把握等)を図る。 【外、文】

4. 大学入試の改善等の大学教育の諸課題について

- 学生に充実した教養教育および専門教育を施すことは、大学・大学院の基本的使命である。グローバル人材が語るべき自らの「内実」(前述の要素Ⅱ・Ⅲ等)を深めるためにも、大学・大学院教育の役割は大きい。グローバル人材の育成との関係では、特に、大学入試の改善・充実、国際的に誇れる大学教育システムの確立、留学生交流の戦略的な推進が重要である。

(1) 大学入試等の初等中等教育と大学教育の接続の改善・充実

- 高校教育への大学入試の持つ影響の大きさが指摘されて久しい。事実上の「大学全入」時代と言われる昨今でも状況は大きく動いていないのではない。大学入試を意識して中学生や高校生が留学や在外経験の機会を躊躇することの無いよう、大学入試は抜本的に変えて改革を進めていかねばならない。

☆高校教育の質保証、大学教育の質保証及びその接続時点の大学入試改革の三者を連動して一体的に進め、生徒・学生の学力保証を確実に図る仕組みを構築する。 【文】

☆授業は英語で行うことを基本とする等、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」及び「書くこと」の4つの技能を総合的・統合的に指導するとした高校の新学習指導要領の趣旨を踏まえて、4つの技能をバランス良く問うタイプの入試への転換を、大学関係者・高校関係者等で共同開発し、その普及・活用を促進する。 【文】

☆一般入試において TOEFL・TOEIC の成績等をどのように評価・換算するか of 標準的方法の開発・普及を推進する。 【文】

☆入学志願者の外国語コミュニケーション能力を適切に評価する観点から、AO入試等の際に TOEFL・TOEIC 等の活用を促進する。 【文】

☆大学入試において留学経験者や帰国子女等の在外経験を有する者向けの募集枠の一層の活用を推進する。 【文】

(2)国際的に誇れる大学教育システムの確立、高等教育の国際展開の推進

- 大学が、グローバル化時代に相応しく教育内容や教育方法を改善・充実し、国内外の学生にとって魅力ある国際的に誇れる大学教育システムを確立する。そのことを通じて、前述の③レベル以上の人材層の厚みにつなげる。また、我が国の高等教育そのものの国際展開を推進するとともに、飛び入学や早期卒業を活用して多様で柔軟な進路設計を促進する。

☆各大学が、自らの使命・役割に沿って、グローバル人材の育成のための到達目標等を明確に設定することを促進する。 【文】

☆学生の主体的な学びを確立するため、質を伴った学修時間の増加・確保を始めとする学士課程教育の質的転換、世界標準の質保証や大学連携の仕組みの整備、研究力や大学ガバナンスの強化等、国際的に誇れる大学教育システム(カリキュラム・教員等)を確立する。その際、各大学が外国人教員数や英語による授業の実施率等の目標を具体的に設定することを促進する。 【文】

☆大学への秋入学の導入に向けて、まずは、関係大学や産業界等の自主的・自発的な議論の実りある進展を期待しつつ、国家試験・資格試験や公務員制度との関係、ギャップ期間の取扱い等の環境整備が必要となる課題その他の論点につき、その解決に向けて幅広く検討を進める。また、関係大学の意思決定の状況等を見定めた上で、政府としての基本的な方針を整理する。

【人、総、文、厚、経等】

☆秋入学に限らず、総合的教育改革の一環として、各大学の実情に応じたグローバル化のための柔軟かつ多様なアカデミック・カレンダー(学事暦)の設定を促進する。 【文、経】

☆大学の学生の TOEFL・TOEIC の成績等の公表、特色あるカリキュラム(英語による授業、留学の義務化等)や授業方法(少人数教育、教員構成等)等を促進する。 【文】

☆在外経験の重視・特色ある入試方法・単位取得や修了認定上の配慮等を通じて国際化推進に顕著な成果を上げる大学の取組を、財政支援の重点化等を図りつつ、強力に促進する。 【文】

☆在外経験や TOEFL・TOEIC の成績等を在学中の単位認定や進級・修了認定に際してどのように評価・換算するかの手法的な開発・普及を推進する。 【文】

☆国際機関等へのインターンシップに関する情報提供等を行う。【外、文】

☆大学院(博士課程・専門職学位課程)や専門系学部でグローバルに活躍できる高度人材を育成する。 【外、文】

☆人文・社会科学系の大学学部・大学院での効果的・効率的なグローバル人材の育成を促進する。 【文】

☆地方の大学における大学教育のグローバル化の取組を促進すること等により、我が国の高等教育の国際展開の多様化と裾野の拡大を図る。 【文】

☆若手研究者が参画する先進国や開発途上国との共同研究等の機会を充実するとともに、それらの経験を採用・昇進に際して適切に評価する仕組みを整える。 【文】

☆我が国トップ大学の研究・教育に関する各種大学ランキングでの順位の上の促進方策を講ずる。 【文】

☆国際的に活用でき、比較可能な大学のグローバル化に関する指標の企画開発・普及を推進する。 【文】

☆大学・大学院への飛び入学や早期卒業の促進を図るとともに、高校における早期卒業制度の創設のための制度的整備等について、検討を進め方向性を明確にする。(高校 2 年→留学 1 年→大学 4 年、高校 2 年→大学 5 年(留学 1 年を含む)、高校 3 年→留学 1 年→大学 3 年等の柔軟な進路設計を可能に)(再掲) 【文】

☆戦後、一律に導入された 6・3・3・4 制の教育体系を、新たな時代の個々人の学びをきめ細かく支援・促進できるように、小中一貫教育や中高一貫教育の推進、高校段階以上における早期卒業・飛び入学の制度的整備等を通じて、柔軟で多様な進路設計を可能とする弾力的なシステムへと進化・発展させる。 【文】

(3) 留学生交流の戦略的な推進

- 前述の④⑤レベルを意識したグローバル人材の育成のため、18歳頃から概ね20歳代前半までに1年間以上の留学ないし在外経験を有する者を8万人規模に増加させ、18歳頃の時点までの留学・在外経験者約3万人と合わせて11万人規模(同一年齢の者のうち約10%に相当)とすることを目指す。また、日本人学生の海外留学とともに海外からの外国人留学生の受け入れも促進し、戦略的な留学生交流を進める。また、③レベルの人材層の厚みのためにも、1年間未満の短期留学を含む海外経験を有する者の増加や「内なる国際化」の促進等を図る。

(ア) 日本人学生の海外留学の促進

☆大学生の海外留学を大幅に促進するための環境整備を行うこと等により、18歳頃から概ね20歳代前半までに1年間以上の留学ないし在外経験を有する者を8万人規模に増加させ、18歳頃の時点までの留学・在外経験者約3万人と合わせて11万人規模(同一年齢の者のうち約10%に相当)とすることを目指す。

【文等】

☆中高段階からの実践的な英語教育の充実・強化や海外への関心の啓発等を通じて、1年間未満の短期留学を含む海外経験を有する者の増加を図る。【文】

☆情報共有を含む関係機関の組織化、国内・日系企業への就職支援を行う。(日本人学生への海外留学・生活支援情報や日本への帰国後の就職関連情報の効果的な提供等を含む) 【外、文、厚、経】

☆日本人学生が海外留学時にインターンシップを行うことができるプログラム(現地法人・研究開発拠点等を含む)の開発を促進する。 【文】

☆日本人学生の海外留学及び外国人留学生の受け入れのための奨学金制度の創設・充実などの、大学等と産業界の連携による学生・若手研究者・社会人を通じた滞在・生活費支援の民間の創意に基づく仕組みづくりを促進する。【文、経】

(イ) 海外からの留学生受け入れの促進

☆外国人学生に日本留学の魅力を発信する積極的な広報・情報提供を行う。(日本留学に関する多言語ホームページの運用、在外公館での国費留学生の募集・選考、留学相談への対応等) 【外、文】

☆中・長期的な外国人留学生の獲得に努める。(海外における日本語の普及、在外公館における日本企業への就職関連情報の発信、外国人学生と日本企業との交流会・インターンシップの促進等) 【外、文、経】

☆優秀な外国人留学生や若手研究者の獲得のため、情報共有を含む関係機関の組織化や欧米トップ大学に比肩しうる体制整備を促進する。【外、文、経】

☆世界各国の若者が日本で学び、働きたいと思えるような環境づくりを産学官で推進することにより、優秀な外国人留学生との交流や切磋琢磨を通じた日本人学生の「内なる国際化」を促進する。 【文、経】

☆情報共有を含む関係機関の組織化、外国人留学生に対する渡日前教育・情報提供の充実と帰国後の我が国との接点(「絆」)の維持確保・フォローアップを行う。 【外、文】

☆東日本大震災後の外国人留学生の日本離れを防ぐため、積極的な情報発信等の措置を講ずる。(再入国許可を受けずに出国した留学生の入国手続きの簡素化は、2011年(平成23年)8月末までで終了。) 【法、外、文】

☆特に「日本離れ」が大きい国での戦略的な誘致キャンペーンを実施する。 【外、文】

(ウ) 留学生交流戦略の明確化等

☆国別・地域別の留学生交流戦略の明確化と国際的な学長会議等の場の戦略的な活用を図る。 【外、文】

☆今後の成長分野や地域戦略を踏まえて、アジア近隣諸国、アフリカ・中東諸国、開発途上国等を含めた機動的かつ戦略的な留学生交流を促進する。 【外、文】

☆外国政府派遣留学生及び国費留学生に関し、相手国側のニーズ(学問分野、学習環境等)と我が国の受け入れ大学側の事情等とのマッチング機能を強化するとともに、受け入れた留学生と我が国の若手人材との知的交流を促進する。 【文】

(抜粋)

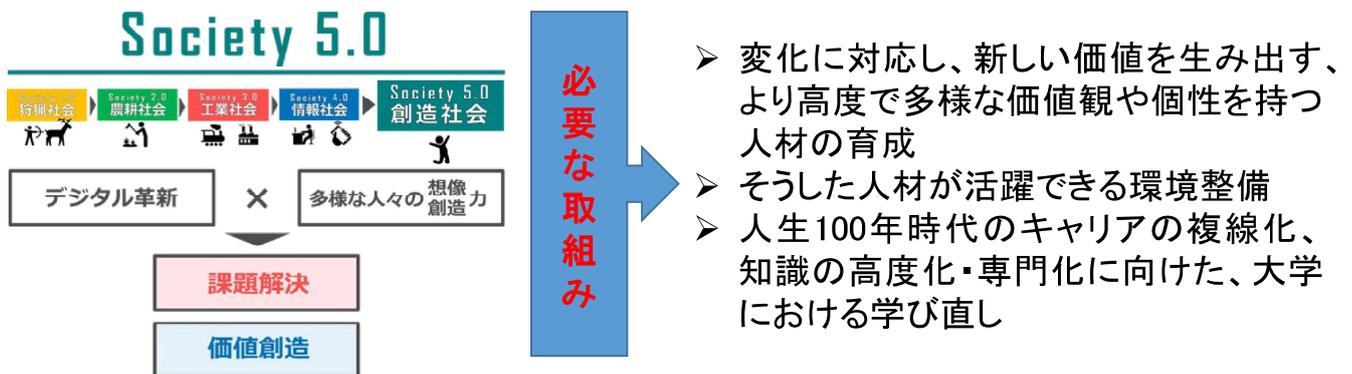
今後の採用と大学教育に関する 提案

— 概要版 —

2018年12月4日

一般社団法人 日本経済団体連合会

はじめに — 求められる人材と今後の採用、大学教育のあり方 —



大学教育への期待が高まる



経団連

2021年度以降
入社対象の
**「採用選考の
指針」を策定
しないことを
決定**

認識された課題

- **大学：**
世界水準の研究開発と質の高い教育を提供すること
- **企業：**
求める人材像やキャリア形成の考え方を明確化し、外部に発信すること

今後の採用や、
大学に期待する
教育改革につい
て、提案

I. 企業の新卒採用の現状と今後に向けた課題整理

1. 新卒採用時の企業の対応の状況

(1) 募集・選考の現状

<文系>

- ジェネラリスト採用
- ポテンシャル採用
(入社後は、ジョブローテーションで育成される)
- 入社後の職務内容・キャリアパスは先輩社員の事例を通じて紹介

<理系・技術系>

- 「マッチング方式」等
- 選考に際しては、専門分野の履修科目や成績を評価しつつ、研究に取り組む姿勢や方法、独自の問題意識などを重視
- 入社後の職務内容・フィールドを募集時に提示

<専門職種>

- (研究開発、アクチュアリー、クオンツ、高度IT人材、戦略財務会計、法務、経理等の専門人材)
- 求める専門能力、スキル、入社後のキャリアパス等を明示

(2) 学生に求める資質・能力

社会人の資質

創造性、チャレンジ精神、行動力、責任感、論理的思考能力、コミュニケーション能力、忍耐力、協調性 等

学生に求める知識・能力

- ・リベラルアーツ
- ・語学(英語)力 / 情報リテラシー

その他

- ・地球規模課題や世界情勢への関心
- ・学外活動や社会経験を評価

I. 企業の新卒採用の現状と今後に向けた課題整理

2. 今後、検討が必要な課題

(1) 新卒採用のあり方

Society 5.0 時代に適合した人材活用、評価・処遇のあり方を考える中で、様々な採用・選考機会を提供し、多様な人材を獲得することが必要

- 採用時期や対象者の多様化：新卒一括採用のほか、卒業時期の異なる学生や未就職卒業生、留学経験者、外国人留学生などを対象に、夏季・秋季の採用・入社にも柔軟に対応
- 今後、専門的な知識・技能や職務経験を有する高度な人材の採用にあたっては、ジョブ型雇用の仕組みを構築する中で、多様な選択肢を設ける(新卒・既卒、文系・理系の垣根を設けない通年採用・通年入社等)

(2) 企業が求める人材像の共有のあり方

- キャリア教育等の実施に向けた大学との協力
- 1年次や2年次など早い段階における長期インターンシップに取り組む企業の拡大
- ジェネラリストとしての「就社」ではなく「就職」を念頭においた専門知識の修得と、企業における適切な評価・活用

(3) 大学と企業との継続的対話

- 企業は経済社会の課題や技術革新の状況、求める人材像などについて、大学側に継続的に発信し、大学と対話の仕組みを構築することが必要
- インターンシップの今後のあるべき姿も検討課題として取り上げる

Ⅱ. 大学に期待する教育改革

1. 文系・理系の枠を越えた基礎的リテラシー教育

すべての学生に、**リベラルアーツと基礎的リテラシー**、**文章・情報の正確な読解力**、**外部への的確な表現力・論理的な説明力**が求められる

リベラルアーツと基礎的リテラシー

数学 情報科学・プログラミング 統計
歴史 哲学 語学 倫理 など



近い将来、
文理融合をさらに進め、
学部のあり方、
カリキュラムのあり方など、
根本的な見直しを

2. 大学教育の質保証

高大接続の円滑化のさらなる推進を前提として、

➤ 単位取得要件や成績・卒業要件の厳格な運用

➤ 授業方法の改革

- ① 少人数のゼミナール形式で、ディスカッションを通じて主体的に学ぶ教育
- ② P B L (Project Based Learning) 型の授業
- ③ 実務家教員による産学連携の授業

➤ 成績評価方法の改革

学生がどれだけ主体的に学び、深く考え抜いたかのプロセスや知的作業の結果を評価

3. グローバル化のさらなる進展

➤ 早期から**学生への異文化体験を促進**

- ・ 学生の海外留学、ギャップイヤー取得の奨励
- ・ 海外からの留学生受け入れ拡大
- ・ 海外大学との教育連携のさらなる推進 (ダブルディグリーやジョイントディグリー)
- ・ 海外大学との整合性のある学事暦の導入 など

➤ **外国人留学生の日本企業への就職支援**

- ・ 在留資格変更手続きの簡素化・迅速化
- ・ 就職に必要なスキルに関する研修や情報提供
- ・ インターンシップ機会の拡充 など

武蔵大学国際教養学部 専門科目カリキュラム・マトリックス

No	科目区分	専門分野	難易度	授業種別	授業科目の名称	単位数	配当年次	学部のDPCに対応した育成する能力										
								DP1		DP2			DP3		DP4		DP5	
								幅広い教養	専門的知識	主体的に学ぶ力	批判的に分析する力	情報収集・処理能力	多様な課題を解決する力	他者と協働する力	グローバルに考える力	外国語を運用する力	学びを社会で活かす力	
1	専攻基礎科目	学部共通科目	HST	1	2	Introduction to Global History 1	2	1・2・3・4	○						○	○		
2			HST	1	2	Introduction to Global History 2	2	1・2・3・4	○						○	○		
3			IRL	1	2	Transnational Issues 1	2	1・2・3・4	○				○		○	○		
4			IRL	1	2	Transnational Issues 2	2	1・2・3・4	○				○		○	○		
5			IRL	1	2	Understanding Foreign Affairs and the Global Economy	2	1・2・3・4	○				○		○	○		
6			OTH	1	1	Introduction to Critical Thinking	2	1・2・3・4	○			◎		○			○	
7			LEN	1	6	Language Proficiency Test Preparation 1	1	1・2・3・4	○								◎	
8			LEN	1	6	Language Proficiency Test Preparation 2	1	1・2・3・4	○								◎	
9			GLS	1	6	Global Service Learning A1	1	1・2・3・4	○		◎				◎	○	○	○
10			GLS	1	6	Global Service Learning A2	1	1・2・3・4	○		◎				◎	○	○	○
11			GLS	1	6	Global Service Learning B1	2	1・2・3・4	○		◎				◎	○	○	○
12			GLS	1	6	Global Service Learning B2	2	1・2・3・4	○		◎				◎	○	○	○
13			GLS	1	6	Global Service Learning C1	4	1・2・3・4	○		◎				◎	○	○	○
14			GLS	1	6	Global Service Learning C2	4	1・2・3・4	○		◎				◎	○	○	○
15			LEN	2	6	Language Proficiency Test Preparation (Intermediate) 1	1	2・3・4	○								◎	
16			LEN	2	6	Language Proficiency Test Preparation (Intermediate) 2	1	2・3・4	○								◎	
17			LEN	1	6	Intensive English Proficiency Test Practicum A	2	1・2・3・4	○								◎	
18			LEN	1	6	Intensive English Proficiency Test Practicum B	2	1・2・3・4	○								◎	
19			LEN	1	6	TOEIC Training 1	2	1・2・3・4	○								◎	
20			LEN	1	6	TOEIC Training 2	2	1・2・3・4	○								◎	
21	経済経営学専攻科目		ECO	1	2	Mathematics and Statistics (b-1)	1	1・2・3・4	○				○			○		
22			ECO	2	2	Mathematics and Statistics (b-2)	1	2・3・4	○					○			○	
23			STA	1	2	Introduction to Statistics 1	1	1・2・3・4	○					○			○	
24			STA	2	2	Introduction to Statistics 2	1	2・3・4	○					○			○	
25			ECO	1	2	Economics (b-1)	1	1・2・3・4	○								○	
26			ECO	2	2	Economics (b-2)	1	2・3・4	○								○	
27			ACC	1	2	Accounting and Finance (b-1)	1	1・2・3・4	○					○			○	
28			ACC	2	2	Accounting and Finance (b-2)	1	2・3・4	○					○			○	
29			POL	1	2	International Relations (b-1)	1	1・2・3・4	○					○		○	○	
30			POL	2	2	International Relations (b-2)	1	2・3・4	○					○		○	○	
31			POL	1	2	Politics (b-1)	1	1・2・3・4	○					○			○	
32			POL	2	2	Politics (b-2)	1	2・3・4	○					○			○	
33			ECO	1	2	Foundation of Economics	2	1・2・3・4	○								○	
34			ECO	1	2	Mathematics for Economics	2	1・2・3・4	○								○	
35			ACC	1	2	Introduction to Accounting	2	1・2・3・4	○					○			○	
36			POL	1	2	Foundations of Political Science	2	1・2・3・4	○					○			○	
37			MAN	1	2	Introduction to Management	2	1・2・3・4	○								○	
38			STA	1	2	Data Analysis: Techniques and Methods	2	1・2・3・4	○					○			○	

No	科目区分	専門分野	難易度	授業種別	授業科目の名称	単位数	配当年次	学部のDPに対応した育成する能力										
								DP1		DP2			DP3		DP4		DP5	
								幅広い教養	専門的知識	主体的に学ぶ力	批判的力	情報収集力	多様な力を理解	他者と協働する力	グローバルに思考する力	外国語を運用する力	学びを社会で活かす力	
39	専攻基礎科目	グローバルスタディーズ専攻科目	GLS	1	2	Survey of Global Studies 1	2	1	○						○	○		
40			GLS	1	2	Survey of Global Studies 2	2	1	○						○	○		
41			GLS	1	2	Survey of Transcultural Studies 1	2	1	○						○	○		
42			GLS	1	2	Survey of Transcultural Studies 2	2	1	○						○	○		
43			SEM	1	1	Global Studies 1st-Year Seminar 1	2	1	○		◎	○			○	○	○	
44			SEM	1	1	Global Studies 1st-Year Seminar 2	2	1	○		◎	○			○	○	○	
45			LEN	1	6	Language Learning Strategies 1	1	1・2・3・4	○		○						◎	
46			LEN	1	6	Language Learning Strategies 2	1	1・2・3・4	○		○						◎	
47			LEN	1	6	English Performance 1	1	1・2・3・4	○		○				○		◎	
48			LEN	1	6	English Performance 2	1	1・2・3・4	○		○				○		◎	
49			LEN	2	6	Translation Interpretation Practicum 1	1	2・3・4	○		○						◎	
50			LEN	2	6	Translation Interpretation Practicum 2	1	2・3・4	○		○						◎	
51			LEN	2	6	Creative Writing Workshop 1	1	2・3・4	○		○						◎	
52			LEN	2	6	Creative Writing Workshop 2	1	2・3・4	○		○						◎	
53			LEN	2	6	Academic Presentation Skills 1	1	2・3・4	○		○						◎	
54			LEN	2	6	Academic Presentation Skills 2	1	2・3・4	○		○						◎	
55			LEN	2	6	Academic Writing Workshop 1	1	2・3・4	○		○						◎	
56			LEN	2	6	Academic Writing Workshop 2	1	2・3・4	○		○						◎	
57			MCC	2	6	Digital Media Training (Intermediate) 1	1	2・3・4	○		○						○	
58			MCC	2	6	Digital Media Training (Intermediate) 2	1	2・3・4	○		○						○	
59	ANT	2	6	Global Research Skills 1	1	2・3・4	○		○		○			○	○			
60	ANT	2	6	Global Research Skills 2	1	2・3・4	○		○		○			○	○			
61	専攻専門科目	学部共通科目 経済経営学専攻科目	ECO	2	2	Introduction to Economics (a)	4	2・3・4		○					○	○		
62			THE	4	1	Capstone Project Seminar	2	4		○	◎	○	○			○	◎	
63			THE	4	1	Capstone Project	4	4		○	◎	○	○			○	◎	
64			ACC	2	2	Principles of Accounting (a)	4	2・3・4		○			○				○	
65			ACC	2	2	Principles of Accounting (b-1)	1	2・3・4		○			○				○	
66			ACC	3	2	Principles of Accounting (b-2)	1	3・4		○			○				○	
67			ECO	2	2	Mathematics 1 and Statistics 1 (a)	4	2・3・4		○			○				○	
68			ECO	2	2	Mathematics 1 and Statistics 1 (b-1)	1	2・3・4		○			○				○	
69			ECO	3	2	Mathematics 1 and Statistics 1 (b-2)	1	3・4		○			○				○	
70			ECO	2	2	Mathematics 2 and Statistics 2 (a)	4	2・3・4		○			○				○	
71			ECO	2	2	Mathematics 2 and Statistics 2 (b-1)	1	2・3・4		○			○				○	
72			ECO	3	2	Mathematics 2 and Statistics 2 (b-2)	1	3・4		○			○				○	
73			ECO	2	2	Introduction to Economics (b-1)	1	2・3・4		○							○	
74			ECO	3	2	Introduction to Economics (b-2)	1	3・4		○							○	
75			ECO	2	2	Microeconomics (a)	4	2・3・4		○							○	
76			ECO	2	2	Microeconomics (b-1)	1	2・3・4		○							○	
77			ECO	3	2	Microeconomics (b-2)	1	3・4		○							○	
78			ECO	2	2	Macroeconomics (a)	4	2・3・4		○							○	
79			ECO	2	2	Macroeconomics (b-1)	1	2・3・4		○							○	
80			ECO	3	2	Macroeconomics (b-2)	1	3・4		○							○	
81	ECO	2	2	Intermediate Macroeconomics 1	1	2・3・4		○							○			
82	ECO	3	2	Intermediate Macroeconomics 2	1	3・4		○							○			
83	ECO	2	2	Elements of Econometrics (a)	4	2・3・4		○			○				○			
84	ECO	2	2	Elements of Econometrics (b-1)	1	2・3・4		○			○				○			
85	ECO	3	2	Elements of Econometrics (b-2)	1	3・4		○			○				○			
86	ECO	2	2	Data Research in Economics 1	1	2・3・4		○			○				○			

No	科目区分	専門分野	難易度	授業種別	授業科目の名称	単位数	配当年次	学部のDPに対応した育成する能力									
								DP1		DP2			DP3		DP4		DP5
								幅広い教養	専門的知識	ぶ主体的に学	析批判的力に	能取情報の処	解多様な力を理	す他者と協働	力にグローバル	用外国語力を運	用の学びな社会
135	専攻専門科目 経済経営学専攻科目	POL	3	2	Comparative Politics 2	1	3・4		○				○				
136		POL	2	2	Topics in Politics and International Relations 1	1	2・3・4		○				○	○	○		
137		POL	3	2	Topics in Politics and International Relations 2	1	3・4		○				○	○	○		
138		STA	2	2	Business Analytics (a)	4	2・3・4		○			○				○	
139		STA	2	2	Business Analytics (b-1)	1	2・3・4		○			○				○	
140		STA	3	2	Business Analytics (b-2)	1	3・4		○			○				○	
141		SEM	2	1	Economics and Management Seminar 1 (a)	1	2		○	◎	○	○		○		○	○
142		SEM	3	1	Economics and Management Seminar 1 (b)	1	3		○	◎	○	○		○		○	○
143		SEM	3	1	Economics and Management Seminar 2	2	3		○	◎	○	○		○		○	○
144		SEM	3	1	Economics and Management Seminar 3 (a)	1	3		○	◎	○	○		○		○	○
145		SEM	4	1	Economics and Management Seminar 3 (b)	1	4		○	◎	○	○		○		○	○

No	科目区分	専門分野	難易度	授業種別	授業科目の名称	単位数	配当年次	学部のDPに対応した育成する能力									
								DP1		DP2			DP3		DP4		DP5
								幅広い教養	専門的知識	主体的に学ぶ	批判的力	情報収集力	多様な視点を養う	他者と協働する力	グローバル思考力	外国語運用力	学びの力を社会に活かす
146	専攻専門科目	グローバルスタディーズ専攻科目	IRL	2	2	Topics in Foreign Policy and Diplomacy 1	2	2・3・4		○				○	○		
147			IRL	2	2	Topics in Foreign Policy and Diplomacy 2	2	2・3・4		○				○	○	○	
148			GLS	2	2	Survey of Futures Studies 1	2	2・3・4		○				○	◎	○	
149			GLS	2	2	Survey of Futures Studies 2	2	2・3・4		○				○	◎	○	
150			POL	3	2	Survey of Comparative Politics 1	2	2・3・4		○				○	○	○	
151			POL	3	2	Survey of Comparative Politics 2	2	2・3・4		○				○	○	○	
152			GLS	3	2	Global Civics 1	2	2・3・4		○				○	◎	○	○
153			GLS	3	2	Global Civics 2	2	2・3・4		○				○	◎	○	○
154			POL	3	2	Survey of Political Ideas 1	2	2・3・4		○				○	○	○	
155			POL	3	2	Survey of Political Ideas 2	2	2・3・4		○				○	○	○	
156			IRL	3	2	Peace Studies 1	2	2・3・4		○				○	◎	○	○
157			IRL	3	2	Peace Studies 2	2	2・3・4		○				○	◎	○	○
158			COM	2	2	Communication Studies 1	2	2・3・4		○				○		○	
159			COM	2	2	Communication Studies 2	2	2・3・4		○				○		○	
160			LNG	2	2	Second Language Studies 1	2	2・3・4		○				○		○	
161			LNG	2	2	Second Language Studies 2	2	2・3・4		○				○		○	
162			LNG	3	2	World Englishes 1	2	2・3・4		○				○	◎	○	
163			LNG	3	2	World Englishes 2	2	2・3・4		○				○	◎	○	
164			COM	3	2	Media Communications 1	2	2・3・4		○				○		○	
165			COM	3	2	Media Communications 2	2	2・3・4		○				○		○	
166			LNG	3	2	Language & Communication Barriers 1	2	2・3・4		○				○		○	
167			LNG	3	2	Language & Communication Barriers 2	2	2・3・4		○				○		○	
168			COM	3	2	Translation & Interpretation Studies 1	2	2・3・4		○				○		○	
169			COM	3	2	Translation & Interpretation Studies 2	2	2・3・4		○				○		○	
170			CST	2	2	Cultural Representations 1	2	2・3・4		○				○		○	
171			CST	2	2	Cultural Representations 2	2	2・3・4		○				○		○	
172			LIT	2	2	Global Literatures in English 1	2	2・3・4		○				○	◎	○	
173			LIT	2	2	Global Literatures in English 2	2	2・3・4		○				○	◎	○	
174			JPS	2	2	Japanese Studies 1	2	2・3・4		○				○		○	
175			JPS	2	2	Japanese Studies 2	2	2・3・4		○				○		○	
176			JPS	3	2	Topics in Japanese Culture 1	2	2・3・4		○				○		○	
177	JPS	3	2	Topics in Japanese Culture 2	2	2・3・4		○				○		○			
178	HST	3	2	Japanese History in Global Perspective 1	2	2・3・4		○				○	◎	○			
179	HST	3	2	Japanese History in Global Perspective 2	2	2・3・4		○				○	◎	○			
180	HST	3	2	Transnational Cultures 1	2	2・3・4		○				○	◎	○			
181	HST	3	2	Transnational Cultures 2	2	2・3・4		○				○	◎	○			
182	LIT	3	2	Diversity in Stories and Societies 1	2	2・3・4		○				○	◎	○			
183	LIT	3	2	Diversity in Stories and Societies 2	2	2・3・4		○				○	◎	○			
184	GLS	3	2	Study Abroad	2	2・3・4		○	○			○	◎	○	○		
185	SEM	2	1	Global Studies Seminar 1	2	2・3・4		○	◎	○	○	○	○	○	○		
186	SEM	2	1	Global Studies Seminar 2	2	2・3・4		○	◎	○	○	○	○	○	○		
187	THE	4	1	Capstone Project Pre-Seminar	2	4		○	◎	○	○	○	○	○	◎		

武蔵大学ナンバリングコード一覧

①専門分野

コード	分野	
ACC	Accounting	会計学
AMS	American studies	アメリカ研究
ANT	Anthropological	人類学
ARE	Area studies	地域研究
ART	Art/Aesthetics	芸術・美学
AST	Asian Studies	アジア研究
BAS	British, American Studies	英語圏研究
BRS	British Studies	イギリス研究
CHS	Chinese studies	中国研究
COM	Communication Studies	コミュニケーションスタディーズ
CRO	Cross-Cutting Subjects	学部横断科目
CST	Cultural Studies	カルチュラルスタディーズ
CTP	Curator-Training Program	学芸員共通科目
ECO	Economics	経済学
EDU	Education	教育学
ENV	Environmental studies	環境学
EUS	European studies	ヨーロッパ研究
FIN	Finance	ファイナンス
FOL	Folklore	民俗学
FRS	French studies	フランス研究
GEA	General Education courses A	総合科目A
GEB	General Education courses B	総合科目B
GEC	General Education courses C	総合科目C
GED	General Education courses D	総合科目D
GEE	General Education courses E	総合科目E
GEF	General Education courses F	総合科目F
GES	German studies	ドイツ研究
GLS	Global studies	グローバル研究
GSS	Gender sexuality studies	ジェンダー・セクシュアリティ研究
HST	History	歴史学
IAS	Islamic studies	イスラム研究
IRL	International Relations	国際関係学
ISC	Information science	情報科学
JPS	Japanese Studies	日本研究
KOS	Korean studies	韓国研究
LCH	Foreign language (Chinese)	外国語（中国語）
LED	Language education	言語教育
LEN	Foreign language (English)	外国語（英語）
LFR	Foreign language (French)	外国語（フランス語）
LGE	Foreign language (German)	外国語（ドイツ語）
LIA	Foreign language (Italian)	外国語（イタリア語）
LIT	Literature	文学
LJA	Foreign language (Japanese)	外国語（日本語）
LKO	Foreign language (Korean)	外国語（韓国・朝鮮語）
LNG	Linguistics	言語学
LRU	Foreign language (Russian)	外国語（ロシア語）
LSP	Foreign language (Spanish)	外国語（スペイン語）
MAN	Management	経営学
MCC	Media Communication	メディアコミュニケーション学
MIS	Management information	経営情報学
OTH	Other	その他
PHI	Philosophy	哲学・思想
POL	Political Science	政治学
PSY	Psychology	心理学
REL	Religion	宗教学
SEM	Seminar	ゼミナール
SOC	Sociology	社会学
SPE	Financial specialist	金融スペシャリスト
STA	Statistics	統計学
TCP	Teaching course	教職共通科目
THE	Thesis	卒業研究

②難易度

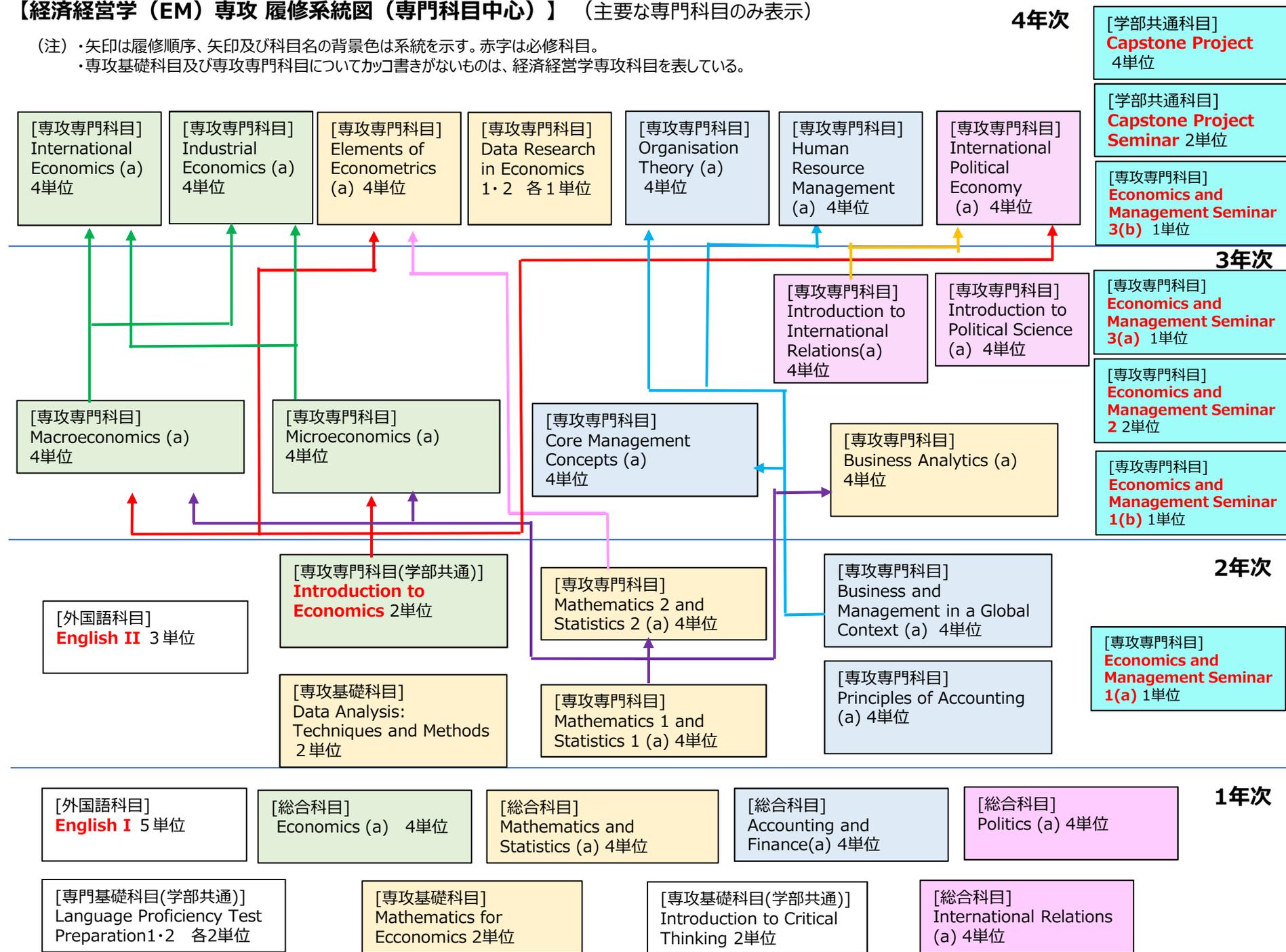
コード	レベル
0	年次指定なし
1	初級、入門・導入（1年次相当）
2	中級、発展、応用（2年次相当）
3	上級、実践、専門（3年次相当）
4	最終段階（4年次相当）
5	修士課程
6	博士課程

③授業種別

コード	種別
1	ゼミ、演習
2	講義
6	実習、実技、実践、実験

【経済経営学 (EM) 専攻 履修系統図 (専門科目中心)】 (主要な専門科目のみ表示)

(注) ・矢印は履修順序、矢印及び科目名の背景色は系統を示す。赤字は必修科目。
 ・専攻基礎科目及び専攻専門科目についてカッコ書きがないものは、経済経営学専攻科目を表している。



【グローバルスタディーズ（GS）専攻 履修系統図】 主要な科目のみ表示。

(注)
 ・赤字は必修科目
 ・青字は選択必修科目または推奨科目

※1 : English for Academic Purposes
 ※2 : 200～ : 中級、発展的・応用的内容
 ※3 : 300～ : 上級、実践的・専門的内容

総合科目

- Information Technology and Global Communication
- Digital Media Training
- Japan in the Modern World
- Introduction to Race, Ethnicity and Nation
- Introduction to Human Rights
- Introduction to Gender and Sexuality Studies
- Global Environmental Issues
- Introduction to Human Geography 等 (以上、すべて2単位)

専攻基礎科目 (GS専攻科目)
 (EAP※1 及び関連科目)

以下の実習科目の中から8単位以上修得
 実習 options (1・2各1単位) :
 ・ Academic Writing Workshop1・2
 ・ Global Research Skills 1・2
 ・ Digital Media Training (Intermediate) 1・2

English II (6単位)

- 実習 options (1・2各1単位) :
- Translation Interpretation Practicum1・2
 - Creative Writing Workshop1・2
 - Academic Presentation Skills1・2

English I (6単位)

- 実習 options (1・2各1単位) :
- Language Learning Strategies1・2
 - English Performance1・2

選択外国語

専攻専門科目

Capstone Project 4単位

Global Relations (300～) ※3

- Global Civics1・2
- Survey of Comparative Politics1・2
- Survey of Political Ideas1・2
- Peace Studies 1・2

Global Communication Studies (300～) ※3

- Language and Communication Barriers1・2
- Media Communications
- World Englishes1・2
- Translation and Interpretation Studies1・2

Global Cultural Studies (300～) ※3

- Transnational Cultures1・2
- Diversity in Stories and Societies1・2
- Topics in Japanese Culture1・2
- Japanese History in Global Perspective1・2

専攻専門科目 (EM専攻科目及び全学対象科目)

- Introduction to Economics (a)
- Development Economics
- Japan and International Society等
- Transnational Issues
- Survey of Global Media and Communication
- Fieldwork in Japan 等
- Introduction to Global History
- Survey of Japanese Literature
- Topics in Gender and Sexuality等

Global Relations (200～) ※2

- Topics in Foreign Policy and Diplomacy1・2
- Survey of Futures Studies 1・2

Global Communication Studies (200～) ※2

- Communication Studies 1・2
- Second Language Studies1・2

Global Cultural Studies (200～) ※2

- Cultural Representations 1・2
- Global Literatures in English1・2
- Japanese Studies1・2

専攻基礎科目 (GS専攻科目)

以下の講義科目の中から4単位以上修得 (1・2各2単位)

- Survey of Global Studies1・2
- Survey of Transcultural Studies1・2

専攻基礎科目 (学部共通) 及び専攻専門科目 (全学対象科目)

- Introduction to Critical Thinking 2単位
- Language Proficiency Test Preparation1・2 各1単位
- Global Service Learning A1～C2 1～4単位
- Understanding Foreign Affairs and the Global Economy 2単位
- (全学対象科目) 留学・国際交流関連科目 等

4年次

Capstone Project Seminar 2単位

Capstone Project Pre-Seminar 2単位

3年次

Global Studies Seminar1・2 各2単位

2年次

Global Studies Seminar1・2 各2単位

(注) 1・2 各2単位

Global Studies 1st-Year Seminar1・2 各2単位

1年次

【経済経営学(EM)専攻 履修モデル】 <計量経済学を中心とした履修モデル>

太字は必修科目。※付きの斜体はロンドン大学とのパラレル・ティグラー・プログラム履修生用科目。

		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	合計	対応するDP	
General Education courses 総合科目 (20)	A. ※Accounting and Finance (a)		4							20	DP2.自然科学、人文科学、社会科学にまたがる学際的な知識・教養・実践力を身につけ、卒業後も知的好奇心をもって学び続ける力を有していること	
	B. Japan in the Modern World or Introduction to Race, Ethnicity and Nation			2								
	C. ※Politics (a) or ※International Relations (a)		4									
	D. ※Mathematics and Statistics (a)		4									
	E. スポーツ実践		1	E. スポーツ実践	1							
	F. ※Economics (a)		4									
Foreign Language 外国語 (8)	English I [RW] English I [SL]		5	English II [RW] English II [SL]	3					8	DP3.多文化環境の様々な場面において英語を駆使する力を身につけていること	
Foundation courses 基礎科目 (12)	Intra-School Foundation courses 学部共通科目 (6)	Intensive English Proficiency Test Practicum A	2							6		
		Intensive English Proficiency Test Practicum B	2									
		Introduction to Critical Thinking	2									
	EM Foundation courses EM専攻科目 (6)	Mathematics for Economics	2	※Mathematics and Statistics (b-2)	1					14	DP4.学術・社会と文化の動向から世界を知り、問いをいかに修得している姿勢をもって多様な文明、地球環境、政治と国際関係を、深く学ぶ態度を身につけていること	
		Introduction to Statistics 1	1	※Economics (b-2)	1							
		Introduction to Accounting	2	※Accounting and Finance (b-2)	1							
		※Mathematics and Statistics (b-1)	1	※Politics (b-2) or ※International Relations (b-2)	1							
		※Economics (b-1)	1	Introduction to Statistics 2	1							
		※Accounting and Finance (b-1)	1									
		※Politics (b-1) or ※International Relations (b-1)	1									
Intra-School Specialized courses 学部共通科目 (10)				※Introduction to Economics (a)	4			Capstone Project Seminar	2	10	DP6.ゼミナルで主体的に学ぶなかで、自らの見解や意見を人にわかりやすく伝え、また他者の意見に耳を傾け、協働の精神をもって生産的な議論を行う態度と力を身につけていること	
							Capstone Project	4				
Specialized courses 専門科目 (36)	EM Specialized courses (seminar) 専攻専門ゼミ (6)			Economics and Management Seminar 1(a)	1	Economics and Management Seminar 1(b)	1	Economics and Management Seminar 3(b)	1	6		
						Economics and Management Seminar 2	2					
						Economics and Management Seminar 3(a)	1					
	EM Specialized courses EM専攻科目 (20)				※Mathematics 1 and Statistics 1 (a)	4	※Introduction to Economics (b-2)	1	※Mathematics 2 and Statistics 2 (b-2)	1	56	DP5.情報収集を効果的に行い有用な情報を得るとともに、データや資料をもとに知的創造力を発揮し、問題発見・課題解決に至る力を身につけていること
					※Principles of Accounting (a)	4	※Mathematics 1 and Statistics 1 (b-2)	1	※Microeconomics (b-2)	1		
					※Business and Management in a Global Context (a)	4	※Principles of Accounting (b-1)	1	※Macroeconomics (b-2)	1		
					※Introduction to Economics (b-1)	1	※Business and Management in a Global Context (b-1)	1	※Core Management Concepts (b-2)	1		
					※Mathematics 1 and Statistics 1 (b-1)	1	※Mathematics 2 and Statistics 2 (a)	4	※International Economics (a)	4		
					※Principles of Accounting (b-1)	1	※Microeconomics (a)	4	※Elements of Econometrics (a)	4		
					※Business and Management in a Global Context (b-1)	1	※Macroeconomics (a)	4	※Organisation Theory (a)	4		
							※Core Management Concepts (a)	4				
							※Mathematics 2 and Statistics 2 (b-1)	1				
							※Microeconomics (b-1)	1				
							※Macroeconomics (b-1)	1				
							※Core Management Concepts (b-1)	1				
Approved courses* 専攻指定科目 (48)								Japanese Studies 1&2	4	4	DP2	
			37		32		28		27	124		

*卒業に必要な単位数を超えて修得した専攻基礎科目及び専攻専門科目、全学対象科目

【経済経営学(EM)専攻 履修モデル】 <応用経済学を中心とした履修モデル>

太字は必修科目。※付きの斜体はロンドン大学とのバレル・ディグリー・プログラム履修生用科目。

		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	合計	対応するDP	
General Education courses 総合科目 (20)		A. ※Accounting and Finance (a)	4							20	DP2.自然科学、人文科学、社会科学にまたがる学際的な知識・教養・実践力を身につけ、卒業後も知的な好奇心をもって学び続ける力を有していること	
		B. Japan in the Modern World or Introduction to Race, Ethnicity and Nation	2									
		C. ※Politics (a) or ※International Relations (a)	4									
		D. ※Mathematics and Statistics (a)	4									
		E. スポーツ実践	1									
		F. ※Economics (a)	4									
Foreign Language 外国語 (8)		English I [RW] English I [SL]	5	English II [RW] English II [SL]	3				8	DP3.多文化環境の様々な場面において英語を駆使する力を身につけていること		
Foundation courses 基礎科目 (12)	Intra-School Foundation courses 学部共通科目 (6)	Intensive English Proficiency Test Practicum A	2							6	DP3.多文化環境の様々な場面において英語を駆使する力を身につけていること	
		Intensive English Proficiency Test Practicum B	2									
		Introduction to Critical Thinking	2									
	EM Foundation courses EM専攻科目 (6)	Mathematics for Economics	2	※Mathematics and Statistics (b-2)	1					14	DP4.学社会と文化としての日本から世界を問いかけている姿勢をもって多様な文明、地球環境、政治と国際関係、経済とテク	
		Introduction to Statistics 1	1	※Economics (b-2)	1							
		Introduction to Accounting	2	※Accounting and Finance (b-2)	1							
		※Mathematics and Statistics (b-1)	1	※Politics (b-2) or ※International Relations (b-2)	1							
		※Economics (b-1)	1	Introduction to Statistics 2	1							
		※Accounting and Finance (b-1)	1									
		※Politics (b-1) or ※International Relations (b-1)	1									
Specialized courses 専門科目 (36)	Intra-School Specialized courses 学部共通科目 (10)			※Introduction to Economics (a)	4			Capstone Project Seminar	2	10	DP6.ゼミナールで主体的に学ぶなかで、自らの見解や意見を人にわかりやすく伝え、また他者の意見に耳を傾け、協働の精神をもって生産的な議論を行う態度と力を身につけていること	
							Capstone Project	4				
	EM Specialized courses (seminar) 専攻専門ゼミ (6)				Economics and Management Seminar 1(a)	1	Economics and Management Seminar 1(b)	1	Economics and Management Seminar 3(b)	1	6	DP5.情報収集を効果的に行い有用な情報を得るとともに、データや資料をもとに知的創造力を発揮し、問題発見・課題解決に至る力を身につけていること
							Economics and Management Seminar 2	2				
							Economics and Management Seminar 3(a)	1				
	EM Specialized courses EM専攻科目 (20)				※Mathematics 1 and Statistics 1 (a)	4	※Introduction to Economics (b-2)	1	※Introduction to International Relations (b-2)	1	56	DP5.情報収集を効果的に行い有用な情報を得るとともに、データや資料をもとに知的創造力を発揮し、問題発見・課題解決に至る力を身につけていること
					※Principles of Accounting (a)	4	※Mathematics 1 and Statistics 1 (b-2)	1	※Microeconomics (b-2)	1		
					※Business and Management in a Global Context (a)	4	※Principles of Accounting (b-1)	1	※Macroeconomics (b-2)	1		
					※Introduction to Economics (b-1)	1	※Business and Management in a Global Context (b-1)	1	※Core Management Concepts (b-2)	1		
					※Mathematics 1 and Statistics 1 (b-1)	1	※Introduction to International Relations (a)	4	※International Economics (a)	4		
					※Principles of Accounting (b-1)	1	※Microeconomics (a)	4	※Industrial Economics (a)	4		
					※Business and Management in a Global Context (b-1)	1	※Macroeconomics (a)	4	※Organisation Theory (a)	4		
							※Core Management Concepts (a)	4				
							※Introduction to International Relations (b-1)	1				
							※Microeconomics (b-1)	1				
							※Macroeconomics (b-1)	1				
						※Core Management Concepts (b-1)	1					
Approved courses* 専攻指定科目 (28)									Global Literatures in English 1&2	4		
			37		32		28		27	124		

*卒業に必要な単位数を超えて修得した専攻基礎科目及び専攻専門科目、全学対象科目

【経済経営学(EM)専攻 履修モデル】 <経営学を中心とした履修モデル>

太字は必修科目。※付きの斜体はロンドン大学とのバレル・ディグリー・プログラム履修生用科目。

		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	合計	対応するDP	
General Education courses 総合科目 (20)	A. ※Accounting and Finance (a)		4								20	DP2.自然科学、人文科学、社会科学にまたがる学際的な知識・教養・実践力を身につけ、卒業後も知的好奇心をもって学び続ける力を有していること
	B. Japan in the Modern World or Introduction to Race, Ethnicity and Nation			2								
	C. ※Politics (a) or ※International Relations (a)		4									
	D. ※Mathematics and Statistics (a)		4									
	E. スポーツ実践		1	E. スポーツ実践	1							
	F. ※Economics (a)		4									
Foreign Language 外国語 (8)	English I [RW] English I [SL]		5	English II [RW] English II [SL]	3					8	DP3.多文化環境の様々な場面において英語を駆使する力を身につけていること	
Foundation courses 基礎科目 (12)	Intra-School Foundation courses 学部共通科目 (6)	Intensive English Proficiency Test Practicum A	2								6	DP3.多文化環境の様々な場面において英語を駆使する力を身につけていること
		Intensive English Proficiency Test Practicum B	2									
		Introduction to Critical Thinking	2									
	EM Foundation courses EM専攻科目 (6)	Mathematics for Economics	2	※Mathematics and Statistics (b-2)	1						14	DP4.社会と文化の場動としての日る本知識を世界に問うていけること
		Introduction to Statistics 1	1	※Economics (b-2)	1							
		Introduction to Accounting	2	※Accounting and Finance (b-2)	1							
		※Mathematics and Statistics (b-1)	1	※Politics (b-2) or ※International Relations (b-2)	1							
		※Economics (b-1)	1	Introduction to Statistics 2	1							
		※Accounting and Finance (b-1)	1									
		※Politics (b-1) or ※International Relations (b-1)	1									
Specialized courses 専門科目 (36)	Intra-School Specialized courses 学部共通科目 (10)			※Introduction to Economics (a)	4			Capstone Project Seminar	2	10	DP6.ゼミナルで主体的に学ぶなかで、自らの見解や意見を人にわかりやすく伝え、また他者の意見に耳を傾け、協働の精神をもって生産的な議論を行う態度と力を身につけていること	
							Capstone Project	4				
	EM Specialized courses (seminar) 専攻専門ゼミ (6)			Economics and Management Seminar 1(a)	1	Economics and Management Seminar 1(b)	1	Economics and Management Seminar 3(b)	1	6	DP5.情報収集を効果的に行い有用な情報を得るとともに、データや資料をもとに知的創造力を発揮し、問題発見・課題解決に至る力を身につけていること	
						Economics and Management Seminar 2	2					
	EM Specialized courses EM専攻科目 (20)				※Mathematics 1 and Statistics 1 (a)	4	※Introduction to Economics (b-2)	1	※Business Analytics (b-2)	1	56	DP2
					※Principles of Accounting (a)	4	※Mathematics 1 and Statistics 1 (b-2)	1	※Microeconomics (b-2)	1		
					※Business and Management in a Global Context (a)	4	※Principles of Accounting (b-1)	1	※Macroeconomics (b-2)	1		
					※Introduction to Economics (b-1)	1	※Business and Management in a Global Context (b-1)	1	※Core Management Concepts (b-2)	1		
					※Mathematics 1 and Statistics 1 (b-1)	1	※Business Analytics (a)	4	※International Political Economy (a)	4		
					※Principles of Accounting (b-1)	1	※Microeconomics (a)	4	※Human Resource Management (a)	4		
				※Business and Management in a Global Context (b-1)	1	※Macroeconomics (a)	4	※Organisation Theory (a)	4			
						※Core Management Concepts (a)	4					
						※Business Analytics (b-1)	1					
						※Microeconomics (b-1)	1					
Approved courses* 専攻指定科目 (28)								Cultural Representations 1 & 2	4	4		
			37		32		28		27	124		

*卒業に必要な単位数を超えて修得した専攻基礎科目及び専攻専門科目、全学対象科目

【経済経営学(EM)専攻 履修モデル】 <パラレル・ディグリー・プログラムのIFP科目のみ履修する学生用の履修モデル>

太字は必修科目。※付きの斜体はロンドン大学とのパラレル・ディグリー・プログラム履修生用科目。

		1年次		2年次		3年次		4年次		合計	対応するDP		
General Education courses 総合科目 (20)	A. ※Accounting and Finance (a)	4		B. Japan in the Modern World or Introduction to Race, Ethnicity and Nation	2					20	DP2.自然科学、人文科学、社会科学にまたがる学際的な知識・教養・実践力を身につけ、卒業後も知的好奇心をもって学び続ける力を有していること		
	C. ※Politics (a) or ※International Relations (a)	4											
	D. ※Mathematics and Statistics (a)	4											
	E. スポーツ実践	1	E. スポーツ実践	1									
	F. ※Economics (a)	4											
Foreign Language 外国語 (8)	English I [RW] English I [SL]	5	English II [RW] English II [SL]	3						8	DP3.多文化環境の様々な場面において英語を駆使する力を身につけていること		
Foundation courses 基礎科目 (12)	Intra-School Foundation courses 学部共通科目 (6)	Intensive English Proficiency Test Practicum A	2	Introduction to Global History 2	2						10	DP3.多文化環境の様々な場面において英語を駆使する力を身につけていること	
		Intensive English Proficiency Test Practicum B	2	Transnational Issues 2	2								
		Introduction to Critical Thinking	2										
	EM Foundation courses EM専攻科目 (6)	Mathematics for Economics	2	※Mathematics and Statistics (b-2)	1						20	DP1、4.社会と文化の動向としての日本から世界に関する知識を修得していること DP5.情報収集を効果的に行い有用な情報を得るとともに、データや資料をもとに知的創造力を発揮し、問題発見・課題解決に至る力を身につけていること	
		Introduction to Statistics 1	1	※Economics (b-2)	1								
		Introduction to Accounting	2	※Accounting and Finance (b-2)	1								
		※Mathematics and Statistics (b-1)	1	※Politics (b-2) or ※International Relations (b-2)	1								
		※Economics (b-1)	1	Introduction to Statistics 2	1								
		※Accounting and Finance (b-1)	1	Data Analysis: Techniques and Methods	2								
	※Politics (b-1) or ※International Relations (b-1)	1	Introduction to Management	2									
					Foundations of Political Science	2							
	Specialized courses 専門科目 (36)	Intra-School Specialized courses(10) 学部共通科目			※Introduction to Economics (a)	4			Capstone Project Seminar	2	10	DP6.ゼミナールで主体的に学ぶなかで、自らの見解や意見を人にわかりやすく伝え、また他者の意見に耳を傾け、協働の精神をもって生産的な議論を行う態度と力を身につけていること	
								Capstone Project	4				
EM Specialized courses (seminar) 専攻専門ゼミ (6)					Economics and Management Seminar 1(a)	1	Economics and Management Seminar 1(b)	1	Economics and Management Seminar 3(b)	1	6	DP5.情報収集を効果的に行い有用な情報を得るとともに、データや資料をもとに知的創造力を発揮し、問題発見・課題解決に至る力を身につけていること	
							Economics and Management Seminar 2	2					
								Economics and Management Seminar 3(a)	1				
						Development Economics 1	1	Development Economics 2	1	Leadership and Organization 2			1
						Environmental Economics 1	1	Environmental Economics 2	1	Principles of Marketing(b-2)			1
						Comparative Politics 1	1	Comparative Politics 2	1	Intermediate Macroeconomics 2			1
EM Specialized courses EM専攻科目 (20)							Organization Behavior 1	1	Organization Behavior 2	1	International Finance	2	
							Topics in Economics 1	1	Topics in Economics 2	1			
							Topics in Management 1	1	Topics in Management 2	1			
							Topics in Politics and International Relations 1	1	Topics in Politics and International Relations 2	1			
								Industrial Organization	2				
								Trade Economics	2				
								Business and Society	2				
								Leadership and Organization 1	1				
								Principles of Marketing(a)	4				
								Principles of Marketing(b-1)	1				
								Intermediate Macroeconomics 1	1				
Approved courses* 専攻指定科目 (28)				Academic Writing Workshop 2	1	Global Civics 2	2	Transnational Cultures 2	2	18	DP2		
				Academic Presentation Skills 2	1	Survey of Comparative Politics 2	2	Peace Studies 2	2				
						Survey of Futures Studies 2	2	Topics in Foreign Policy and Diplomacy 2	2				
						Survey of Political Ideas 2	2	Topics in Technology & Society	2				
		37		35		32		20	124				

*卒業に必要な単位数を超えて修得した専攻基礎科目及び専攻専門科目、全学対象科目

【経済経営学(EM)専攻 履修モデル】 <バラレル・ディグリー・プログラムを履修しない学生用の履修モデル>

太字は必修科目。

		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	合計	対応するDP
General Education courses 総合科目 (20)	A. Digital Media Training		2	A. Information Technology and Global Communication	2					20	DP2.自然科学、人文科学、社会科学にまたがる学際的な知識・教養・実践力を身につけ、卒業後も知的な好奇心をもって学び続ける力を有していること
	B. Introduction to Race, Ethnicity and Nation		2	B. Japan in the Modern World or Introduction to Race, Ethnicity and Nation	2						
	C. Introduction to Human Rights		2	C. Introduction to Gender and Sexuality Studies	2						
	D. Global Environmental Issues		2	D. Introduction to Human Geography	2						
	E. スポーツ実践		1	E. スポーツ実践	1						
	F. Career Design in a Global Age		2								
Foreign Language 外国語 (8)		English I [RW] English I [SL]	5	English II [RW] English II [SL]	3					8	DP3.多文化環境の様々な場面において英語を駆使する力を身につけていること
Foundation courses 基礎科目 (12)	Intra-School Foundation courses 学部共通科目 (6)	Intensive English Proficiency Test Practicum A	2							10	
		Intensive English Proficiency Test Practicum B	2								
		Introduction to Critical Thinking	2								
		Introduction to Global History 2	2								
	EM Foundation courses EM専攻科目 (6)	Mathematics for Economics	2	Data Analysis: Techniques and Methods	2					10	
		Introduction to Accounting	2	Introduction to Management	2						
Specialized courses 専門科目 (36)	Intra-School Specialized courses(10) 学部共通科目			Introduction to Economics (a)	4			Capstone Project Seminar	2	10	DP6.ゼミナールで主体的に学ぶなかで、自らの見解や意見を人にわかりやすく伝え、また他者の意見に耳を傾け、協働の精神をもって生産的な議論を行う態度と力を身につけていること
							Capstone Project	4			
	EM Specialized courses (seminar) 専攻専門ゼミ (6)			Economics and Management Seminar 1(a)	1	Economics and Management Seminar 1(b)	1	Economics and Management Seminar 3(b)	1	6	
					Economics and Management Seminar 2	2					
					Economics and Management Seminar 3(a)	1					
	EM Specialized courses EM専攻科目 (20)			Development Economics 1	1	Development Economics 2	1	Leadership and Organization 2	1	32	DP5.情報収集を効果的にし、有用な情報を得るとともに、データや資料をもとに知的創造力を発揮し、問題発見・課題解決に至る力を身につけていること
				Environmental Economics 1	1	Environmental Economics 2	1	International Finance	2		
				Comparative Politics 1	1	Comparative Politics 2	1	Intermediate Macroeconomics 2	1		
				Organization Behavior 1	1	Organization Behavior 2	1	Data Research in Economics 2	1		
				Topics in Economics 1	1	Topics in Economics 2	1				
				Topics in Management 1	1	Topics in Management 2	1				
				Topics in Politics and International Relations 1	1	Topics in Politics and International Relations 2	1				
						Industrial Organization	2				
						Trade Economics	2				
					Business and Society	2					
					Leadership and Organization 1	1					
Approved courses* 専攻指定科目 (28)	Language Learning Strategies 2	1	Academic Writing Workshop 2	1	Global Literatures in English 2	2	Communication Studies 2	2	28	DP2	
	English Performance 2	1	Academic Presentation Skills 2	1	Global Civics 2	2	Transnational Cultures 2	2			
	Survey of Global Studies 2	2			Survey of Comparative Politics 2	2	Peace Studies 2	2			
	Survey of Transcultural Studies 2	2			Survey of Futures Studies 2	2	Topics in Foreign Policy and Diplomacy 2	2			
					Survey of Political Ideas 2	2	Cultural Representations 2	2			
		36		32		34		22	124		

*卒業に必要な単位数を超えて修得した専攻基礎科目及び専攻専門科目、全学対象科目

【グローバルスタディーズ(GS)専攻 履修モデル】 <Global Relations の履修モデル>

太字は必修科目。

		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	合計	対応するDP
General Education courses 総合科目 (20)		A. Digital Media Training	2	A. Information Technology and Global Communication	2					20	DP2.自然科学、人文科学、社会科学にまたがる学際的な知識・教養・実践力を身につけ、卒業後も知的な好奇心をもって学び続ける力を有していること
		B. Introduction to Race, Ethnicity and Nation	2								
				C. Introduction to Human Rights	2						
				C. 現代社会と政治	2						
		D. Global Environmental Issues	2	D. Introduction to Human Geography	2						
		E. スポーツ実践(フットサル)	1	E. Introduction to Personal Health and Wellness	2						
		E. スポーツ実践(バドミントン)	1								
	F. Career Design in a Global Age	2									
Foreign Language 外国語科目 (14)		English I [RW] English I [SL]	6	English II [RW] English II [SL]	6					14	DP3.多文化環境の様々な場面において英語を駆使する力を身につけていること
		スペイン語入門 1	1								
		スペイン語入門 2	1								
Foundation courses 基礎科目(22)	Intra-School Foundation courses 学部共通科目 (10)	Language Proficiency Test Preparation 1&2	2	Transnational Issues 1&2	4	Global Service Learning C2	4			16	DP4.グローバルな視点から世界の課題を捉え、国際社会に貢献する能力を身につけていること
		Introduction to Critical Thinking	2								
		Introduction to Global History 1&2	4								
	GS Foundation courses GS専攻科目 (12)	Survey of Global Studies 1&2	4			Digital Media Training (Intermediate)1&2	2			16	DP6.ゼミナールで主体的に学んで、自らの見解や意見を人にわかりやすく伝え、また他者の意見を耳を傾け、協働の精神をもって生産的な議論を行う態度と力を身につけていること
		Survey of Transcultural Studies 1&2	4	Translation and Interpretation Practicum 1&2	2						
		Global Studies 1st-Year Seminar 1&2	4								
Specialized courses 専門科目 (40)	Intra-School Specialized courses 学部共通科目 (6)			Introduction to Economics (a)	4			Capstone Project Seminar	2	10	DP5.情報収集を効果的に行い有用な情報を得るとともに、データや資料をもとに知的創造力を発揮し、問題発見・課題解決に至る力を身につけていること
								Capstone Project	4		
	GS Specialized courses GS専攻科目 (34)			Global Studies Seminar 1&2	4	Global Studies Seminar 1&2	4	Capstone Project Pre-Seminar	2	36	DP5.情報収集を効果的に行い有用な情報を得るとともに、データや資料をもとに知的創造力を発揮し、問題発見・課題解決に至る力を身につけていること
				Topics in Foreign Policy and Diplomacy 1&2	4	Global Civics 1	2	Global Civics 2	2		
				Survey of Futures Studies 1&2	4	Peace Studies 1&2	4				
				Cultural Representations 1&2	4	Japanese History in Global Perspective 1	2				
						Survey of Political Ideas 1&2	4				
Approved courses* 専攻指定科目 (28)		グローバル・リーダーシップ養成講座1&2	4	アメリカ史1	2	Japan and International Society	4	Politics in Asia	2	12	DP2
			42		44		26		12	124	

*卒業に必要な単位数を超えて修得した専攻基礎科目及び専攻専門科目、全学対象科目

【グローバルスタディーズ(GS)専攻 履修モデル】 <Global Communcation Studiesの履修モデル>

太字は必修科目。

		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	合計	対応するDP
General Education courses 総合科目 (20)		A. Digital Media Training	2	A. Information Technology and Global Communication	2					20	DP2.自然科学、人文科学、社会科学にまたがる学際的な知識・教養・実践力を身につけ、卒業後も知的好奇心をもって学び続ける力を有していること
				A. メディアと社会	2						
		B. Japan in the Modern World	2								
				C. Introduction to Human Rights	2						
		D. Global Environmental Issues	2	D. Introduction to Human Geography	2						
		E. スポーツ実践(バレーボール)	1	E. Introduction to Personal Health and Wellness	2						
		E. スポーツ実践(バドミントン)	1								
	F. Career Design in a Global Age	2									
Foreign Language 外国語科目 (14)		English I [RW] English I [SL]	6	English II [RW] English II [SL]	6					14	DP3.多文化環境の様々な場面において英語を駆使する力を身につけていること
Foundation courses 基礎科目(22)	Intra-School Foundation courses 学部共通科目 (10)	Language Proficiency Test Preparation 1&2	2	Transnational Issues 1&2	4	Global Service Learning B1	2			11	DP4.グローバルな環境と政治としての関係、本から世界に問いかける社会と文化の間
		Introduction to Critical Thinking	2								
				Global Service Learning A2	1						
	GS Foundation courses GS専攻科目 (12)	Survey of Global Studies 1&2	4			Digital Media Training (Intermediate) 1&2	2	Academic Writing Workshop 1	1	23	DP6.ゼミナルで主体的に学ぶなかで、自らの見解や意見を人にわかりやすく伝え、また他者の意見に耳を傾け、協働の精神をもって生産的な議論を行う態度と力を身につけていること
		Survey of Transcultural Studies 1&2	4	Translation and Interpretation Practicum 1&2	2	Global Research Skills 1&2	2				
	Global Studies 1st-Year Seminar 1&2	4	English Performance 1&2	2							
	Language Learning Strategies 1&2	2									
Specialized courses 専門科目 (40)	Intra-School Specialized courses 学部共通科目 (6)						Capstone Project Seminar	2	6	DP5.情報収集を効果的に行い有用な情報を得るとともに、データや資料をもとに知的創造力を発揮し、問題発見・課題解決に至る力を身につけていること	
							Capstone Project	4			
	GS Specialized courses GS専攻科目 (34)			Global Studies Seminar 1&2	4	Global Studies Seminar 1&2	4	Capstone Project Pre-Seminar	2	42	
						Survey of Futures Studies 1&2	4				
				Communication Studies 1&2	4	Media Communications 1&2	4	World Englishes 1&2	4		
				Second Language Studies 1&2	4	Language and Communication Barriers 1&2	4				
		Cultural Representations 1&2	4	Transnational Cultures 1&2	4						
Approved courses* 専攻指定科目 (28)		インターカルチュラルスキル養成講座 1&2	4			Survey of Global Media and Communication	2			8	DP2
						英語教育学 1	2				
			40		41		30			13	124

*卒業に必要な単位数を超えて修得した専攻基礎科目及び専攻専門科目、全学対象科目

【グローバルスタディーズ(GS)専攻 履修モデル】 <Global Cultural Studiesの履修モデル>

太字は必修科目。

		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	合計	対応するDP	
General Education courses 総合科目 (20)		A. Digital Media Training	2	A. Information Technology and Global Communication	2					20	DP2.自然科学、人文科学、社会科学にまたがる学際的な知識・教養・実践力を身につけ、卒業後も知的好奇心をもって学び続ける力を有していること	
		B. Japan in the Modern World	2	B. Introduction to Race, Ethnicity and Nation	2							
		C. Introduction to Gender and Sexuality Studies	2	C. Introduction to Human Rights	2							
		D. Global Environmental Issues	2									
				E. Introduction to Personal Health and Wellness	2							
		F. Career Design in a Global Age	2									
Foreign Language 外国語科目 (14)		English I [RW] English I [SL]	6	English II [RW] English II [SL]	6					14	DP3.多文化環境の様々な場面において英語を駆使する力を身につけていること	
Foundation courses 基礎科目(22)	Intra-School Foundation courses 学部共通科目 (10)	Language Proficiency Test Preparation 1&2	2	Introduction to Global History 1&2	4					10	DP4.グローバル化のなかで、学問・学びの環境として、グローバルな視点から世界を捉え、国際的な課題を解決する力を持っていること	
		Introduction to Critical Thinking	2									
					Global Service Learning B2	2						
	GS Foundation courses GS専攻科目 (12)	Survey of Global Studies 1&2	4								20	DP6.ゼミナールで主体的に学ぶなかで、自らの見解や意見を人にわかりやすく伝え、また他者の意見に耳を傾け、協働の精神をもって生産的な議論を行う態度と力を身につけていること
Survey of Transcultural Studies 1&2		4	Creative Writing Workshop 1&2	2	Global Research Skills 1&2	2	Academic Presentation Skills 1&2	2				
Specialized courses 専門科目 (40)	Intra-School Specialized courses 学部共通科目 (6)							Capstone Project Seminar	2	6	DP5.情報収集を効果的に行い有用な情報を得るとともに、データや資料をもとに知的創造力を発揮し、問題発見・課題解決に至る力を身につけていること	
								Capstone Project	4			
	GS Specialized courses GS専攻科目 (34)				Global Studies Seminar 1&2	4	Global Studies Seminar 1&2	4	Capstone Project Pre-Seminar	2	40	DP5.情報収集を効果的に行い有用な情報を得るとともに、データや資料をもとに知的創造力を発揮し、問題発見・課題解決に至る力を身につけていること
					Communication Studies 1&2	4						
					Global Literatures in English 1&2	4	Translation and Interpretation Studies 1&2	4	Topics in Japanese Culture 1	2		
					Cultural Representations 1&2	4	Diversity in Stories and Societies 1&2	4				
					Japanese Studies 1&2	4	Transnational Cultures 1&2	4				
Approved courses* 専攻指定科目 (28)		日本の社会と文化 1&2	4			Survey of Japanese Literature	4	Survey in Comparative Literatures	2	14	DP2	
						Topics in Gender and Sexuality	4					
			40		42		28		14	124		

*卒業に必要な単位数を超えて修得した専攻基礎科目及び専攻専門科目、全学対象科目

DP1.総合科目・外国語科目・専門科目の科目区分を包摂するリベラルアーツの精神に従い、幅広くかつ深く学ぶ態度を身につけていること

DP4.グローバル化のなかで、学問・学びの環境として、グローバルな視点から世界を捉え、国際的な課題を解決する力を持っていること

DP5.情報収集を効果的に行い有用な情報を得るとともに、データや資料をもとに知的創造力を発揮し、問題発見・課題解決に至る力を身につけていること

DP6.ゼミナールで主体的に学ぶなかで、自らの見解や意見を人にわかりやすく伝え、また他者の意見に耳を傾け、協働の精神をもって生産的な議論を行う態度と力を身につけていること

DP2.自然科学、人文科学、社会科学にまたがる学際的な知識・教養・実践力を身につけ、卒業後も知的好奇心をもって学び続ける力を有していること

DP3.多文化環境の様々な場面において英語を駆使する力を身につけていること

資料9 Global Service Learning 派遣先一覧

プログラム名	実習施設名	所在地	受入可能人数
マイクロファイナンス	Khemara	カンボジア	8
チャイルドケア	Home of Hope	カンボジア	30
チャイルドケア	San Remigio Central School-Kindergarten A	フィリピン	20
公衆衛生	Medicine & Healthcare project	フィリピン	
英語教育	Nava Suryodaya English Secondary School	ネパール	12
被災地復興	Building Placements	ネパール	30

資料10 外国語現地実習・Intensive English Proficiency Test Practicum A・B派遣先一覧

実習施設名	所在地	受入可能人数
ケント大学	イギリス	派遣先と事前協議の上、 決定
ペース大学	アメリカ	
SMEAG	フィリピン	
ディーキン大学	オーストラリア	
パッサウ大学	ドイツ	
マルティン・ルター大学ハレ・ヴィッテンベルク	ドイツ	
CDC (カール・デュイスベルク・ツェントレン)	ドイツ	
トゥーレーヌ学院	フランス	
国立政治大学	台湾	
西安外国語大学	中国	
高麗大学校	韓国	
延世大学校	韓国	

インターンシップ派遣先(2018～2020年度)

事業体名	受入可能人数
IMSグループ 板橋中央総合病院	2
IMSグループ新松戸中央総合病院	4
共同印刷(株)	1
東武グループ	2
太陽ファルマ(株)	2
(株)大林組	1
SMBC日興証券(株)	2
立花証券(株)	2
水戸証券(株)	1
(株)日本総研情報サービス	1
朝日信用金庫	1
城南信用金庫	1
城北信用金庫	1
巣鴨信用金庫	3
西武信用金庫	1
(株)エービーシー商会	1
(株)イトワールド海渡	1
(株)メディセオ	2
(株)友和	1
渡辺パイプ(株)	1
加藤産業(株)	2
(株)オカムラ	1
(株)共立メンテナンス	2
三幸グループ	3
(株)紀伊國屋書店	1
(株)佐竹製作所	1
練馬区立リサイクルセンター	1
練馬区役所	6
サミット(株)	3
(株)東武百貨店	2
(株)丸広百貨店	1
東急住宅リース(株)	2
学校法人成蹊学園	1
(株)くらしの友	2
(株)日立ハイテクソリューションズ	2
(株)パソナグループ	2
カインズ(株)	1
しのはらプレスサービス(株)	1
トラスコ中山(株)	1
(株)ウチダシステムズ	1

① 資料名

資料 12:専任教員責任時間規程

資料 13:学校法人根津育英会武蔵学園教職員定年規程

資料 14:武蔵大学非常勤講師就業規則

資料 15:定年を超えた大学教員の再雇用に関する規程

資料 16:武蔵学園特別招聘教員に関する規程

② その他の説明

人事に関する規程を記載している。

人事に関する規程については、大学公式 HP には公表しない。

2019年度 武蔵大学 教室規模別 教室稼働率

<武蔵大学算出前提>

1. 授業のみの稼働時間で算出。授業以外(課外活動、行事、外部貸出等)は含まない。

学期	教室規模	教室数	曜日別の割合(%)						前後学期 平均
			月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	月～金の 平均	
前学期	ゼミ室(36人以下)	60	14%	22%	17%	18%	19%	18%	18%
	小教室(24人～79人。語学教室含)	29	50%	54%	53%	44%	42%	49%	49%
	中教室(80人～150人)	10	24%	36%	36%	28%	36%	32%	31%
	大教室(151人以上)	10	32%	16%	20%	10%	16%	19%	19%
	合計	109	26%	31%	29%	25%	26%	27%	27%
後学期	ゼミ室(36人以下)	60	14%	22%	17%	18%	19%	18%	18%
	小教室(24人～79人。語学教室含)	29	50%	48%	52%	47%	46%	49%	49%
	中教室(80人～150人)	10	16%	30%	50%	25%	32%	31%	31%
	大教室(151人以上)	10	18%	32%	20%	8%	14%	19%	19%
	合計	109	24%	31%	30%	25%	27%	27%	27%

※卒業論文ゼミナール、集中授業、実習・実技科目等の、大学体育館、大学プール、武道場、教職課程ラーニングコモンズルーム、GSルーム、トレーニングルームを使用し、上記に区分されている教室を使用しない科目は集計から除外している。

※曜日別の割合の算出方法は、教室規模ごとの各曜日1～5時限(木曜日のみ4時限まで)までに使用している教室数÷教室規模ごとの教室数×5時限分(木曜日のみ4時限)

例:

月曜日に使用しているゼミ室の総数80(1時限10教室+2時限25教室+3時限15教室+4時限15教室+5時限15教室)÷(ゼミ室60(教室規模ごとの教室総数)×5時限分)=26.666・・・(小数点第2位を四捨五入して算出)

国際教養学部の必須図書等の一例

〔学部共通〕 オンラインジャーナル等

No	タイトル
1	EBSCOhost
2	Academic Search Complete
3	Oxford University Press ARCHIVE JOURNAL COLLECTION
4	JSTOR
5	EconLit with full text (The American Economic Association)

〔経済経営学専攻〕

No	タイトル／著者名等
1	International economics : theory & policy／Paul R. Krugman, Maurice Obstfeld, Marc J. Melitz／11th ed., global ed／Harlow ; Tokyo : Pearson, c2018 【ISBN 9781292214870】
2	Macroeconomics / N. Gregory Mankiw / 10th ed / New York : Worth Publishers, c2019 【ISBN 9781319105990】
3	Macroeconomics / Olivier Blanchard / 7th ed / Upper Saddle River, N.J.: Prentice Hall, 2017 【ISBN 9780133780581】
4	Macroeconomics / Rudiger Dornbusch, Stanley Fischer, Richard Startz / 13th ed / New York : McGraw-Hill Education , c2018 【ISBN 9781259290633】
5	Organizational behavior / Stephen P. Robbins, Timothy A. Judge / 9th ed / Boston ; Tokyo : Pearson , c2001 【ISBN 0130166804】
6	Principles of marketing / Philip Kotler, Gary Armstrong / 17th ed / Upper Saddle River, N.J. : Pearson , c2018 【ISBN 9781292220178】
7	Economic approaches to organizations / Sytse Douma, Hein Schreuder / 4th ed / Harlow, Essex ; Tokyo : Financial Times Prentice Hall , 2008 【ISBN 9780273681977】
8	Development economics / Debraj Ray / Princeton, N.J. : Princeton University Press , c1998 【ISBN 0691017069】

9	Business analytics : data analysis and decision making / S. Christian Albright, Wayne L. Winston / 6th ed / Boston, Mass. : Cengage Learning , [2016], c2017 【ISBN 9781305947542】
10	An introduction to statistical learning : with applications in R Gareth James , Daniela Witten , Trevor Hastie , Robert Tibshirani / New York : Springer , c2013 【ISBN 9781461471370】
11	A first course in machine learning / Simon Rogers, Mark Girolami / 2nd ed / Boca Raton : CRC Press / Taylor & Francis , c2017 【ISBN 9781498738484】
12	The globalization of world politics : an introduction to international relations / John Baylis , Steve Smith, Patricia Owens / 7th ed / Oxford : Oxford University Press , c2017 【ISBN 9780198739852】
13	Global political economy / edited by John Ravenhill / 5th ed / Oxford : Oxford University Press , c2014 【ISBN 9780198737469】
14	Global political economy : evolution & dynamics / Robert O'Brien & Marc Williams / London : Macmillan International Higher Education : Red Globe Press , 2004 【ISBN 0333689623】
15	Super crunchers : why thinking-by-numbers is the new way to be smart / Ian Ayres / New York : Bantam Books , 2007 【ISBN 9780553805406】
16	Naked statistics : stripping the dread from the data / Charles Wheelan / New York : W.W. Norton & Company , 2014 【ISBN 9780393347777】
17	Think like a freak : the authors of Freakonomics offer to retrain your brain / Steven D. Levitt & Stephen J. Dubner / Toront : Harper Perennial , 2015 【ISBN 9781443416528】
18	Financial accounting : with international financial reporting standards / Jerry J. Weygandt, Paul D. Kimmel, Donald E. Kieso / 4th ed / Hoboken, N.J. : Wiley , c2019 【ISBN 9781119504306】
19	Intermediate accounting / Donald E. Kieso, Jerry J. Weygandt, Terry D. Warfield / IFRS ed / Hoboken N.J. : Wiley , c2011 【ISBN 9780470616307】
20	Business analysis and valuation / Krishna G. Palepu, Paul M. Healy, Erik Peek / 5th ed., IFRS standards ed / Andover : Cengage Learning , c2019 【ISBN 9781473758421】

[グローバルスタディーズ専攻]

No	タイトル／著者名等
1	Introduction to international & global studies / Shawn Smallman, Kimberley Brown / 2nd ed / Chapel Hill : University of North Carolina Press , c2015 【ISBN 9781469621654】
2	The global turn : theories, research designs, and methods for global studies / Eve Darian-Smith and Philip C. McCarty / Oakland : University of California Press , c2017 / 【ISBN 9780520293038】
3	Introduction to global studies / John McCormick / London : Macmillan International Higher Education : Red Globe Press , 2018 【ISBN 9781352003994】
4	Religions in Japan : Buddhism, Shinto, Christianity : from the report prepared by the Religions and Cultural Resources Division, Civil Information and Education Section, General Headquarters of the Supreme Commander for the Allied Powers, Tokyo, March 1948 / under the editorial direction of William K. Bunce / [Whitefish, Mont.] : [Literary Licensing] , [2011] 【ISBN 9781258038366】
5	Routledge international handbook of migration studies / edited by Steven J. Gold and Stephanie J. Nawyn / Abingdon : Routledge , 2013 【ISBN 9780415779722】
6	The Oxford encyclopedia of religion in America / editor in chief, John Corrigan / 1st ed / New York : Oxford University Press , 2018 【ISBN 9780190456160】
7	A modern history of Japan : from Tokugawa times to the present / Andrew Gordon / New York ; Tokyo : Oxford University Press , 2003 【ISBN 9780195110609】
8	From restoration to occupation, 1868-1945 ; : cloth, : pbk Columbia University Press, 2005. -- (Modern Asian literature series . The Columbia anthology of modern Japanese literature / edited by J. Thomas Rimer and Van C. Gessel ; v. 1). 【ISBN 9780231118606】

9	From 1945 to the present edited by J. Thomas Rimer and Van C. Gessel ; with additional selections by Amy Vladeck Heinrich and Hiroaki Sato, poetry editors ; : cloth. -- Columbia University Press, 2007. -- (Modern Asian literature series . The Columbia anthology of modern Japanese literature / edited by J. Thomas Rimer and Van C. Gessel ; v. 2). 【ISBN 9780231138048】
10	Text and the city : essays on Japanese modernity / Maeda Ai ; edited and with an introduction by James A. Fujii / Durham, N.C. : Duke University Press , 2004 【ISBN 0822333341】
11	Cosmopolitanism: Ethics in a World of Strangers / Kwame Anthony Appiah / Penguin UK, 2007 【ISBN 9780141027814】
12	Dignity in Adversity: Human Rights in Troubled Times / Seyla Benhabib / Cambridge, U.K. : Polity , 2011 【ISBN 9780745654423】
13	We Should All Be Feminists / Chimamanda Ngozi Adichie / Fourth Estate Ltd, 2014 【ISBN 0008115273】
14	The Norton anthology of world literature / Martin Puchner, general editor ; Suzanne Akbari ... [et al.] / Shorter 4th ed / New York : W.W. Norton , c2019 【ISBN 9780393602876】
15	What is world literature? / David Damrosch / Princeton : Princeton University Press , c2003 【ISBN 9780691049861】
16	Intercultural communication, identity, and social movements in the digital age / edited by Margaret U. D'Silva and Ahmet Atay / New York : Routledge , 2020 【ISBN 9781138303256】
17	Thinking through communication : an introduction to the study of human communication / Sarah Trenholm / 8th ed / New York : Routledge , 2018 / 【ISBN 9781138233904】
18	Communication mosaics : an introduction to the field of communication / Julia T Wood / 8th ed. / Boston : Cengage Learning , 2017 【ISBN 9781305403581】
19	Introducing language and intercultural communication / Jane Jackson / London : Routledge , 2014 【ISBN 9780415601993】
20	World Englishes : implications for international communication and English language teaching / Andy Kirkpatrick / Cambridge : Cambridge University Press , 2007 / 【ISBN 9780521616874】
21	Language learner autonomy : theory, practice and research / David Little, Leni Dam and Lienhard Legenhausen / Bristol ; Blue Ridge Summit : Multilingual Matters , c2017 【ISBN 9781783098583】

大学執行部会議規程

平成18年1月26日
大学協議会制定

改正	平成18年5月18日一部改正	平成23年3月10日一部改正
	平成26年5月15日一部改正	平成26年7月31日一部改正
	平成27年1月22日一部改正	2020年1月23日一部改正

(設置)

第1条 武蔵大学（以下「本学」という。）に大学執行部会議（以下「会議」という。）を置く。

(目的)

第2条 会議は、学長を補佐するための体制を整備すること等により、迅速、適切な意思決定及び業務の遂行を図り、もって本学の持続的発展に資することを目的とする。

(会議の構成)

第3条 会議は、次の者をもって構成する。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 学部長
- (4) 研究科委員長
- (5) 教務部長
- (6) 学生支援センター長
- (7) 学長補佐（学長が必要と認めた者）
- (8) 大学事務局長

2 学長は会議の議長となり、会議を招集し、主宰する。

3 学長は、必要があると認めるときは、会議の構成員以外の者の会議への出席を求める。

(会議の任務)

第4条 会議は、次の事項について審議する。

- (1) 大学の将来構想、中期計画、年次計画に関すること。
- (2) 教学に係わる重要事項に関すること。
- (3) 研究に係わる重要事項に関すること。
- (4) 学生支援に係わる重要事項に関すること。
- (5) 入学者選抜に係わる重要事項に関すること。
- (6) 大学の運営に係わる重要事項に関すること。
- (7) 大学協議会に付議する事項に関すること。
- (8) その他学長が必要があると認めた事項に関すること。

(所管)

第5条 この規程に関する所管部署は、大学企画室とする。

(改廃)

第6条 この規程の改廃は、大学協議会の審議を経て、学長が行う。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年6月1日から施行する。

附 則（抄）

(施行日)

1 この規程は、平成23年6月1日から施行する。

附 則（抄）

(施行日)

1 この規程は、平成26年6月1日から施行する。

附 則

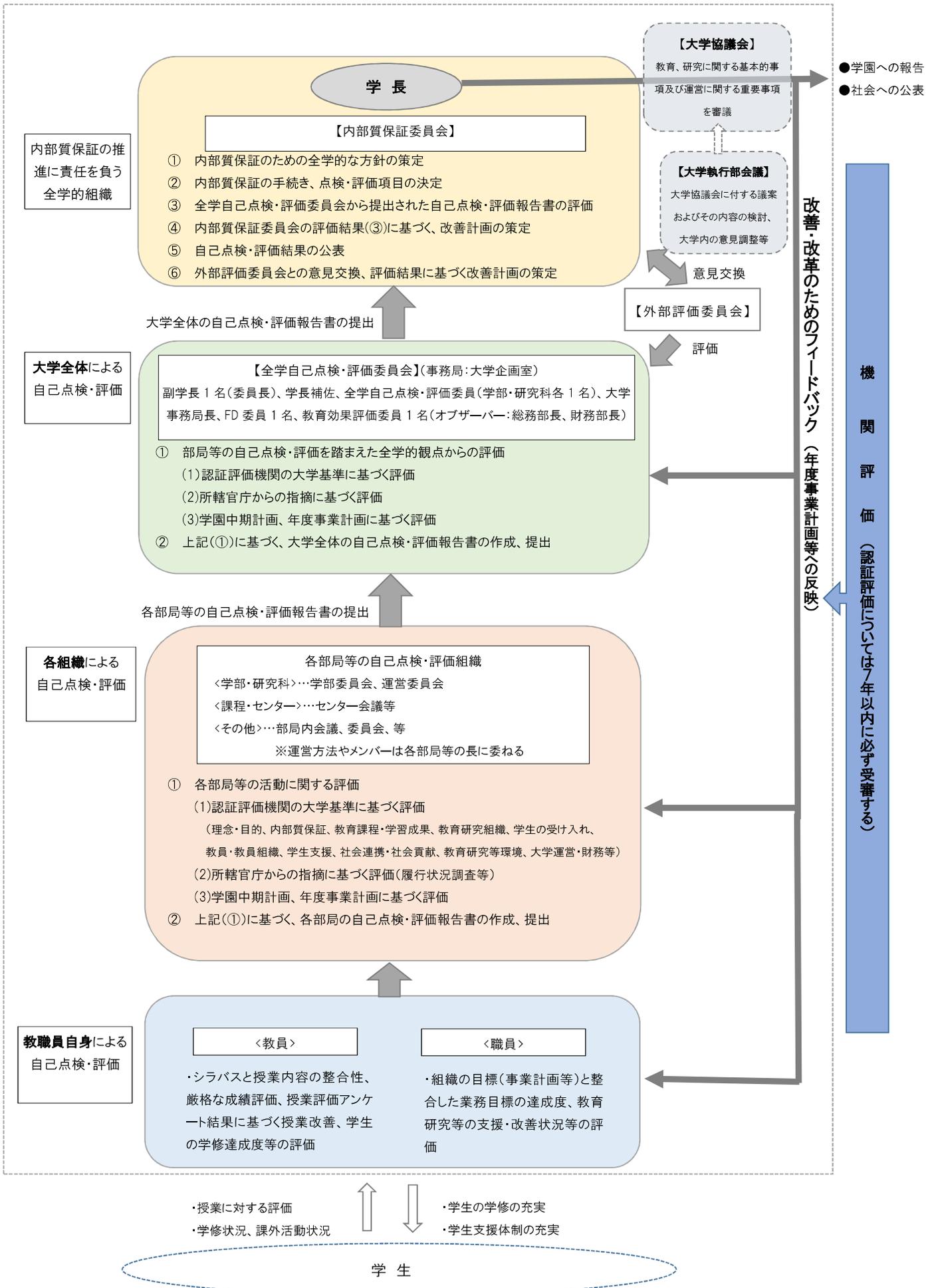
この規程は、平成26年7月31日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、2020年4月1日から施行する。



学校法人根津育英会武蔵学園 スタッフ・ディベロップメント(SD)計画

目指すべき教職員像

「21世紀の課題を担う国際人を育てる学校」(理事長ドクトリン)、
「世界に開かれたリベラルアーツの学園」(学園長プラン)を運営するために、
具体的な事業計画を立案し、遂行・達成できる教職員

対象

大学専任教員
専任事務職員

※事務嘱託員については、専任事務職員に準ずる。

計画策定の趣旨

大学運営の「一層の高度化」を図るため、教職員が一体となって行動し、魅力ある武蔵大学をつくりあげる

従来は、FD(教育改善・教育に関する職能開発)は教員中心、SD(大学運営に関する職能開発)は職員中心という区分でしたが、「大学設置基準等の一部を改正する省令の公布について」において、SDについても「教授等の教員や学長等の大学執行部」が含まれると明記され、内部質保証等も含めて大学運営の「一層の高度化」を図ることが求められています。

本学においては、従来から教員も様々な形で大学運営を担ってきましたが、今後は教員と職員、あるいは学部間、部署間の連携を一層深め、教職員が一体となって行動し、魅力ある武蔵大学をつくりあげていきましょう。

【参考】大学設置基準第42条の3(新設)

大学は、当該大学の教育研究活動等の適切かつ効果的な運営(*1)を図るため、その職員(*2)に必要な知識及び技能を習得させ、並びにその能力及び資質を向上させるための研修の機会を設けること(*3)その他必要な取組(*4)を行うものとする。

(*1)大学の運営そのものに資するためという趣旨

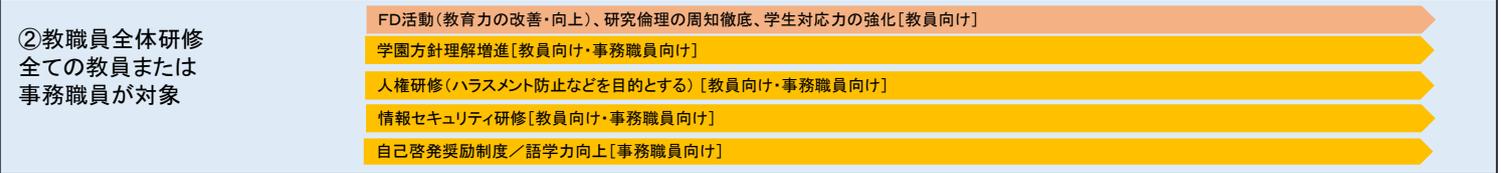
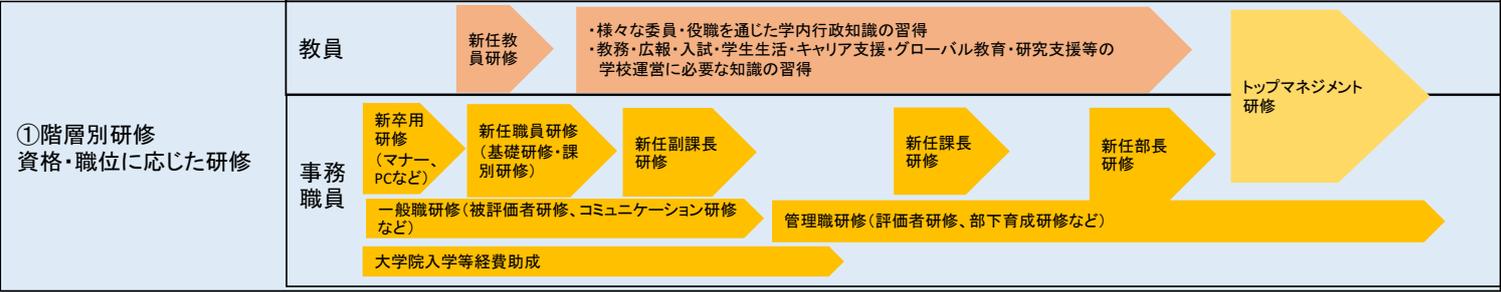
(*2)職員:教員も含む概念

(*3)外部資源も活用してよいということ

(*4)大学に合わせて施策を自由に設計してよい

また、研修だけでなく、異動・業績評価・処遇等の人事政策も組み合わせて取り組むということ

研修体系



主なキャリア支援プログラム (2019年度実績)

1・2 年生対象	4月	<ul style="list-style-type: none"> ○キャリア支援ガイダンス ○外国人留学生対象キャリア支援ガイダンス 	9月	<ul style="list-style-type: none"> ○業界研究講座(コンサルティング、IT、広告、航空、通信など) ○進路のヒント講座～社会人の先輩と話そう!～
	5月	<ul style="list-style-type: none"> ○ダイバーシティ講座～多様性と『私らしい』働き方～ ○ブラックバイトを見分けるために! 労働法座談会 	10月	<ul style="list-style-type: none"> ○グローバルな働き方セミナー(外資系企業・日系企業編) ○グローバルな働き方セミナー(国際機関編)
	6月	<ul style="list-style-type: none"> ○業界地図セミナー ○業界別働き方入門セミナー ○グループワーク体験セミナー ○「収支とライフスタイル」シミュレーション講座 	11月	<ul style="list-style-type: none"> ○U・Iターン就職ガイダンス ○就活サポーターによる個別相談会 ○外国人留学生対象:日本での就活セミナー ○『四季報』活用法講座
3 年生対象	4月	<ul style="list-style-type: none"> ○第1回キャリア支援ガイダンス 		<ul style="list-style-type: none"> ○U・Iターン就職ガイダンス ○就活サポーターによる個別相談会 ○SPI模擬試験 ○『四季報』活用法講座
	5月	<ul style="list-style-type: none"> ○ダイバーシティ講座～多様性と『私らしい』働き方～ ○就活ナビサイト利用法講座 ○就活キックオフセミナー 	11月	
	6月	<ul style="list-style-type: none"> ○業界地図セミナー ○業界別働き方入門セミナー ○グループワーク体験セミナー 	12月	<ul style="list-style-type: none"> ○新卒採用筆記試験の勉強法講座 ○面接対策講座 ○グループディスカッション体験講座 ○もう一度! エントリーシートの書き方講座 ○武蔵しごと塾～本番直前! 模擬面接トライアル～
	7月	<ul style="list-style-type: none"> ○SPI模擬試験 ○新卒採用筆記試験の勉強法講座 		
	9月	<ul style="list-style-type: none"> ○業界研究講座(コンサルティング、IT、広告、航空、通信など) ○全員面談 	1月	<ul style="list-style-type: none"> ○もう一度! 面接対策講座 ○第2回キャリア支援ガイダンス
	10月	<ul style="list-style-type: none"> ○グローバルな働き方セミナー(外資系企業・日系企業編) ○グローバルな働き方セミナー(国際機関編) ○エントリーシートの書き方講座 	3月	<ul style="list-style-type: none"> ○学内企業説明会
4 年生対象	4月	<ul style="list-style-type: none"> ○キャリア支援ガイダンス ○学内企業説明会(4月以降随時開催) 	9月	<ul style="list-style-type: none"> ○第1回進路状況ヒアリング
	5月	<ul style="list-style-type: none"> ○パワーチャージ講座 	11月	<ul style="list-style-type: none"> ○第2回進路状況ヒアリング
公務員 志望対象	3年生			
	4月	<ul style="list-style-type: none"> ○公務員志望者向けガイダンス 	11月	<ul style="list-style-type: none"> ○合格4年生に聞く! 個別相談会
	5月	<ul style="list-style-type: none"> ○公務員志望者向けキックオフセミナー 	12月	<ul style="list-style-type: none"> ○学内官公庁説明会 ○公務員OBOGとの座談会
	10月	<ul style="list-style-type: none"> ○国家公務員志望者対象人事院ワークショップ 	3月	<ul style="list-style-type: none"> ○職場見学会
	4年生			
	4月	<ul style="list-style-type: none"> ○公務員OBOGとの座談会 		
	6月	<ul style="list-style-type: none"> ○面接練習強化ウィーク ○グループディスカッション体験講座 		

※このキャリア支援プログラムは2019年度実績です。採用選考スケジュールや就職環境に応じて、支援プログラムの内容は毎年変更します。

2020年度の詳細はキャリア支援センターからの告知で確認してください。

※個別相談は、学年・時期を問わず、いつでも利用することができます。